授業内容

一級自動車整備専攻科

科目名を押すと、その科目のページが開きます。

1年次前期	5
ＰＣ実習（学科）	5
ガソリン・エンジン構造１（学科）	6
シャシ構造１（学科）	10
一般教養（学科）	14
自動車法令（学科）	16
自動車力学（学科）	19
整備作業機器（学科）	22
測定機器（学科）	24
電気・磁気（学科）	26
電装品構造１（学科）	28
1年次後期	31
ＰＣ実習（学科）	31
ガソリン・エンジン構造１（学科）	32
ジーゼル・エンジン構造（学科）	36
シャシ構造１（学科）	39
一般教養（学科）	43
自動車法令（学科）	45
自動車力学（学科）	48
電気・磁気（学科）	52
電装品構造１（学科）	55
1年次実習	59
一年次 基本①実習 エンジン基礎・測定（実習）	59
一年次 基本①実習 エンジン電装品Ⅰ（実習）	63
一年次 基本①実習 シャシ駆動Ⅰ（実習）	67
一年次 基本①実習 手仕上げ・機械工作（実習）	71
一年次 基本②実習 エンジン構造（実習）	76
一年次 基本②実習 シャシ駆動Ⅱ（実習）	81
一年次 基本②実習 ブレーキ（実習）	87
一年次 基本②実習 二輪構造（実習）	92
一年次 基本③実習 エンジン電装品Ⅱ（実習）	97
一年次 基本③実習 ガソリンエンジン燃料装置（実習）	103
一年次 基本③実習 サスペンション（実習）	109
一年次 基本③実習 ステアリング装置（実習）	115
一年次 基本④実習 ジーゼルエンジン構造（実習）	121

一年次 基本④実習 制動倍力装置（実習） 126
一年次 基本④実習 多頻度作業（実習） 131
一年次 基本④実習 電子制御式燃料噴射装置Ⅰ（実習） 136
一年次 導入実習 自動車の基本構造Ⅰ（実習） 141
一年次 導入実習 自動車の基本構造Ⅱ（実習） 142
一年次 導入実習 自動車の材料（実習） 143
一年次 導入実習 車両取り扱い（実習） 144

2年次前期 145
ガソリンエンジン整備法１（学科） 145
ジーゼルエンジン整備法（学科） 149
シャシ整備法１（学科） 152
一般教養（学科） 156
検査機器（学科） 157
自動車検査（学科） 159
自動車力学（学科） 162
電装品整備法１（学科） 165
燃料・潤滑剤（学科） 169

2年次後期 173
ガソリンエンジン故障探究（学科） 173
ジーゼルエンジン故障探究（学科） 175
シャシ故障探究（学科） 177
自動車検査（学科） 182
自動車材料（学科） 184
自動車力学（学科） 186
図面（学科） 189
電装品故障探究（学科） 191

2年次実習 193
二年次 応用①実習 １２ヶ月定期点検（実習） 193
二年次 応用①実習 オートマチック・トランスミッション構造（実習） 197
二年次 応用①実習 ステアリング整備（実習） 201
二年次 応用①実習 電子制御式燃料噴射装置Ⅱ（実習） 205
二年次 応用②実習 ジーゼルエンジン燃料装置（実習） 209
二年次 応用②実習 ホイールアライメント（実習） 214
二年次 応用②実習 実践整備Ⅰ Ⅰ／Ｐ脱着（実習） 219
二年次 応用②実習 実践整備Ⅱ エンジン脱着（実習） 224
二年次 応用②実習 全体実習（定期点検）（実習） 229
二年次 応用③実習 ２４ヶ月定期点検（実習） 233
二年次 応用③実習 実践整備Ⅲ Ａ／Ｔ（実習） 239
二年次 応用③実習 実践整備Ⅳ エンジン（ヘッド）Ｏ／Ｈ（実習） 245

二年次 応用③実習 大型・特殊機構（実習） 251
二年次 応用④実習 ガソリンエンジン故障探究（実習） 257
二年次 応用④実習 ジーゼルエンジン故障探究（実習） 259
二年次 応用④実習 シャシ故障探究（実習） 261
二年次 応用④実習 電装品故障探究（実習） 263

3年次前期 265
エンジン新技術（学科） 265
エンジン整備技術（学科） 267
シャシ新技術（学科） 271
シャシ整備技術（学科） 273
一般教養（学科） 277
環境保全（学科） 279
故障診断（学科） 281
自動車力学（学科） 284
整備作業機器（学科） 285
総合診断（学科） 286
電気・電子回路（学科） 287
電装品整備技術（学科） 289

3年次後期 290
エンジン新技術（学科） 290
エンジン整備技術（学科） 292
シャシ新技術（学科） 297
シャシ整備技術（学科） 299
安全管理（学科） 304
一般教養（学科） 306
検査機器（学科） 308
故障診断（学科） 309
自動車検査（学科） 312
自動車材料（学科） 314
自動車法令（学科） 315
自動車力学（学科） 317
図面（学科） 318
総合診断（学科） 319
測定機器（学科） 321
電気・電子回路（学科） 322
電装品整備技術（学科） 324
燃料・潤滑剤（学科） 326

3年次実習 327
三年次 探究①実習 研究製作（実習） 327

三年次 探究②実習 エンジン新機構（実習） 345
三年次 探究②実習 シャシ新機構（実習） 355
三年次 探究②実習 応用計測（実習） 362
三年次 探究③実習 エンジン構造（実習） 365
三年次 探究③実習 エンジン電子制御（実習） 373
三年次 探究③実習 駆動装置（実習） 381
三年次 探究④実習 シャシ構造（実習） 389
三年次 探究④実習 定期点検（実習） 397
三年次 探究④実習 電装品（実習） 405

4年次後期 413
エンジン新技術（学科） 413
エンジン整備技術（学科） 414
シャシ新技術（学科） 415
シャシ整備技術（学科） 416
安全管理（学科） 417
環境保全（学科） 418
故障診断（学科） 419
自動車検査（学科） 420
自動車法令（学科） 421
総合診断（学科） 422
電気・電子回路（学科） 423
電装品整備技術（学科） 424

4年次実習 425
四年次 実務①実習 故障原因探究Ⅰ（実習） 425
四年次 実務①実習 総合診断Ⅰ（実習） 427
四年次 実務①実習 定期点検Ⅰ（実習） 428
四年次 実務②実習 体験実習（インターンシップ）（実習） 430
四年次 実務③実習 故障原因探究Ⅱ（実習） 431
四年次 実務③実習 総合診断Ⅱ（実習） 434
四年次 実務③実習 定期点検Ⅱ（実習） 435
四年次 実務④実習 故障原因探究Ⅲ（実習） 436
四年次 実務④実習 故障原因探究Ⅳ（実習） 437

シラバス　一級自動車整備　科

講　義　名	＜学科＞　PC実習				
概要と目的	ビジネスソフトウェア(Word)の基本的な操作方法を習得する				
担　当　者	増田明仁	単位数	8時限 (9.6h)	区分	学科
実務経験					
講義対象	一年生	時　期	前期		
使用教材	PC　オリジナル教材				
到達目標	Wordの基本操作とビジネス文書が作成できる				
成績評価	期末試験・出欠点・平常点 A評価が全体の25%、B評価が45%、C評価が30%を基準とする。				
授業計画					
1 時限	導入と授業目的 Googleドキュメントのセットアップ				
2 時限	文字変換の方法と文書入力				
3 時限	ページ設定と文字装飾の方法				
4 時限	保存方法とネットワーク利用				
5 時限	ビジネス文書のレイアウト(社外文書と社外文書)				
6 時限	ビジネス文書作成実習 1				
7 時限	ビジネス文書作成実習 2				
8 時限	期末試験				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
あり	なし

シラバス　一級自動車整備　科

講　義　名	＜学科＞　一年次前期　ガソリン・エンジン構造1				
概要と目的	国家試験レベルの知識を身に付ける				
担　当　者	花岡　大輔	単位数	9 時限 (10.8h)	区分	学科
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員がガソリンエンジン構造について教育を行う科目。				
講義対象	一年生	時　期	4月～9月中旬		
使用教材	三級自動車ガソリン・エンジン、基礎自動車工学、プリント				
到達目標	ガソリン・エンジンの基本構造、基本原理の理解				
成績評価	期末試験・出欠点・平常点 A評価が全体の25%、B評価が45%、C評価が30%を基準とする。				

授業計画

1	内燃機関の概要　内燃機関の分類
2	理論サイクル（定容、低圧、複合）　P－V線図
3	点火・着火、燃料、冷却、ﾊﾞﾙﾌﾞ機構、シリンダ配列
4	4サイクル・ガソリン・エンジン　作動　バルブ・タイミング
5	バルブ・タイミングの練習問題（プリント）
6	燃焼　理論空燃比、熱効率、燃焼と圧力、ノッキング
7	排出ガスと対策　三元触媒、ブローバイ・ガス還元装置
8	試験前対策
伝達事項等	

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	あり

シラバス　二級自動車整備　科

講　義　名	＜学科＞　一年次前期　ガソリン・エンジン構造１				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
９	期末試験				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　一級自動車整備　科

講　義　名	＜学科＞　一年次前期　ガソリン・エンジン構造2				
概要と目的	国家試験レベルの知識を身に付ける				
担　当　者	霜田　大	単位数	9 時限 (10.8h)	区分	学科
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員がガソリンエンジン構造について教育を行う科目。				
講義対象	一年生	時　期	4月～9月中旬		
使用教材	三級ガソリン・エンジン、三級二輪、基礎自動車工学、プリント				
到達目標	三級レベルの燃料装置の理解				
成績評価	期末試験・出欠点・平常点 A評価が全体の25%、B評価が45%、C評価が30%を基準とする。				
授業計画					
1	ガソリン・エンジンとは、3要素、混合気とは、出力と混合気の関係 スロットル・バルブ開度とエンジン負荷、吸入空気量、INマニホールド圧力の関係				
2	混合気の作成（キャブレータ）				
3	電子制御式の燃料の流れ、インマニ圧力の変化と噴射量の差、				
4	プレッシャ・レギュレータ、ジェット・ポンプ				
5	電子制御装置の概要（構成）、電子制御式燃料噴射装置とは				
6	電子制御装置の構成部品の名称と役割				
7	電子制御装置の構成部品の名称と役割				
8	復習と補足説明（プリント）				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	あり

シラバス　二級自動車整備　科

講　義　名	＜学科＞　一年次前期　ガソリン・エンジン構造２				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
９	期末試験				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　一級自動車整備　科

講　義　名	＜学科＞　一年次前期　シャシ構造1				
概要と目的	国家試験レベルの知識を身に付ける				
担　当　者	花岡　大輔	単位数	10 時限 (12.0h)	区分	学科
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員がシャシ構造について教育を行う科目。				
講義対象	一年生	時　期	4月～9月中旬		
使用教材	基礎自動車工学、三級シャシ、三級二輪				
到達目標	三級レベルの駆動装置の理解				
成績評価	期末試験・出欠点・平常点 A評価が全体の25%、B評価が45%、C評価が30%を基準とする。				
授業計画					
1	シャシ1とは、駆動方式、動力伝達順序				
2	クラッチ概要（役割、種類、作動）				
3	クラッチまとめ（故障と原因など）				
4	トランスミッション構造作動				
5	トランスミッションまとめ				
6	デフ・ファイナル、プレロード、バックラッシュ				
7	トルクコンバーターの原理、オイルの流れ、動力伝達				
8	プラネタリ・ギヤ・ユニット				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	あり

シラバス　一級自動車整備　科

講　義　名	＜学科＞　一年次前期　シャシ構造1				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
9	演習、解説（プリント）				
10	期末試験				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　一級自動車整備　科

講　義　名	＜学科＞　一年次前期　シャシ構造2				
概要と目的	国家試験レベルの知識を身に付ける				
担　当　者	舟坂　義幸	単位数	14時限 (16.8h)	区分	学科
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員がシャシ構造について教育を行う科目。				
講義対象	一年生	時　期	4月～9月中旬		
使用教材	三級自動車シャシ、基礎自動車工学、プリント				
到達目標	ステアリング装置、ホイール及びタイヤの基礎知識を身に付ける				
成績評価	期末試験・出欠点・平常点 A評価が全体の25%、B評価が45%、C評価が30%を基準とする。				

授業計画

1	シャシ構造2の概要と導入 第4章　ステアリング装置の概要　各ホイールの切れ角
2	ステアリング操作機構　部品名称と役割 テレスコピック、チルトステアリングと衝撃吸収式
3	ステアリング・ギヤ機構　ギヤ比の必要性と計算、ラック・ピニオン型の作動 ラック・ピニオンの短所と長所
4	ステアリング・ギヤ機構　ボール・ナット型の名称と作動、可変ギヤ比型の必要性 2級問題の解答と解説（別プリント）
5	ステアリング・リンク機構　リンク機構の種類と名称 独立懸架式と車軸懸架式について　トーイン調整とステアリングの切れ角
6	パワー・安全管理ステアリング　パワー・ステアリングの種類と倍力機構 その他構成バルブ（フロー・コントロール、プレッシャ・リリーフ、セーフティ・チェック）の役割
7	ラック・ピニオン型パワーステアリング（ロータリ・バルブ式）の名称と作動 コントロール・バルブの動き、別プリントでの応用問題
8	ステアリング装置の整備　ラック・ピニオン型、ボール・ナット型の点検と修正 電動パワー・ステアリングの種類と作動
伝達事項等	

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	あり

シラバス　一級自動車整備　科

講　義　名	＜学科＞　一年次前期　シャシ構造2				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
9	第 5 章　ホイール及びタイヤの概要　役割と種類 ホイールの種類と構造　　ホイールの取付方式及び寸法、リムの呼称				
10	タイヤ　タイヤの役割 タイヤの構成部品（トレッドとカーカス）それぞれの長所と短所、プライ・レーティングについて				
11	タイヤの構成部品（ブレーカ、ベルト、ビード、チューブ、フラップ、バルブ） タイヤの種類（バイアスとラジアル、スノーとスタッドレス、応急用）				
12	タイヤの呼称　呼びと寸法の理解、偏平比の計算 摩耗限度表示　（スリップ・サイン、プラット・ホーム）				
13	タイヤに起こる異常現象　スタンディング・ウェーブ、ハイドロプレーニング ホイール・バランスの現象と点検修正と整備				
14	期末試験				
伝達事項等	2 年次に国家試験問題を再確認				

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　一級自動車整備　科

講　義　名	＜学科＞　一年次前期　一般教養				
概要と目的	社会人レベルのビジネス知識を身に付ける				
担　当　者	舟坂　義幸	単位数	11時限 (13.2h)	区分	学科
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員が一般教養について教育を行う科目。				
講義対象	一年生	時　期	4月～9月中旬		
使用教材	B検 3 級テキスト、プリント				
到達目標	ビジネス能力検定3級レベルの理解				
成績評価	期末試験・出欠点・平常点 A評価が全体の25%、B評価が45%、C評価が30%を基準とする。				
授業計画					
1 時限	ホームルーム，アンケート，社会人として				
2 時限	社会人，職業人としての自覚				
3 時限	働く意識，仕事への取り組み方				
4 時限	仕事の基本となる 8 つの意識				
5 時限	コミュニケーションの基本				
6 時限	マナー，挨拶，おじぎ				
7 時限	仕事中の態度と健康管理，基本ルール				
8 時限	作文の書き方（プリント）				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	あり

シラバス　二級自動車整備　科

講　義　名	＜学科＞　一年次前期　一般教養				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
9 時限	作文の書き方（プリント）				
10 時限	まとめ，練習問題（プリント）				
11 時限	期末試験				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　一級自動車整備　科

講　義　名	＜学科＞　一年次前期　自動車法令				
概要と目的	国家試験レベルの知識を身に付ける				
担　当　者	花岡　大輔	単位数	20 時限 (24.0h)	区分	学科
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員が自動車法令について教育を行う科目。				
講義対象	一年生	時　期	4月～9月中旬		
使用教材	法令教本				
到達目標	三級レベルの道路運送車両法の理解				
成績評価	期末試験・出欠点・平常点 A評価が全体の25%、B評価が45%、C評価が30%を基準とする。				
授業計画					
1 時限	自動車の種類、目的、定義				
2 時限	原付、軽車両、自動車の種別				
3 時限	自動車の種別				
4 時限	登録制度				
5 時限	登録の効力、自動車登録ファイル、新規登録の申請				
6 時限	新規登録事項、自動車登録番号標、封印				
7 時限	変更登録、移転登録				
8 時限	永久抹消登録、一時抹消登録				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	あり

シラバス　一級自動車整備　科

講　義　名	＜学科＞　一年次前期　自動車法令				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
9 時限	車台番号の打刻、譲渡証明書等				
10 時限	臨時運行の許可、回送運行				
11 時限	保安基準、点検整備制度				
12 時限	運行前点検				
13 時限	定期点検整備				
14 時限	定期点検整備(車種別)				
15 時限	点検整備記録簿				
16 時限	整備管理者、整備命令				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　一級自動車整備　科

講　義　名	＜学科＞　一年次前期　自動車法令				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
17 時限	対策プリント配布、実施				
18 時限	対策プリント解説				
19 時限	対策プリント解説				
20 時限	期末試験				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　一級自動車整備　科

講　義　名	＜学科＞　一年次前期　自動車力学				
概要と目的	国家試験レベルの知識を身に付ける				
担　当　者	霜田　大	単位数	18 時限 (21.6h)	区分	学科
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員が自動車力学について教育を行う科目。				
講義対象	一年生	時　期	4月～9月中旬		
使用教材	力学練習問題、力学復習問題（プリント）、計算と基礎と問題テキスト				
到達目標	自動車力学の基本知識を習得する				
成績評価	期末試験・出欠点・平常点 A評価が全体の25%、B評価が45%、C評価が30%を基準とする。				

授業計画

1 時限	導入 基礎計算確認テスト実施
2 時限	自動車力学基本知識（プリント） SI単位
3 時限	自動車力学基本知識 接頭語、速度
4 時限	自動車力学基本知識 円周、円の面積
5 時限	自動車力学基本知識　　円柱の体積 自動車力学練習問題①　単位換算
6 時限	自動車力学練習問題① 単位換算、基礎の計算
7 時限	自動車力学復習問題① 単位換算
8 時限	自動車力学練習問題② 速度、平均速度
伝達事項等	

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	あり

シラバス　一級自動車整備　科

講　義　名	＜学科＞　一年次前期　自動車力学				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
9 時限	自動車力学練習問題② 平均ピストン速度、回転体の周速度、加速度				
10 時限	自動車力学練習問題② 減速度				
11 時限	自動車力学練習問題② 速度計				
12 時限	自動車力学復習問題②				
13 時限	自動車力学復習問題② 自動車力学練習問題③　仕事				
14 時限	自動車力学練習問題③　仕事率 自動車力学練習問題④　トルク				
15 時限	自動車力学練習問題④　トルク 自動車力学復習問題④				
16 時限	自動車力学復習問題④				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　一級自動車整備　科

講　義　名	＜学科＞　一年次前期　自動車力学				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
17 時限	前期練習問題				
18 時限	期末試験				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　一級自動車整備　科

講　義　名	＜学科＞　一年次前期　整備作業機器				
概要と目的	国家試験レベルの知識を身に付ける				
担　当　者	霜田　大	単位数	15時限 (18h)	区分	学科
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員が整備作業機器について教育を行う科目。				
講義対象	一年生	時　期	4月～9月中旬		
使用教材	基礎自動車整備作業、基礎自動車工学				
到達目標	工具類の基本的取扱い方法の理解				
成績評価	期末試験・出欠点・平常点 A評価が全体の25%、B評価が45%、C評価が30%を基準とする。				
授業計画					
1 時限	整備の基礎知識（整備作業の目標、職場の労働安全、安全作業の心得）				
2 時限	整備工場から発生する公害、基礎整備作業 スパナ、モンキ・レンチ、めがねレンチ				
3 時限	ソケット・レンチ、ヘキサゴン・レンチ、パイプ・レンチ、トルク・レンチ				
4 時限	ドライバ、ハンマ、プライヤ、ギヤ・プーラ、ベアリング・プーラ、ギヤ・プーラ、 スライド・ハンマ				
5 時限	たがね、プレス、バイス、やすり、弓のこ、リーマ、ベンチ・グラインダ				
6 時限	ドリル、電気ドリル、卓上ボール盤、タップ、ダイス 充電作業				
7 時限	清掃、洗浄作業				
8 時限	給油作業、昇降作業、エア・コンプレッサ				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	あり

シラバス　二級自動車整備　科

講　義　名	＜学科＞　一年次前期　整備作業機器				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
9 時限	修正用器具（バルブ・シート・グラインダ、バルブ・シート・カッタ、他）				
10 時限	ねじ、スプリング、ベアリング、ギヤ　基礎自動車工学				
11 時限	ベアリング、ギヤ、ベルト及びプーリ、チェーン及びスプロケット 基礎自動車工学				
12 時限	練習問題（工具の名称、工具の役割と特徴、工学系）				
13 時限	対策プリント実施				
14 時限	対策プリント解説				
15 時限	期末試験				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　一級自動車整備　科

講　義　名	＜学科＞　一年次前期　測定機器				
概要と目的	国家試験レベルの知識を身に付ける				
担　当　者	花岡　大輔	単位数	15時限 (18h)	区分	学科
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員が測定機器について教育を行う科目。				
講義対象	一年生	時　期	4月～9月中旬		
使用教材	基礎自動車整備作業　三級自動車ガソリンエンジン 三級自動車シャシ				
到達目標	三級レベルの測定機器の取り扱い方法の理解				
成績評価	期末試験・出欠点・平常点 A評価が全体の25%、B評価が45%、C評価が30%を基準とする。				
授業計画					
1時限	導入　スケールの用途・取り扱い ノギス読み方　プリント使用				
2時限	ノギスの読み方の練習問題　プリント使用				
3時限	マイクロメータ読み方　　プリント使用 マイクロメータの読み方の練習問題　プリント使用				
4時限	ダイヤル・ゲージ用途及び取り扱い方法 シリンダ・ゲージ　ダイヤル・ゲージ付きトースカン				
5時限	シックネス・ゲージ　スパークプラグギャップゲージ　プラスチゲージ 定盤　Vブロック　スコヤ　ストレートエッジ				
6時限	エンジン点検作業 コンプレッションゲージ　バキュームゲージの用途・機能・取り扱い				
7時限	点火時期について タイミングライト　タコテスタ　電圧・電流計の用途・機能・取り扱い				
8時限	サーキットテスタ　バッテリクーラントテスタの用途・機能・取り扱い				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	あり

シラバス　二級自動車整備　科

講　義　名	＜学科＞　一年次前期　測定機器				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
9時限	バッテリテスタ　一酸化炭素・炭化水素測定器の用途・機能・取り扱い				
10 時限	粒子状物質測定器　燃圧計　ハンドバキュームポンプ 油圧計の用途・機能・取り扱い				
11 時限	カークーラサービスツール　オシロスコープ　外部診断器の用途・機能・取り扱い				
12 時限	シャシ点検作業 トーインゲージ キャンバキャスタキングピンゲージの用途・機能・取り扱い				
13 時限	タイヤゲージ　デプスゲージの用途・機能・取り扱い 期末試験対策　まとめプリント使用				
14 時限	期末試験対策　まとめプリント使用				
15 時限	期末試験				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　一級自動車整備　科

講　義　名	＜学科＞　一年次前期　電気･磁気				
概要と目的	国家試験レベルの知識を身に付ける				
担　当　者	舟坂　義幸	単位数	15時限 (18h)	区分	学科
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員が電気･磁気について教育を行う科目。				
講義対象	一年生	時　期	4月～9月中旬		
使用教材	基礎自動車工学、電装品構造				
到達目標	電気回路の基礎と三級レベルの理解				
成績評価	期末試験･出欠点･平常点 A評価が全体の25%、B評価が45%、C評価が30%を基準とする。				
授業計画					
1時限	電気とは、導体、不導体、半導体、静電気、電流				
2時限	電圧…電流を流す圧力 電気の三作用（概要と例）…熱作用、化学作用、磁気作用				
3時限	電源と起電力、直流と交流、電気抵抗				
4時限	電気抵抗続き…抵抗の違い　回路図の図記号…表作成				
5時限	電気記号の意味、電気回路作成				
6時限	合成抵抗の考え方、直列接続、並列接続				
7時限	復習（直列並列の合成抵抗の計算）、複合接続の合成抵抗の計算				
8時限	オームの法則、練習問題プリント実施、解答解説				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	あり

シラバス　二級自動車整備　科

講　義　名	＜学科＞　一年次前期　電気・磁気				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
9時限	オームの法則練習問題（プリント）				
10 時限	練習問題（プリント）、オームの法則、合成抵抗まとめ、電圧降下について				
11 時限	電力とは				
12 時限	コンデンサ、ヒューズ（ヒューズ、ヒュージブル・リンク、サーキット・ブレーカ）				
13 時限	半導体（ダイオード）、発光ダイオード 対策プリント、対策プリントその2…実施、解説				
14 時限	フォトダイオード、トランジスタ 対策プリント実施、解答・解説				
15 時限	期末試験				
16 時限					
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　一級自動車整備　科

講　義　名	＜学科＞　一年次前期　電装品構造1				
概要と目的	国家試験レベルの知識を身に付ける				
担　当　者	舟坂　義幸	単位数	18時限 (21.6h)	区分	学科
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員が電装品構造について教育を行う科目。				
講義対象	一年生	時期	4 月～9 月中旬		
使用教材	三級ガソリン、単体部品				
到達目標	三級レベルのバッテリ、始動装置の理解				
成績評価	期末試験・出欠点・平常点 A評価が全体の25%、B評価が45%、C評価が30%を基準とする。				
授業計画					
1 時限	エンジン電装品の種類、歴史				
2 時限	普通型バッテリの構造				
3 時限	普通型バッテリの構造				
4 時限	バッテリの種類　充電放電作用				
5 時限	バッテリの容量				
6 時限	バッテリの自己放電、整備、充電方法				
7 時限	バッテリの型式　通常バッテリ、アイドリングストップ専用バッテリ				
8 時限	整備				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	あり

シラバス　二級自動車整備　科

講　義　名	＜学科＞　一年次前期　電装品構造1				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
9 時限	整備				
10 時限	始動装置の概要、仕組み				
11 時限	始動装置の種類				
12 時限	始動装置の構造				
13 時限	始動装置の機能				
14 時限	始動装置の作動				
15 時限	マグネットスイッチの仕組み				
16 時限	始動装置の整備				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　二級自動車整備　科

講　義　名	＜学科＞　一年次前期　電装品構造1				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
17 時限	始動装置の復習プリント　バッテリ～始動装置のまとめ				
18 時限	期末試験				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　一級自動車整備　科

講　義　名	＜学科＞　PC実習				
概要と目的	ビジネスソフトウェア(Excel)の基本的な操作方法とインターネットの使い方				
担　当　者	増田明仁	単位数	8時限 (9.6h)	区分	学科
実務経験					
講義対象	一年生	時　期	後期		
使用教材	PC　オリジナル教材				
到達目標	表計算ソフトの基本操作とインターネットリテラシーの習得				
成績評価	実技試験・出欠点・平常点 A評価が全体の25%、B評価が45%、C評価が30%を基準とする。				
授業計画					
1 時限	表計算ソフトの基本操作（起動、保存、終了、コピー、ペーストなど）				
2 時限	表の作成と罫線、オートフィル機能、書式設定				
3 時限	計算式の利用				
4 時限	基本的な関数の使い方（合計、平均、条件分岐など）				
5 時限	表作成実習（総合問題）				
6 時限	インターネットリテラシー（インターネットの利用法）				
7 時限	インターネットリテラシー（インターネット利用時のルール）				
8 時限	期末試験				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
あり	なし

シラバス　一級自動車整備　科

講　義　名	＜学科＞　一年次後期　ガソリン・エンジン構造1				
概要と目的	国家試験レベルの知識を身に付ける				
担　当　者	花岡　大輔	単位数	12時限 (14.4h)	区分	学科
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員がガソリンエンジン構造について教育を行う科目。				
講義対象	一年生	時　期	9月下旬～3月		
使用教材	三級自動車ガソリン・エンジン				
到達目標	三級レベルの理解				
成績評価	期末試験・出欠点・平常点 A評価が全体の25%、B評価が45%、C評価が30%を基準とする。				
授業計画					
1 時限	バルブ・タイミング練習問題(4 気筒)				
2 時限	潤滑装置、バルタイ練習問題(4 気筒)				
3 時限	潤滑装置、バルタイ練習問題(6 気筒)				
4 時限	潤滑装置、バルタイ練習問題(6 気筒)				
5 時限	冷却装置、バルタイ練習問題(6 気筒)				
6 時限	冷却装置、バルタイ練習問題(6 気筒)				
7 時限	冷却装置、バルタイ練習問題(6 気筒)				
8 時限	冷却装置、バルタイ練習問題(6 気筒)				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	あり

シラバス　二級自動車整備　科

講　義　名	＜学科＞　一年次後期　ガソリン・エンジン構造1				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
9 時限	冷却装置				
10 時限	演習　期末試験対策				
11 時限	演習　期末試験対策				
12 時限	期末試験				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　一級自動車整備　科

講　義　名	＜学科＞　一年次後期　ガソリン・エンジン構造2				
概要と目的	国家試験レベルの知識を身に付ける				
担　当　者	霜田　大	単位数	12時限 (14.4h)	区分	学科
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員がガソリンエンジン構造について教育を行う科目。				
講義対象	一年生	時　期	9月下旬～3月		
使用教材	三級ガソリン・エンジン				
到達目標	三級レベルの知識				
成績評価	期末試験・出欠点・平常点 A評価が全体の25%、B評価が45%、C評価が30%を基準とする。				
授業計画					
第1回	電子制御式燃料噴射装置とは 吸気系統　バキューム・センサ（構造、作動				
第2回	吸気系統　バキューム・センサ続き（インマニ圧力と表現、表作成） 吸気系統　エア・フロー・メータ（役割、原理）				
第3回	吸気系統　エア・フロー・メータ（熱線式）作動 エンジン回転速度制御装置　アイドル回転速度制御装置				
第4回	エンジン回転速度制御装置　電子制御式スロットル装置、スロットル・モータ				
第5回	エンジン回転速度制御装置　スロットルポジションセンサ、燃料系統				
第6回	点火系統　点火時期制御（必要性、エンジン状態と進角遅角、アイドル制御、ノッキング）				
第7回	制御系統　概要、回転センサ（役割、種類、原理）				
第8回	制御系統　クランク角センサ、カム角センサ、O_2センサ				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	あり

シラバス　二級自動車整備　科

講　義　名	＜学科＞　一年次後期　ガソリン・エンジン構造２				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
第 9 回	制御系統　空燃比センサ、温度センサ、スタータ信号、ECU				
第 10 回	制御系統　車載式故障診断装置（OBD） 対策プリント配布				
第 11 回	対策プリント解説				
第 12 回	期末試験				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　一級自動車整備　科

講　義　名	＜学科＞　一年次後期　ジーゼル・エンジン構造				
概要と目的	国家試験レベルの知識を身に付ける				
担　当　者	舟坂　義幸	単位数	22時限 (26.4h)	区分	学科
実務実習	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員がジーゼルエンジン構造について教育を行う科目。				
講義対象	一年生	時　期	9月下旬～3月		
使用教材	三級ジーゼル・エンジン　ジーゼル・エンジン構造　プリント				
到達目標	三級レベルの理解				
成績評価	期末試験・出欠点・平常点 A評価が全体の25%、B評価が45%、C評価が30%を基準とする。				
授業計画					
1時限	概要　ジーゼル・エンジンとは、ガソリンエンジンとの比較、燃焼方式、動弁系				
2時限	作動　各行程とその作動の様子				
3時限	燃焼　軽油の性状、ジーゼル・エンジンの燃焼、混合気、シリンダ内の燃焼の様子				
4時限	燃焼　軽油の性状、ジーゼル・エンジンの燃焼、混合気、シリンダ内の燃焼の様子				
5時限	エンジン本体　レイアウト、シリンダヘッド燃焼室、吸排気、冷却系、ガスケット				
6時限	エンジン本体　シリンダ、シリンダ・ブロック、ピストン、ピストン・ピン				
7時限	エンジン本体　ピストン・リング、コンロッド、コンロッド・ベアリング				
8時限	エンジン本体　クランクシャフトクランクシャフト・ジャーナル・ベアリング バルブ機構、バルブ、バルブ・スプリング、他				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	あり

シラバス　二級自動車整備　科

講　義　名	＜学科＞　一年次後期　ジーゼル・エンジン構造				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
9時限	エンジン本体　タイミング系統、カム・リフト、他 エンジン整備				
10 時限	潤滑系　濾過方式、ポンプ特徴、フィルタとバイパスバルブ 冷却系　加圧の意味、ラジエータ、キャップ、サーモスタット				
11 時限	冷却系　サーモスタット制御、ファン、不凍液				
12 時限	燃料装置　燃料の流れ、種類、構成部品と名称、プランジャの動き、 有効ストローク				
13 時限	燃料装置　プランジャの有効ストロークの様子、デリバリ・バルブの役割				
14 時限	燃料装置　ガバナ、タイマ				
15 時限	燃料装置　フューエル・フィード・ポンプ、分配型の各部名称、プランジャの作動				
16 時限	燃料装置　分配型プランジャの作動の様子 燃料装置　燃料噴射量調整				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　二級自動車整備　科

講　義　名	＜学科＞　一年次後期　ジーゼル・エンジン構造				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
17 時限	燃料装置　ガバナ 燃料装置　タイマ、ポンプ、フィルタ				
18 時限	燃料装置　インジェクション・ノズル				
19 時限	コモンレール式　概要、特徴、サプライ・ポンプ				
20 時限	コモンレール式　インジェクタ、制御装置 吸排気系　排気ガス後処理装置				
21 時限	期末試験対策				
22 時限	期末試験				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　一級自動車整備　科

講　義　名	＜学科＞　一年次後期　シャシ構造1				
概要と目的	国家試験レベルの知識を身に付ける				
担　当　者	花岡　大輔	単位数	16時限 (19.2h)	区分	学科
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員がシャシ構造について教育を行う科目。				
講義対象	一年生	時　期	9月下旬～3月		
使用教材	三級自動車シャシ				
到達目標	三級レベルの駆動装置の理解				
成績評価	期末試験・出欠点・平常点 A評価が全体の25%、B評価が45%、C評価が30%を基準とする。				
授業計画					
1	トランスファ、4WDの種類				
2	種類、センタデフ、トラスファ作動				
3	シャフト、ユニバーサル・ジョイント、プロペラ・シャフト構成				
4	危険回転速度、ドライブ・シャフト				
5	ユニバーサル・ジョイント（フックジョイント）				
6	バーフィールド型ジョイント				
7	ファイナルギヤ及びディファレンシャル				
8	アクスルとサスペンション概要				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	あり

シラバス　一級自動車整備　科

講　義　名	＜学科＞　一年次後期　シャシ構造1				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
9	車軸懸架式フロントアクスル 車軸懸架式リヤアクスル（全浮動、半浮動）				
10	サスペンションの種類				
11	アクスル（独立懸架式）スプリング概要				
12	スプリングの種類リーフ、コイル（構造のみ）				
13	スプリング（コイル、トーションバー）				
14	スプリング（エア、その他）　、レベリングバルブ ショック・アブソーバの分類、ショック・アブソーバの構造、作動				
15	演習　プリント				
16	期末試験				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　一級自動車整備　科

講　義　名	＜学科＞　一年次後期　シャシ構造２				
概要と目的	国家試験レベルの知識を身に付ける				
担　当　者	舟坂　義幸	単位数	16時限 (19.2h)	区分	学科
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員がシャシ構造について教育を行う科目。				
講義対象	一年生	時　期	９月下旬～３月		
使用教材	三級自動車シャシ				
到達目標	三級レベルのブレーキ装置の理解				
成績評価	期末試験・出欠点・平常点 Ａ評価が全体の２５％、Ｂ評価が４５％、Ｃ評価が３０％を基準とする。				
授業計画					
1	○第６章　ホイール・アライメント　概要と必要性 前後輪相互の関係位、ホイール・アライメントの５つの要素（フロントとリヤ）				
2	構造と機能　キャンバとキャスタ				
3	構造と機能　キング・ピン傾角・SAI キャスタ・トレールとキング・ピン・オフセット				
4	構造と機能　トー、ターニング・ラジアス、スラスト角、セット・バック				
5	ホイール・アライメントの整備　トーイン・ゲージと CCKG サイド・スリップの測定と調整方法　タイヤ偏摩耗とアライメントの関係				
6	○第７章　ブレーキ装置　概要と種類 油圧式フート・ブレーキの構造				
7	ドラム式油圧ブレーキ本体　種類と作用 リーディング・トレーリング・シュー式（自己倍力作用について）				
8	ドラム式油圧ブレーキ本体　種類と作用 （ツー・リーディング・シュー式、デュアル・ツー・リーディング・シュー式、デュオサーボ式）				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	あり

シラバス　一級自動車整備　科

講　義　名	＜学科＞　一年次後期　シャシ構造2				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
9	ブレーキ・ドラム、ホイール・シリンダ、自動調整装置の構造 ドラム式ブレーキまとめ				
10	ディスク式油圧ブレーキの種類と構造作動 浮動型キャリパと固定型キャリパの作動				
11	ディスク式油圧ブレーキの種類と構造作動 構成部品とその役割、自動調整装置（ピストン・シールの作動）				
12	ブレーキ操作機構　名称と役割 タンデム・マスタ・シリンダ作動（正常時と液漏れ発生時）				
13	ブレーキ液の種類と性質（整備方法の注意点）、ベーパ・ロック				
14	アンチロック装置　種類と方式 プロポーショニング・バルブとロード・センシング・プロポーショニング・バルブ				
15	真空式制動倍力装置の作動理解　実習授業の復習（2 級問題解説） 圧縮空気式制動倍力装置の構造（エア・サスペンション説明と共有）				
16	期末試験				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　一級自動車整備　科

講　義　名	＜学科＞　一年次後期　一般教養				
概要と目的	社会人レベルのビジネス知識を身に付ける				
担　当　者	花岡　大輔	単位数	11時限 (13.2h)	区分	学科
実務実習	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員が一般教養について教育を行う科目。				
講義対象	一年生	時　期	9月下旬～3月		
使用教材	B検 3 級テキスト				
到達目標	ビジネス能力検定3級レベルの知識				
成績評価	期末試験・出欠点・平常点 A評価が全体の25%、B評価が45%、C評価が30%を基準とする。				
授業計画					
1 時限	指示の受け方と報告，連絡，相談				
2時限	話し方と聞き方の基本				
3時限	敬語の使い方				
4時限	来客応対　名刺の取り扱い				
5時限	履歴書の書き方				
6時限	履歴書の書き方				
7時限	履歴書の書き方				
8時限	訪問の基本				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	あり

シラバス　二級自動車整備　科

講　義　名	＜学科＞　一年次後期　一般教養				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
9時限	電話応対				
10 時限	略語，漢字，社会，英語のまとめ				
11 時限	期末試験				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　一級自動車整備　科

講　義　名	＜学科＞　一年次後期　自動車法令				
概要と目的	国家試験レベルの知識を身に付ける				
担　当　者	花岡　大輔	単位数	23時限 (27.6h)	区分	学科
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員が自動車法令について教育を行う科目。				
講義対象	一年生	時　期	9月下旬～3月		
使用教材	法令教本				
到達目標	三級レベルの道路運送車両法の理解				
成績評価	期末試験・出欠点・平常点 A評価が全体の25%、B評価が45%、C評価が30%を基準とする。				
授業計画					
1 時限	点検整備制度　定期点検整備、点検時期と点検項目（自家用乗用、二輪）				
2 時限	定期点検整備、点検時期と点検項目（自家用貨物、事業用）				
3 時限	分解整備の定義				
4 時限	点検整備記録簿の種類と適用車種				
5 時限	定期点検記録簿の記載内容				
6 時限	整備管理者				
7 時限	整備命令				
8 時限	検査制度、 国の行う四つの検査				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	あり

シラバス　一級自動車整備　科

講　義　名	＜学科＞　一年次後期　自動車法令				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
9 時限	新規検査、継続検査、限定検査証				
10 時限	継続検査、臨時検査、検査証の記載事項の変更及び構造等変更検				
11 時限	予備検査、自動車検査証の有効期間、検査標章、限定検査証				
12 時限	認証制度				
13 時限	認証基準、分解整備事業者の義務				
14 時限	分解整備記録簿、分解整備事業者の遵守事項				
15 時限	優良自動車整備事業者の認定				
16 時限	指定自動車整備事業の指定、自動車検査員				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　一級自動車整備　科

講　義　名	＜学科＞　一年次後期　自動車法令				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
17 時限	保安基準適合証				
18 時限	責任保険、指定整備記録簿				
19 時限	指定自動車整備事業者の罰則、限定保安基準適合証、 検査対象外軽自動車の届出　等				
20 時限	演習　プリント				
21 時限	演習　解答・解説　プリント				
22 時限	演習　解答・解説　プリント				
23 時限	期末試験				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　一級自動車整備　科

講　義　名	＜学科＞　一年次後期　自動車力学				
概要と目的	国家試験レベルの知識を身に付ける				
担　当　者	霜田　大	単位数	28時限 (33.6h)	区分	学科
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員が自動車力学について教育を行う科目。				
講義対象	一年生	時　期	9月下旬～3月		
使用教材	力学練習問題、力学復習問題（プリント） 自動車整備士の計算と問題テキスト				
到達目標	三級レベルの自動車力学の理解				
成績評価	期末試験・出欠点・平常点 A評価が全体の25%、B評価が45%、C評価が30%を基準とする。				
授業計画					
1 時限	自動車力学練習問題⑤　テコ				
2 時限	自動車力学練習問題⑤　テコ				
3 時限	自動車力学復習問題⑤　テコ				
4 時限	自動車力学復習問題⑤　テコ				
5 時限	自動車力学練習問題⑥　圧力				
6 時限	自動車力学練習問題⑥　圧力				
7 時限	自動車力学練習問題⑥　圧力				
8 時限	自動車力学復習問題⑥　圧力				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	あり

シラバス　一級自動車整備　科

講　義　名	＜学科＞　一年次後期　自動車力学				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
9 時限	自動車力学復習問題⑥　圧力				
10 時限	自動車力学練習問題⑦　排気量圧縮比				
11 時限	自動車力学練習問題⑦　排気量圧縮比				
12 時限	自動車力学復習問題⑦　排気量圧縮比				
13 時限	自動車力学復習問題⑦　排気量圧縮比 自動車力学練習問題⑧　プラネタリギヤ				
14 時限	自動車力学練習問題⑧　プラネタリギヤ 自動車力学復習問題⑧　プラネタリギヤ				
15 時限	自動車力学復習問題⑧　プラネタリギヤ				
16 時限	自動車力学練習問題⑨　自動車の荷重				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　一級自動車整備　科

講　義　名	＜学科＞　一年次後期　自動車力学				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
17 時限	自動車力学練習問題⑨　自動車の荷重〔NO.1〕				
18 時限	自動車力学練習問題⑨　自動車の荷重〔NO.1〕				
19 時限	自動車力学練習問題⑨　自動車の荷重〔NO.1〕				
20 時限	自動車力学復習問題⑨　自動車の荷重〔NO.1〕				
21 時限	自動車力学復習問題⑨　自動車の荷重〔NO.1〕				
22 時限	自動車力学復習問題⑨　自動車の荷重〔NO.1〕				
23 時限	自動車力学練習問題⑩　自動車の荷重〔NO.2〕				
24 時限	自動車力学練習問題⑩　自動車の荷重〔NO.2〕				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　一級自動車整備　科

講　義　名	＜学科＞　一年次後期　自動車力学				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
25 時限	自動車力学復習問題⑩　自動車の荷重〔NO.2〕				
26 時限	自動車力学復習問題⑩　自動車の荷重〔NO.2〕				
27 時限	演習　練習問題プリント				
28 時限	期末試験				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　一級自動車整備　科

講　義　名	＜学科＞　一年次後期　電気・磁気				
概要と目的	国家試験レベルの知識を身に付ける				
担　当　者	舟坂　義幸	単位数	20時限 (24h)	区分	学科
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員が電気・磁気について教育を行う科目。				
講義対象	一年生	時　期	9月下旬～3月		
使用教材	電装品構造、基礎自動車工学				
到達目標	三級レベルの電気回路と原理の理解				
成績評価	期末試験・出欠点・平常点 A評価が全体の25%、B評価が45%、C評価が30%を基準とする。				
授業計画					
1時限	サイリスタ、半導体（トランジスタ）				
2時限	磁気基本（コイル概要）、右手親指の法則、フレミングの左手				
3時限	フレミングの左手の法則　練習問題、解答・解説　プリント フレミングの右手の法則　練習問題、解答・解説　プリント				
4時限	論理回路　練習問題、解答・解説　プリント				
5時限	論理回路練習問題、解答・解説　プリント サーミスタ、圧電素子、磁気抵抗素子				
6時限	光通信、CAN通信				
7時限	通信復習、測定（原理、電流）				
8時限	電圧測定　テスタ構造、測定注意、測定方法				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	あり

シラバス　二級自動車整備　科

講　義　名	＜学科＞　一年次後期　電気･磁気				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
9時限	電圧測定の注意、電圧値　練習問題、解答･解説　プリント				
10 時限	抵抗の測定				
11 時限	モータ概要　用途、原理、構造、特徴				
12 時限	逆起電力、モータの種類				
13 時限	永久磁石モータ、ブラシレス･モータ オームの法則(直列)　練習問題、解答･解説				
14 時限	Ωの法則　練習問題、解答･解説　プリント				
15 時限	Ωの法則　練習問題、解答･解説　プリント				
16 時限	発電機　概要、比較 交流　概要、周期、周波数				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　二級自動車整備　科

講　義　名	＜学科＞　一年次後期　電気･磁気				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
17 時限	交流　実効値、平均値　交流回路　抵抗、コイル、コンデンサ 整流回路　半波整流				
18 時限	全波整流　三相交流、練習問題、解答･解説　プリント				
19 時限	演習　解説･解説　プリント				
20 時限	期末試験				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　一級自動車整備　科

講　義　名	＜学科＞　一年次後期　電装品構造1				
概要と目的	国家試験レベルの知識を身に付ける				
担　当　者	舟坂　義幸	単位数	12時限 (14.4h)	区分	学科
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員が電装品構造について教育を行う科目。				
講義対象	一年生	時　期	9月下旬～3月		
使用教材	三級ガソリンエンジン、単体部品、プリント				
到達目標	三級レベルのエンジン電装品の理解				
成績評価	期末試験・出欠点・平常点 A評価が全体の25%、B評価が45%、C評価が30%を基準とする。				
授業計画					
1	点火装置　概要、点火の基礎				
2	点火装置　点火装置の基礎				
3	点火装置　ダイレクト・イグニション				
4	点火装置　スパーク・プラグ概要と熱価				
5	点火装置　スパーク・プラグ熱価と種類				
6	点火装置　整備				
7	充電装置　概要、構造				
8	充電装置　発電の原理、整流の原理				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	あり

シラバス　二級自動車整備　科

講　義　名	＜学科＞　一年次後期　電装品構造1				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
9	充電装置　整流の原理				
10	充電装置　回路の作動				
11	総まとめ　プリント				
12	期末試験				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　一級自動車整備　科

講　義　名	＜学科＞　一年次後期　電装品構造2				
概要と目的	国家試験レベルの知識を身に付ける				
担　当　者	霜田　大	単位数	12時限 (14.4h)	区分	学科
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員が電装品構造について教育を行う科目。				
講義対象	一年生	時　期	9月下旬～3月		
使用教材	三級シャシ、電装品構造				
到達目標	三級レベルのシャシ電装品の理解				
成績評価	期末試験・出欠点・平常点 A評価が全体の25%、B評価が45%、C評価が30%を基準とする。				
授業計画					
1時限	灯火装置　概要、バルブ				
2時限	灯火装置　灯火回路				
3時限	速度表示装置、ヒューズ、整備				
4時限	計器　概要、スピード・メータ				
5時限	計器　タコメータ、水温計				
6時限	計器　ウォーニング・ランプ、整備				
7時限	ホーン・ワイパ　概要、作動				
8時限	ホーン・ワイパ　作動、整備				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	あり

シラバス　二級自動車整備　科

講　義　名	＜学科＞　一年次後期　電装品構造2				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
9時限	暖冷房装置　概要、構造				
10 時限	暖冷房装置　冷凍サイクル				
11 時限	電気装置の配線、まとめ（プリント）				
12 時限	期末試験				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　一年次　基本①実習　エンジン基礎・測定				
概要と目的	職場レベルの技術を身に付ける 測定機器の使用方法を体得する				
担　当　者	霜田　大、宮澤　圭輔	単位数	27 時限	区分	実習
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員がエンジン基礎・測定について教育を行う科目。				
講義対象	一年生	時　期	4月中旬～6月上旬		
使用教材	農機具用エンジン（GX31） 測定機器				
到達目標	エンジン構造、作動の理解と測定技術の体得				
成績評価	実技試験・出欠点・平常点 A評価が全体の25%、B評価が45%、C評価が30%を基準とする。				
授業計画					
1 時限	導入と実習目的 エンジン始動				
2 時限	分解時注意事項 分解（エンジンオイル抜取、エアクリーナ、キャブレータ、リコイルスタータ ASSY）				
3 時限	分解（フューエルタンク、トップカバー、マフラ、ファンカバー、イグニションコイル、				
4 時限	分解（フライホイール、カムシャフトカバー、シリンダヘッドカバー） スケッチ（バルブ開閉機構）				
5 時限	分解（ロアクランクケース、クランクシャフト、ピストン） 4 サイクルガソリンエンジンの作動理解（別紙プリント）				
6 時限	分解（バルブ、カム） 点検、測定（必要性について）　組付け準備（シールパッキン剥がし、清掃）				
7 時限	組付時注意事項 組付（バルブ、カム、クランクシャフト、ピストン、ロアクランクケース）				
8 時限	組付（カムシャフトカバー）　バルブクリアランス調整 組付（フライホイール）　排気上死点、圧縮上死点の確認				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　一年次　基本①実習　エンジン基礎・測定				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
9 時限	組付（シリンダヘッドカバー、イグニションコイル、ファンカバー、マフラ、トップカバー、フューエルタンク、リコイルスタータ ASSY）				
10 時限	組付（キャブレータ、エアクリーナ、エンジンオイル注入） エンジン始動確認				
11 時限	片付け、清掃、まとめ				
12 時限	測定作業 導入　測定作業の必要性　測定誤差について				
13 時限	ノギス各部名称，取り扱い及び読み方　実習テキスト使用				
14 時限	ノギスで測定物を測定し，測定値を実習テキストに記入				
15 時限	ノギスで測定物を測定し，測定値を実習テキストに記入				
16 時限	マイクロメータ各部名称，取り扱い及び読み方　実習テキスト使用				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　一年次　基本①実習　エンジン基礎・測定				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
17 時限	マイクロメータで測定物を測定し，測定値を実習テキストに記				
18 時限	マイクロメータで測定物を測定し，測定値を実習テキストに記入				
19 時限	トルクレンチの用途，種類・構造・機能及び取り扱い ねじの呼び・構造について				
20 時限	トルクレンチを使用せず，締め付け感覚を個人レベルで習得				
21 時限	トルクレンチを使用せず，締め付け感覚を個人レベルで習得				
22 時限	ダイヤルゲージ，キャリパゲージの用途，種類・構造・機能及び取り扱い				
23 時限	シックネスゲージ，スパークプラグゲージの用途，種類・構造・機能及び取り扱い				
24 時限	片付け、清掃、まとめ				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　一年次　基本①実習　エンジン基礎･測定				
概要と目的	職場レベルの技術を身に付ける 測定機器の使用方法を体得する				
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
25 時限	実技試験				
26 時限	実技試験				
27 時限	実技試験				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　一年次　基本①実習　エンジン電装品Ⅰ				
概要と目的	職場レベルの技術を身に付ける 各部の構造を理解する				
担　当　者	宮澤　圭輔、霜田　大	単位数	27 時限	区分	実習
実務経験					
講義対象	一年生	時　期	4月中旬～6月上旬		
使用教材	バッテリ、スタータ、配線、サーキットテスタ				
到達目標	個人レベルの作業の習得				
成績評価	実技試験・出欠点・平常点 A評価が全体の25%、B評価が45%、C評価が30%を基準とする。				
授業計画					
1 時限	電気の導入				
2時限	電気の基礎　電流、電圧、抵抗、電気回路、接続の種類				
3時限	サーキットテスタの配布、取り扱い				
4時限	サーキットテスタでの測定				
5時限	車の電気回路（1）ヘッドライトの回路				
6時限	車の電気回路（2）各装置の役目				
7時限	バッテリ（1）比重　（2）比重の測定				
8時限目	バッテリ（3）バッテリの脱着法				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	なし

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　一年次　基本①実習　エンジン電装品Ⅰ				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
9時限	バッテリ(4)ブースタケーブルの接続法				
10 時限	始動装置(1)概要　(2)種類				
11 時限	始動装置(3)分解、スケッチ				
12 時限	始動装置(4)構造、役目				
13 時限	始動装置(5)モータの原理　(6)作動				
14 時限	始動装置(6)作動　(7)オーバランニングクラッチ				
15 時限	スタータの点検(ブラシ、セグメント)				
16 時限	マグネットスイッチの点検(導通、絶縁)				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　一年次　基本①実習　エンジン電装品Ⅰ				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
17 時限	マグネットスイッチの点検（吸引、保持）				
18 時限	マグネットスイッチの点検（吸引、保持、戻り）				
19 時限	練習、課題プリント				
20 時限	無負荷点検				
21 時限	練習、課題プリント				
22 時限	練習、課題プリント				
23 時限	全体反復練習、課題プリント				
24 時限	課題プリントの解説、まとめ				
伝達事項等	課題プリントの解説、まとめ				

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　一年次　基本①実習　エンジン電装品Ⅰ				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
25 時限	実技試験				
26 時限	実技試験				
27 時限	実技試験				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　一年次　基本①実習　シャシ駆動Ⅰ				
概要と目的	職場レベルの技術を身に付ける ボディ各部の脱着を体得する				
担　当　者	花岡　大輔、望月　順一	単位数	27 時限	区分	実習
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員がシャシ駆動Ⅰについて教育を行う科目。				
講義対象	一年生	時　期	4月中旬～6月上旬		
使用教材	基礎自動車工学、3 級シャシ 実習車両　カローラ、デミオ、アルト（マニュアル車）				
到達目標	作業手順の習得、個人レベルの作業の習得				
成績評価	実技試験・出欠点・平常点 A評価が全体の25%、B評価が45%、C評価が30%を基準とする。				

授業計画

1 時限	導入、クラスを前半後半で分けて実習開始。ボディ：班分け、工具チェック。 クラッチ：概要（実習ノートP2）（1）クラッチとは実習車両クラッチ単体教材で確認
2 時限	ボディ：タイヤローテーション解説及び作業 クラッチ：概要続き、クラッチの断続とタイヤの状態、レイアウト図作成
3 時限	ボディ：タイヤローテーション作業、反復練習 クラッチ：レイアウト図作成、操作時の作動流れ、レリーズ・フォークの動きとクラッチ本体との関連
4 時限	ボディ：ボディ取り外し（フード～ヘッドランプ）、バルブ類解説 クラッチ：マスタ・シリンダ、レリーズ・シリンダ作動、ストロークとペダルの感触、取付け高さ、遊びの点検
5 時限	ボディ：ボディ：ボディ取り外し（フロントバンパ～リヤバンパ） クラッチ：ペダルの遊びと不具合の関係、考えられる原因
6 時限	ボディ：ボディ取り外し（ドア～ラッゲージコンパートメントドア） クラッチ：クラッチ本体の作動、カバー、ディスク分解、名称確認
7 時限	ボディ：ボディ組付、調整（ラッゲージコンパートメントドア～ドア） クラッチ：部品名称確認と特徴の確認の為スケッチ、各部品の役割
8 時限	ボディ：ボディ：ボディ組付、調整（リヤバンパ～フロントバンパ） クラッチ：クラッチの切断時の作動の流れ、動力の流れ、ディスクの厚さと取り付け高さと遊びの影響
伝達事項等	

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　一年次　基本①実習　シャシ駆動Ⅰ				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
9 時限	ボディ:ボディ組付、調整（ヘッドランプ～フード） クラッチ:コイル・スプリング式（部品名称、作動）、レバーの取付高さとナットの関係、遊び不具合現象				
10 時限	ボディ:ドアウインド取り外し、レギュレータ脱着、調整 クラッチ:クラッチの故障と原因、故障車両での現象確認（切れ不良、滑り）				
11 時限	ボディ:ドアウインド取り外し、レギュレータ脱着、調整 クラッチ:課題の実施、片付け				
12 時限	ボディ:各部完成検査、車両仕上げ、前半後半入れ替え クラッチ:全体での実習（作業練習）等、前半後半入れ替え				
13 時限	ボディ:タイヤローテーション解説及び作業、工具チェック クラッチ:概要（実習ノートP2）（1）クラッチとは実習車両クラッチ単体教材で確認				
14 時限	ボディ:タイヤローテーション作業、反復練習 クラッチ:概要続き、クラッチの断続とタイヤの状態、レイアウト図作成				
15 時限	ボディ:ボディ取り外し（フード～ヘッドランプ）、バルブ類解説 クラッチ:レイアウト図作成、操作時の作動流れ、レリーズ・フォークの動きとクラッチ本体との関連				
16 時限	ボディ:ボディ取り外し（フロントバンパ～リヤバンパ） クラッチ:マスタ・シリンダ、レリーズ・シリンダ作動、ストロークとペダルの感触、取付け高さ、遊びの点検				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　一年次　基本①実習　シャシ駆動Ⅰ				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
17 時限	ボディ:ボディ取り外し(ドア～ラッゲージコンパートメントドア) クラッチ:ペダルの遊びと不具合の関係、考えられる原因				
18 時限	ボディ:ボディ組付、調整(ラッゲージコンパートメントドア～ドア) クラッチ:クラッチ本体の作動、カバー、ディスク分解、名称確認				
19 時限	ボディ:ボディ組付、調整(リヤバンパ～フロントバンパ) クラッチ:部品名称確認と特徴の確認の為スケッチ、各部品の役割				
20 時限	ボディ:ボディ組付、調整(ヘッドランプ～フード) クラッチ:クラッチの切断時の作動の流れ、動力の流れ、ディスクの厚さと取り付け高さと遊びの影響				
21 時限	ボディ:ドアウインド取り外し、レギュレータ脱着、調整 クラッチ:コイル・スプリング式(部品名称、作動)、レバーの取付高さとナットの関係、遊び不具合現象				
22 時限	ボディ:ドアウインド取り外し、レギュレータ脱着、調整 クラッチ:クラッチの故障と原因、故障車両での現象確認(切れ不良、滑り)				
23 時限	ボディ:各部完成検査、車両仕上げ クラッチ:課題の実施、片付け				
24 時限	ボディ:全体での実習(作業練習)等 クラッチ:全体での実習(作業練習)等				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　一年次　基本①実習　シャシ駆動Ⅰ				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
25 時限	実技試験				
26 時限	実技試験				
27 時限	実技試験				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　一年次　基本①実習　手仕上げ・機械工作				
概要と目的	職場レベルの技術を身に付ける 工具の使用を体得する				
担　当　者	望月　順一、花岡　大輔	単位数	27 時限	区分	実習
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員が手仕上げ・機械工作について教育を行う科目。				
講義対象	一年生	時　期	4月中旬～6月上旬		
使用教材	基礎自動車整備作業、実習ノート				
到達目標	個人レベルの手仕上げ、工作作業の体得				
成績評価	実技試験・出欠点・平常点 A評価が全体の25%、B評価が45%、C評価が30%を基準とする。				
授業計画					
1	導入・・・課題、目的、注意、工具・材料				
2	図面解説（寸法）、手順解説 作業・・・実習場セッティング				
3	作業手順・・・各材料の切断（真ちゅう、アルミニウム、鋼）解説、 工具解説・・・弓のこの使用法、注意点解説　　作業・・・材料切断（班毎）				
4	作業・・・材料切断、材料長さ確認 課題・・・「六角形」の造り方				
5	作業手順・・・ナットの2平面の作り方解説 工具解説・・・ヤスリ、定盤、スコヤ				
6	作業注意・・・ヤスリ掛けの注意点 作業・・・ナット作成（真ちゅうヤスリ掛け）				
7	作業・・・ナット作成（真ちゅうヤスリ掛け）				
8	解説・・・六角形の造り方　作業手順・・・ナットの穴あけ 工具解説・・・卓上ボール盤、ドリル、センタ・ポンチ				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　一年次　基本①実習　手仕上げ･機械工作				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					

授業計画	
9	作業注意･･･ヤスリでの六面作成、穴あけ作業 作業･･･2平面の作成、六角形の作成、穴あけ
10	作業手順･･･柄の2平面整え、柄の穴あけ 作業･･･六角形作成、穴あけ（真ちゅう）　2平面整え、中心出し後穴あけ（アルミ）
11	作業手順･･･アルミ穴あけ（再確認）、先端の2平面と長さ 作業･･･六角形作成、穴あけ（真ちゅう）
	作業･･･2平面整え、中心出し後穴あけ（アルミ） ･･･2平面整え、先端加工（鋼）
12	作業･･･六角形作成、穴あけ（真ちゅう）･･･2平面整え、中心出し後穴あけ（アルミ）･･･2平面整え、先端加工（鋼）
13	工具解説･･･タップ　作業手順･･･ねじ山の立て方 作業･･･六角形、ねじ穴、ねじ立て、厚み仕上げ（真ちゅう）
	･･･2平面、ねじ穴、ねじ立て（アルミ） ･･･先端加工（テーパ、マイナス型）（鋼）
14	作業･･･六角形、ねじ穴、ねじ立て、厚み仕上げ（真ちゅう）･･･2平面、ねじ穴、ねじ立て（アルミ）･･･先端加工（テーパ、マイナス型）（鋼）
伝達事項等	

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　一年次　基本①実習　手仕上げ･機械工作				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					

授業計画	
15	作業･･･六角形、ねじ穴、ねじ立て、厚み仕上げ（真ちゅう）･･･2平面、ねじ穴、ねじ立て（アルミ）･･･先端加工（テーパ、マイナス型）（鋼）
16	作業手順･･･アルミのねじ立て注意 作業･･･六角形、ねじ穴、ねじ立て、厚み仕上げ（真ちゅう）
	･･･2平面、ねじ穴、ねじ立て（アルミ） ･･･先端加工（テーパ、マイナス型）（鋼）
17	工具解説･･･ダイス 作業･･･六角形、ねじ穴、ねじ立て、厚み仕上げ（真ちゅう）
	･･･2平面、ねじ穴、ねじ立て（アルミ） ･･･先端加工（テーパ、マイナス型）、ねじ立て（鋼）
18	作業･･･六角形、ねじ穴、ねじ立て、厚み仕上げ（真ちゅう）･･･2平面、ねじ穴、ねじ立て（アルミ）･･･先端加工（テーパ、マイナス型）、ねじ立て（鋼）
19	作業手順･･･ネームプレートの寸法、仕上げ（真ちゅうプレート） 図面解説･･･ネームプレートの寸法と注意点
	作業･･･柄のねじ穴加工、ねじ立て、仕上げ（アルミ）･･･先端部の加工、おねじ仕立て（鋼）･･･ネームプレート切断、加工（寸法･直角）（真ちゅうプレート）
伝達事項等	

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　一年次　基本①実習　手仕上げ･機械工作				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					

授業計画	
20	作業･･･柄のねじ穴加工、ねじ立て、仕上げ（アルミ）･･･先端部の加工、おねじ仕立て（鋼）
	･･･ネームプレート切断、加工（寸法･直角）（真ちゅうプレート） ･･･仮組み
21	作業･･･柄のねじ穴加工、ねじ立て、仕上げ（アルミ） ･･･先端部の加工、おねじ仕立て（鋼）
	･･･ネームプレート切断、加工（寸法･直角）（真ちゅうプレート） ･･･仮組み
22	作業手順･･･続き、最終仕上げ、組み立て、仕上げ
23	作業手順･･･続き、最終仕上げ、組み立て、仕上げ
24	作業･･･柄のねじ穴加工、ねじ立て、仕上げ（アルミ） ･･･先端部の加工、おねじ仕立て（鋼）
	･･･ネームプレート切断、加工（寸法･直角）（真ちゅうプレート） ･･･組み立て（長さ調整）仕上げ、
伝達事項等	

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　一年次　基本①実習　手仕上げ･機械工作				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
	材料解説･･･アルミニウム、銅、鉄の比重、熱膨張係数、熱伝導率など 片付け、試験について				
25～27	実技試験				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　一年次　基本②実習　エンジン構造				
概要と目的	職場レベルの技術を身に付ける エンジンの基本構造を理解する				
担　当　者	霜田　大、花岡　大輔	単位数	39 時限	区分	実習
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員がエンジン構造について教育を行う科目。				
講義対象	一年生	時　期	6月中旬～9月中旬		
使用教材	ガソリンエンジン（4A、5A）、測定機器				
到達目標	エンジンの構造理解と作業手順の習得				
成績評価	実技試験・出欠点・平常点 A評価が全体の25%、B評価が45%、C評価が30%を基準とする。				
授業計画					
1 時限	導入、目的、教材、実習ノート作成、 解説（実習ノート P2）　オーバーホールとは、他				
2 時限	準備（工具、エンジン）、補機類取り外し				
3 時限	補機類取り外し続き、 ヘッドカバー取り外し、タイミングマーク確認、マークの位置合わせ練習				
4 時限	ヘッドカバー取り外し、タイミングマーク確認、マークの位置合わせ練習				
5 時限	タイミングの確認作業個人練習、 タイミングプーリ、ベルトカバー、タイミングベルト取り外し				
6 時限	解説（実習ノート P3）補機類の役割、解説（実習ノート P4）エンジン本体、他 カムシャフト取り外し準備、シザーギヤ処置				
7 時限	カムシャフト取り外し続き				
8 時限	シリンダヘッド取り外し				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　一年次　基本②実習　エンジン構造				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
9 時限	クランクシャフト回転確認、圧力確認、排気量の求め方、 解説（実習ノート P5）エンジン本体の各部品、他				
10 時限	オイルパン、オイルポンプ取り外し、シールパッキン（液状ガスケット）清掃				
11 時限	ピストン取り外し				
12 時限	クランクシャフト、リヤオイルリテーナ取り外し 解説（実習ノート P6～7）エンジン本体の各部品、他				
13 時限	解説（実習ノート P7～8）エンジン本体の各部品、他 ピストンリング取り外し				
14 時限	解説（実習ノート P9～11）エンジン本体の各部品、他 コンロッドベアリング、コンロッドベアリング取り外し				
15 時限	ピストンクリアランス測定（マイクロメータ、シリンダゲージ使用手順） 予備測定、シリンダゲージ組み立て				
16 時限	ゼロ点調整練習				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　一年次　基本②実習　エンジン構造				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
17 時限	シリンダ内径測定練習				
18 時限	シリンダ内径測定練習				
19 時限	シリンダ内径測定、ピストン外径測定、ピストンクリアランス計算　練習				
20 時限	シリンダ内径測定、ピストン外径測定、ピストンクリアランス計算　練習				
21 時限	シリンダ内径測定、ピストン外径測定、ピストンクリアランス計算　練習				
22 時限	クランクジャーナルベアリングオイルクリアランス測定（プラスチゲージ使用手順）				
23 時限	各部清掃、オイル塗布、クランクシャフト組付け				
24 時限	ピストン組付け、ピストンリングコンプレッサ使用手順				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　一年次　基本②実習　エンジン構造				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
25 時限	オイルポンプ分解、組付け　解説（実習ノート P15～16）潤滑装置				
26 時限	オイルポンプ、バッフルプレート、ストレーナ、オイルパン組付け				
27 時限	バルブ取り外し				
28 時限	解説（実習ノート P12～14）バルブ機構				
29 時限	シリンダヘッド周り測定（実習ノート P17～19）				
30 時限	シリンダヘッド周り測定（実習ノート P17～19）				
31 時限	バルブ組付け				
32 時限	バルブ組付け続き　カムシャフト、シリンダヘッド組付け				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　一年次　基本②実習　エンジン構造				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
33 時限	カムシャフト、シリンダヘッド組付け				
34 時限	タイミングベルト、タイミングベルトカバー組付け				
35 時限	補機類取り付け～完成				
36 時限	補機類取り付け～完成				
37 時限	実技試験				
38 時限	実技試験				
39 時限	実技試験				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　一年次　基本②実習　シャシ駆動Ⅱ				
概要と目的	職場レベルの技術を身に付ける 各装置の構造・作動を理解する				
担　当　者	花岡　大輔、望月　順一	単位数	39 時限	区分	実習
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員がシャシ駆動Ⅱについて教育を行う科目。				
講義対象	一年生	時　期	6月中旬～9月中旬		
使用教材	基礎自動車工学、三級自動車シャシ				
到達目標	M／T及びデフの構造作動の理解、作業手順の習得				
成績評価	実技試験・出欠点・平常点 A評価が全体の25%、B評価が45%、C評価が30%を基準とする。				
授業計画					
1 時限	解説…導入、目的、実習ノート作成				
2 時限	解説…トランスミッション導入、種類、操作機構の構造作動、操作機構の故障と原因				
3 時限	解説…操作機構の作動の流れ				
4 時限	作業…ミッション・ケースLH分解				
5 時限	解説…1～5速の速度と力の関係、二重かみ合い防止機構の状態確認				
6 時限	解説…変速比の役割、変速比と回転数、トルクの伝達の関係				
7 時限	解説…変速比続き、変速比の求め方				
8 時限	解説…プレス作業時の注意点　作業…各ギヤ分解				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　一年次　基本②実習　シャシ駆動Ⅱ				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
9 時限	作業…各ギヤ分解　解説…各部品名称、役割				
10 時限	解説…シンクロメッシュ機構（役割、部品名称と役割）				
11 時限	解説…シンクロメッシュ機構（作動概要） 作業…組付け時の向き確認と組付け練習				
12 時限	解説…シンクロメッシュ機構の作動、トランスミッション故障				
13 時限	作業…インタロック機構分解　解説…インタロック機構				
14 時限	解説…組付け作業時の注意点（各作業項目ごとに）　作業…組付け				
15 時限	解説…組付け作業時の注意点（各作業項目ごとに）　作業…組付け				
16 時限	解説…組付け作業時の注意点（各作業項目ごとに）　作業…組付け				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　一年次　基本②実習　シャシ駆動Ⅱ				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
17 時限	解説…組付け作業時の注意点（各作業項目ごとに） 作業…組付け				
18 時限	解説…組付け作業時の注意点（各作業項目ごとに） 作業…組付け完成、完成検査、片付け				
	※後半「ディファレンシャル」へ				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　一年次　基本②実習　シャシ駆動Ⅱ				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
19 時限	デフの3つの役割（差動作用、減速作用、減速比、総減速比、FF・FRのレイアウト）				
20 時限	デフの3つの役割（ファイナルギヤの種類、駆動の方向転換について）				
21 時限	分解前点検（バックラッシュ、プレロード、歯当たりについて解説、点検実施。）				
22 時限	分解前点検（バックラッシュ、プレロード、歯当たりについて解説、点検実施。）				
23 時限	分解開始（～デフケース降しまで）				
24 時限	分解完了、部品名称、役目について				
25 時限	スケッチ				
26 時限	作動（動力伝達、直進時の説明）				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　一年次　基本②実習　シャシ駆動Ⅱ				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
27 時限	作動（差動時の説明、直進時と差動時での回転数の説明、トルクの伝達）				
28 時限	デフケースの組み立て				
29 時限	ドライブピニオン組み立て練習				
30 時限	ドライブピニオン組み立て、プレロード設定（新品）				
31 時限	デフケース、サイドベアリングプレロード調整				
32 時限	リングギヤバックラッシュ調整、ベアリングキャップ締付、 総合プレロード確認の反復練習				
33 時限	リングギヤバックラッシュ調整、ベアリングキャップ締付、 総合プレロード確認の反復練習				
34 時限	リングギヤバックラッシュ調整、ベアリングキャップ締付、 総合プレロード確認の反復練習				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　一年次　基本②実習　シャシ駆動Ⅱ				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
35 時限	歯当たり調整法、点検、片付け、まとめ、前半後半入れ替え				
	※前半「トランスミッション」へ				
36 時限	まとめ、連絡（実技試験について）、演習（全体練習）、片付け				
37 時限	実技試験				
38 時限	実技試験				
39 時限	実技試験				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　一年次　基本②実習　ブレーキ				
概要と目的	職場レベルの技術を身に付ける ブレーキの脱着を体得する				
担　当　者	宮澤　圭輔、望月　順一	単位数	39 時限	区分	実習
実務経験					
講義対象	一年生	時　期	6月中旬～9月中旬		
使用教材	実習車両（ヴィッツ）、タンデム・マスタ・シリンダ単体 教科書三級自動車シャシ、実習ノート				
到達目標	個人レベルの作業の習得				
成績評価	実技試験・出欠点・平常点 A評価が全体の25%、B評価が45%、C評価が30%を基準とする。				
授業計画					
1時限	導入及び実習目的				
2時限	車両からタンデム・マスタ・シリンダ取り外し				
3時限	車両からタンデム・マスタ・シリンダ取り外し				
4時限	タンデム・マスタ・シリンダ取り付け				
5時限	タンデム・マスタ・シリンダ取り付け				
6時限	単体タンデム・マスタ・シリンダの分解、組み立て				
7時限	タンデム・マスタ・シリンダの構造及び作動　三級シャシ、実習ノート				
8時限	タンデム・マスタ・シリンダの構造及び作動　三級シャシ、実習ノート				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	なし

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　一年次　基本②実習　ブレーキ				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
9時限	車両からフロント・ディスク・パッド取り外し、組み付け　個人レベル				
10 時限	車両からフロント・ディスク・パッド取り外し、組み付け　個人レベル				
11 時限	車両から前キャリパ及びディスク取り外し　個人レベル				
12 時限	車両から前キャリパ及びディスク取り外し　個人レベル				
13 時限	キャリパのオーバ・ホール　個人レベル　課題プリント、実習ノート				
14 時限	キャリパのオーバ・ホール　個人レベル　課題プリント、実習ノート				
15 時限	キャリパのオーバ・ホール　個人レベル　課題プリント、実習ノート				
16 時限	キャリパのオーバ・ホール　個人レベル　課題プリント、実習ノート				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　一年次　基本②実習　ブレーキ				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
17 時限	キャリパのオーバ・ホール　個人レベル　課題プリント、実習ノート				
18 時限	フロント・ディスク・ブレーキの構造及び作動説明 3 級シャシ P144～P147、実習ノート				
19 時限	フロント・ディスク・ブレーキの構造及び作動説明 3 級シャシ P144～P147、実習ノート				
20 時限	リヤ・ブレーキ・シューの分解、組み付け　個人レベル　課題プリント、実習ノート				
21 時限	リヤ・ブレーキ・シューの分解、組み付け　個人レベル　課題プリント、実習ノート				
22 時限	リヤ・ブレーキ・シューの分解、組み付け　個人レベル　課題プリント、実習ノート				
23 時限	リヤ・ブレーキ・シューの分解、組み付け　個人レベル　課題プリント、実習ノート				
24 時限	リヤ・ブレーキ・シューの分解、組み付け　個人レベル　課題プリント、実習ノート				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　一年次　基本②実習　ブレーキ				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
25 時限	リヤ・ホイール・シリンダ脱着、オーバ・ホール　個人レベル				
26 時限	リヤ・ホイール・シリンダ脱着、オーバ・ホール　個人レベル				
27 時限	リヤ・ホイール・シリンダ脱着、オーバ・ホール　個人レベル				
28 時限	リヤ・ドラム・ブレーキの構造及び作動説明 3 級シャシ P139～144、練習問題プリント、実習ノート				
29 時限	リヤ・ドラム・ブレーキの構造及び作動説明 3 級シャシ P139～144、練習問題プリント、実習ノート				
30 時限	フロント・パッド及びリヤ・ブレーキ・シュー分解、組み立て反復練習				
31 時限	フロント・パッド及びリヤ・ブレーキ・シュー分解、組み立て反復練習				
32 時限	フロント・パッド及びリヤ・ブレーキ・シュー分解、組み立て反復練習				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　一年次　基本②実習　ブレーキ				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
33 時限	フロント・パッド及びリヤ・ブレーキ・シュー分解、組み立て反復練習				
34 時限	ブレーキ・フルードのエア抜き作業　個人レベル				
35 時限	ブレーキ・フルードのエア抜き作業　個人レベル				
36 時限	片付け、車両清掃、まとめ…教科書　実習ノート使用				
37 時限	実技試験				
38 時限	実技試験				
39 時限	実技試験				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　一年次　基本②実習　二輪構造				
概要と目的	職場レベルの技術を身に付ける 二輪の基本構造を理解する				
担　当　者	望月　順一、宮澤　圭輔	単位数	39 時限	区分	実習
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員が二輪構造について教育を行う科目。				
講義対象	一年生	時　期	6月中旬～9月中旬		
使用教材	CB400、ゼファー400、ノギス、バイクスタンド、オイル				
到達目標	個人レベルの作業の習得、作業手順の習得				
成績評価	実技試験・出欠点・平常点 A評価が全体の25%、B評価が45%、C評価が30%を基準とする。				
授業計画					
1 時限目	導入（二輪の歴史、四輪との違い）				
2時限目	エンジン取り外し手順確認				
3時限目	エンジン取外し　1. 車体スタンド　2. エンジンオイル				
4時限目	エンジン取外し　3. 燃料タンク　　4. ドライブチェーン				
5時限目	エンジン取外し　5. 燃料タンク　　6. エアクリーナ				
6時限目	エンジン取外し　7. キャブレータ　8. オイルクーラ				
7時限目	エンジン取外し　9. ケーブル　　10.配線類				
8時限目	エンジン取外し　11. ホーン　　12. エンジン本体				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　一年次　基本②実習　二輪構造				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
9時限目	スケッチ（エンジン、キャブレータ）				
10 時限目	エンジン取り付け　12～11				
11 時限目	エンジン取り付け　10～9				
12 時限目	エンジン取り付け　9～8				
13 時限目	エンジン取り付け　7～6				
14 時限目	エンジン取り付け　5～4				
15 時限目	エンジン取り付け　3～1				
16 時限目	エンジン取り付け　完成チェック				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　一年次　基本②実習　二輪構造				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
17 時限目	ドライブチェーンの調整法（ゼファータイプ）				
18 時限目	ドライブチェーン調整　個人練習				
19 時限目	ドライブチェーン調整　個人練習				
20 時限目	フロントサスペンション、リヤサスペンション作業手順確認				
21 時限目	フロントホイール、フロントフォークの取外し				
22 時限目	リヤホイール、リヤショックアブソーバの取外し				
23 時限目	スケッチ（フレーム）、テキスト（P20）				
24 時限目	テキスト（燃料装置 P8～吸気排気装置 P9）				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　一年次　基本②実習　二輪構造				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
25 時限目	テキスト(アライメント P11～フォーク P14)				
26 時限目	フロントフォーク、フロントホイールの取り付け				
27 時限目	リヤショックアブソーバ、リヤホイールの取り付け				
28 時限目	ドライブチェーンの調整法(CB タイプ)				
29 時限目	ドライブチェーンの調整法(CB タイプ)				
30 時限目	フロントブレーキパッド交換				
31 時限目	フロントブレーキパッド交換個人練習				
32 時限目	フロントブレーキパッド交換個人練習				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　一年次　基本②実習　二輪構造				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期	6月中旬～9月中旬		
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
33 時限目	オイル交換（ゼファー）				
34 時限目	クラッチ（取外し、スケッチ、構造、作動、測定）				
35 時限目	ドライブチェーン、オイル交換、パッド交換　練習				
36 時限目	ドライブチェーン、オイル交換、パッド交換　練習　まとめ				
37 時限目	実技試験				
38 時限目	実技試験				
39 時限目	実技試験				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　一年次　基本③実習　エンジン電装品Ⅱ				
概要と目的	職場レベルの技術を身に付ける 構造作動を理解する				
担　当　者	宮澤　圭輔、花岡　大輔	単位数	45 時限	区分	実習
実務経験					
講義対象	一年生	時　期	9月下旬～12月		
使用教材	点火装置一式，オルタネータ単体				
到達目標	点火装置、充電装置の個人レベルでの点検整備作業の習得				
成績評価	実技試験・出欠点・平常点 A評価が全体の25%、B評価が45%、C評価が30%を基準とする。				
授業計画					
1 時限	点火装置　概要				
2時限	(1)普通点火装置				
3時限	1. 結線図作成　2. ポイントの確認				
4時限	3. 結線手順				
5時限	4. 結線のスケッチ				
6時限	(2)イグニション・コイル				
7時限	(3)普通点火用ディストリビュータ　1. 概要				
8時限	2. 分解				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	なし

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　一年次　基本③実習　エンジン電装品Ⅱ				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
9時限	3. スケッチ				
10 時限	4. 点火時期の必要性　5. 進角　6. 遅角				
11 時限	7. 各部点検　8. 課題				
12 時限	9. 組み付け				
13 時限	(4)ハイテンション・コードとスパーク・プラグ　1. 概要				
14 時限	2. プラグ脱着練習				
15 時限	3. プラグの点検　4. 課題				
16 時限	(5)フルトランジスタ点火装置　1. 特徴　2. 取り外し				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　一年次　基本③実習　エンジン電装品Ⅱ				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
17 時限目	3. スケッチ				
18 時限目	4. 分解　　5. 役目				
19 時限目	6. 点検　　7. 取り付け				
20 時限目	8. 点火装置の復習　結線，点検，名称，プリント				
21 時限目	〃				
22 時限目	充電装置　概要				
23 時限目	(1)オルタネータの脱着				
24 時限目	〃				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　一年次　基本③実習　エンジン電装品Ⅱ				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
25 時限目	(2)分解				
26 時限目	(3)構成部品と役目				
27 時限目	〃				
28 時限目	〃				
29 時限目	(4)スケッチ				
30 時限目	(5)発電作用				
31 時限目	(6)整流とは				
32 時限目	(7)発生電圧調整				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　一年次　基本③実習　エンジン電装品Ⅱ				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
33 時限目	(8)ロータの点検				
34 時限目	(9)ステータ・コイルの点検				
35 時限目	(10)ダイオードの点検				
36 時限目	(11)各点検反復練習				
37 時限目	〃				
38 時限目	(12)テキスト練習問題				
39 時限目	(13)オームの法則				
40 時限目	(14)組み付け				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　一年次　基本③実習　エンジン電装品Ⅱ				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
41 時限目	(15)反復練習、総まとめ				
42 時限目	〃				
43 時限目	実技試験				
44 時限目	実技試験				
45 時限目	実技試験				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　一年次　基本③実習　ガソリンエンジン燃料装置				
概要と目的	職場レベルの技術を身に付ける 構造作動を理解する				
担　当　者	霜田　大、望月　順一	単位数	45 時限	区分	実習
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員がガソリンエンジン燃料装置について教育を行う科目。				
講義対象	一年生	時　期	9月下旬～12月		
使用教材	CV式キャブレータ、負圧式 2 バレルキャブレータ、JZX90 三級ガソリン・エンジン、三級二輪自動車				
到達目標	燃料装置の原理、電子制御式燃料装置の基礎の理解				
成績評価	実技試験・出欠点・平常点 A評価が全体の25%、B評価が45%、C評価が30%を基準とする。				
授業計画					
1 時限	概要、目的、実習について、注意事項、教材、実習ノート作成				
2 時限	解説　燃料の流れ（キャブレータ）、キャブレータ原理、空燃比 解説　負圧の発生（実験）				
3 時限	解説　負圧の効果（実験） キャブレータ分解準備（CVキャブレータ、2 バレルキャブレータ、工具、ほか）				
4 時限	CVキャブレータ分解 2 バレルキャブレータ分解				
5 時限	2 バレルキャブレータ分解 部品名確認（CVキャブレータ、2 バレルキャブレータ）				
6 時限	解説　CVキャブレータと 2 バレルキャブレータの違い、概要、 解説　CVキャブレータ（フロート系統）				
7 時限	解説　CVキャブレータ（スロー系統、メーン系統、始動系統）				
8 時限	解説　2 バレルキャブレータ（フロート系統、スロー系統、メーン系統、加速系統、）				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　一年次　基本③実習　ガソリンエンジン燃料装置				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
9 時限	解説　2 バレルキャブレータ（パワー系統） 組付け手順確認、部品確認				
10 時限	CVキャブレータ組付け、2 バレルキャブレータ組付け				
11 時限	解説　燃料の流れ（電子制御式）、フューエルポンプ作動確認手順				
12 時限	安全注意事項、 フューエルポンプ作動確認、暖機運転、クランキングでのフューエルポンプ作動音				
13 時限	フューエルポンプ作動確認（チェック端子短絡での作動確認） 解説　燃料飛散防止処置の手順、サーキットオープニングリレー				
14 時限	燃料飛散防止処置の練習（サーキットオープニングリレーの位置確認、取り外してエンスト確認）				
15 時限	燃料飛散防止処置の練習、サーキットオープニングリレー無しでエンジン始動（チェック端子短絡にてポンプ駆動して行う）				
16 時限	ウインドフィルム貼り付け手順確認、車両準備、工具準備				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　一年次　基本③実習　ガソリンエンジン燃料装置				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
17 時限	ドアトリム取り外し手順確認、 ドアトリム取り外し				
18 時限	ドアトリム取り外し フューエルカット				
19 時限	ウインドフィルム型取り手順 ウインドフィルム型取り（ガラスの型取り）				
20 時限	ウインドフィルム型取り（ガラスの型取り、型に合わせてフィルムカット） ウインドフィルム貼り付け				
21 時限	ウインドフィルム貼り付け				
22 時限	ウインドフィルム貼り付け				
23 時限	ウインドフィルム貼り付け				
24 時限	ウインドフィルム貼り付け、ドアトリム取り付け、仕上げ				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　一年次　基本③実習　ガソリンエンジン燃料装置				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
25 時限	カッティングシート作成順確認				
26 時限	カッティングシート作成準備（材料切り分け、カット用の型作成）				
27 時限	カッティングシート作成				
28 時限	カッティングシート作成				
29 時限	カッティングシート作成				
30 時限	カッティングシート作成				
31 時限	カッティングシート作成仕上げ				
32 時限	ウインドフィルム取り外し、ガラス清掃 解説　ウインドフィルム貼り付け（貼り付け可能部位、濃さ、リヤガラスへの貼り付け手順、他）				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　一年次　基本③実習　ガソリンエンジン燃料装置				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
33 時限	電子制御式燃料噴射装置のセンサ、アクチュエータの名称、役割、取り付け部位確認				
34 時限	電子制御式燃料噴射装置のセンサ、アクチュエータの名称、役割、取り付け部位確認				
35 時限	電子制御式燃料噴射装置のセンサ、アクチュエータの名称、役割、取り付け部位確認				
36 時限	ディストリビュータキャップ取り外し、クランク角センサ、ロータの回転確認（クランク角センサにて）				
37 時限	ディストリビュータ組付け、エンジン始動確認、燃料飛散防止処置				
38 時限	フューエルポンプ取り外し				
39 時限	フューエルポンプ組付け、エンジン始動確認				
40 時限	練習　フューエルポンプ作動確認、燃料飛散防止処置、各部品確認				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　一年次　基本③実習　ガソリンエンジン燃料装置				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
41 時限	練習　フューエルポンプ作動確認、燃料飛散防止処置、各部品確認				
42 時限	練習　フューエルポンプ作動確認、燃料飛散防止処置、各部品確認 片付け、まとめ				
43 時限	実技試験				
44 時限	実技試験				
45 時限	実技試験				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　一年次　基本③実習　サスペンション				
概要と目的	職場レベルの技術を身に付ける 構造を理解する				
担　当　者	望月　順一、霜田　大	単位数	45 時限	区分	実習
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員がサスペンションについて教育を行う科目。				
講義対象	一年生	時　期	9月下旬～12月		
使用教材	実習車両:ティーダ、ミラ　ストラット型サスペンション単体 三級シャシ教科書 P61～82、実習ノート				
到達目標	個人レベルのサスペンション脱着O／H作業の習得				
成績評価	実技試験・出欠点・平常点 A評価が全体の25%、B評価が45%、C評価が30%を基準とする。				
授業計画					
1	導入及び実習目的				
2	フロントサスペンションの構造及び作動の説明				
3	フロントサスペンションの構造及び作動の説明				
4	フロントサスペンションの構造及び作動の説明				
5	車両ジャッキアップ、タイヤ外し、サスペンションスケッチ				
6	車両ジャッキアップ、タイヤ外し、サスペンションスケッチ				
7	ばね下重量、ばね上重量、ばね定数、固有振動数				
8	ばね下重量、ばね上重量、ばね定数、固有振動数				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　一年次　基本③実習　サスペンション				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
9	フロントサスペンション作業手順				
10	フロントサスペンション分解				
11	フロントサスペンション分解				
12	フロントサスペンション分解				
13	リヤサスペンション分解手順				
14	リヤサスペンション分解				
15	スプリングを取り付けずにサスペンション組みつけ				
16	スプリングを取り付けずにサスペンション組みつけ				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　一年次　基本③実習　サスペンション				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
17	スプリングを取り付けずにサスペンション組みつけ				
18	スプリングを組み正しく車両修復				
19	スプリングを組み正しく車両修復				
20	スプリングを組み正しく車両修復				
21	ストラット脱着作業反復練習				
22	ストラット脱着作業反復練習				
23	ストラット脱着作業反復練習				
24	ストラット脱着作業反復練習				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　一年次　基本③実習　サスペンション				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
25	ストラット脱着作業反復練習				
26	ストラット脱着作業反復練習				
27	単体ショックアブソーバー分解、スケッチ				
28	単体ショックアブソーバー分解、スケッチ				
29	ショックアブソーバー構造、作動				
30	ショックアブソーバー構造、作動				
31	スタビライザの働き				
32	アブソーバー名称確認				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　一年次　基本③実習　サスペンション				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
33	アブソーバスケッチ、組み付け				
34	単体ストラット分解、組み付け（スプリング脱着）				
35	単体ストラット分解、組み付け（スプリング脱着）反復練習				
36	単体ストラット分解、組み付け（スプリング脱着）反復練習				
37	単体ストラット分解、組み付け（スプリング脱着）反復練習				
38	単体ストラット分解、組み付け（スプリング脱着）反復練習				
39	単体ストラット分解、組み付け（スプリング脱着）反復練習				
40	ストラット脱着、分解、組み付け反復練習、名称確認、課題				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　一年次　基本③実習　サスペンション				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
41	ストラット脱着、分解、組み付け反復練習、名称確認、課題				
42	片付け及び清掃　まとめ				
43	実技試験				
44	実技試験				
45	実技試験				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　一年次　基本③実習　ステアリング装置				
概要と目的	職場レベルの技術を身に付ける ステアリング装置の構造理解・調整体得				
担　当　者	花岡　大輔、宮澤　圭輔	単位数	45 時限	区分	実習
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員がステアリング装置について教育を行う科目。				
講義対象	一年生	時　期	9月下旬～12月		
使用教材	単体:マニュアルステアリングギヤ(ラック・ピニオン及びボール・ナット)、 ボール・ナット型ステアリング、車両:ヴィッツ、教科書:3 級シャシ				
到達目標	個人レベルの作業の習得、作業手順の習得				
成績評価	実技試験・出欠点・平常点 A評価が全体の25%、B評価が45%、C評価が30%を基準とする。				
授業計画					
1時限	ラック・ピニオン導入				
2時限	実習ノート作成、教室移動、班編成　ステアリング装置の概要 Ⅱ．実車での装置の構造を確認				
3時限	実車での装置の構造を確認　ステアリングギヤの工夫				
4時限	伝達順序の再確認　ステアリングギヤの工夫				
5時限	ステアリングギヤの切れ角の測定実験　ギヤ比のまとめ リンク機構の実験　切れ角のまとめ、復元				
6時限	切れ角とアッカーマンジャント　ステアリング・ホイールの脱着 車両復元　部品名称記入　ステアリングギヤ分解開始				
7時限	マニュアル・ラック・ピニオンＯＨ （1）部品名称記入（2）分解手順板書、図と照合させる。				
8時限	マニュアル・ラック・ピニオンＯＨ （1）部品名称記入（2）分解手順板書、図と照合させる。				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　一年次　基本③実習　ステアリング装置				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
9時限	マニュアル・ラック・ピニオンOH　スケッチ				
10 時限	マニュアル・ラック・ピニオンOH　各部点検　清掃、スケッチ				
11 時限	マニュアル・ラック・ピニオンOH 各部点検　スケッチ、各部点検、良否判定、故障探求				
12 時限	マニュアル・ラック・ピニオンOH 各部点検　スケッチ、各部点検、良否判定、故障探求				
13 時限	マニュアル・ラック・ピニオンOH 部品名称、動力伝達、故障探求　組付（単体プレロード）、反復練習				
14 時限	マニュアル・ラック・ピニオンOH 組付（総合プレロード）反復				
15 時限	マニュアル・ラック・ピニオンOH 組付最後まで　タイプⅡ分解、可変ギヤ比の説明（概要）				
16 時限	タイプⅡ清掃、組付　SRSエアバッグの説明（部品、概要）				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　一年次　基本③実習　ステアリング装置				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
17 時限	SRSエアバッグの説明（部品、概要、整備上の注意点）、 実技試験の内容説明　反復練習				
18 時限	実技試験の反復練習				
19 時限	実技試験の反復練習				
20 時限	実技試験の反復練習				
21 時限	実技試験の反復練習、まとめ				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　一年次　基本③実習　ステアリング装置				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
22 時限	ボール・ナット型実習導入				
23 時限	ステアリング機構の目的，概要				
24 時限	ステアリング・リンク機構　(1)名称と実車確認				
25 時限	(2)リンク機構の製作				
26 時限	(3)切れ角測定				
27 時限	ステアリング操作機構　(1)ハンドル脱着				
28 時限	〃				
29 時限	4輪操舵機構				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　一年次　基本③実習　ステアリング装置				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
30 時限	ボール・ナット型ギヤ機構　(1)動作の確認				
31 時限	(2)分解　(3)部品名称				
32 時限	(4)スケッチ				
33 時限	(5)構造，作動				
34 時限	(6)ギヤ比				
35 時限	(7)点検，判定				
36 時限	(8)組み付け　1．ウォーム・シャフト関係				
37 時限	2．ガスケットの作成				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　一年次　基本③実習　ステアリング装置				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
38 時限	3. セクタ･シャフト関係				
39 時限	4. バックラッシュ				
40 時限	〃				
41 時限	総合練習				
42 時限	総合練習、まとめ				
43 時限	実技試験				
44 時限	実技試験				
45 時限	実技試験				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　一年次　基本④実習　ジーゼルエンジン構造				
概要と目的	職場レベルの技術を身に付ける 構造作動を理解する				
担　当　者	望月　順一、宮澤　圭輔	単位数	39 時限	区分	実習
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員がジーゼルエンジン構造について教育を行う科目。				
講義対象	一年生	時　期	1月～3月		
使用教材	列型インジェクション・ポンプ単体、2C エンジン単体、 三級ジーゼルエンジン教科書、実習ノート				
到達目標	インジェクション・ポンプの構造の理解と作業手順の習得				
成績評価	実技試験・出欠点・平常点 A評価が全体の25%、B評価が45%、C評価が30%を基準とする。				
授業計画					
1時限	導入及び実習目的　列型インジェクション・ポンプ				
2時限	列型インジェクション・ポンプ単体分解				
3時限	列型インジェクション・ポンプ単体分解				
4時限	列型インジェクション・ポンプ単体分解				
5時限	列型インジェクション・ポンプ単体分解				
6時限	列型インジェクション・ポンプ単体分解完了				
7時限	ガバナの構造・作動原理　三級ジーゼルエンジン、実習ノート				
8時限	タイマの構造・作動原理及びスケッチ　三級ジーゼルエンジン、実習ノート				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　一年次　基本④実習　ジーゼルエンジン構造				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
9時限	プランジャの上昇行程の説明　三級ジーゼルエンジン教科書　実習ノート				
10 時限	デリバリ・バルブ構造・作動説明　三級ジーゼルエンジン教科書　実習ノート				
11 時限	フィード・ポンプ構造・作動説明　三級ジーゼルエンジン教科書　実習ノート				
12 時限	列型インジェクション・ポンプ組み立て				
13 時限	列型インジェクション・ポンプ組み立て				
14 時限	列型インジェクション・ポンプ組み立て				
15 時限	列型インジェクション・ポンプ組み立て				
16 時限	列型インジェクション・ポンプ組み立て				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　一年次　基本④実習　ジーゼルエンジン構造				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
17 時限	列型インジェクション・ポンプ組み立て完了　片付け　まとめ　実習ノート使用				
18 時限	導入及び実習目的　2C エンジン単体				
19 時限	解説…バルブ・クリアランス測定要領 作業…バルブ・クリアランス測定				
20 時限	作業…バルブ・クリアランス測定				
21 時限	解説…エンジン分解時の手順、注意点 作業…バルブ・クリアランス測定続き、エンジン分解				
22 時限	作業…エンジン分解				
23 時限	作業…エンジン分解				
24 時限	作業…エンジン分解				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　一年次　基本④実習　ジーゼルエンジン構造				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
25 時限	作業…エンジン分解				
26 時限	解説…ピストン・クリアランス測定要領（ピストン外径，シリンダ内径） 作業…ピストン・クリアランス測定				
27 時限	作業…ピストン・クリアランス測定				
28 時限	作業…ピストン・クリアランス測定				
29 時限	解説…インジェクション・ノズル構造作動 作業…インジェクション・ノズル分解・スケッチ				
30 時限	解説…エンジン組付け時の手順、注意点 作業…インジェクション・ノズル組付け、エンジン組付け				
31 時限	作業…エンジン組付け				
32 時限	作業…エンジン組付け				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　一年次　基本④実習　ジーゼルエンジン構造				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
33 時限	作業…エンジン組付け				
34 時限	作業…エンジン組付け				
35 時限	反復練習 単体プランジャ分解・組み付け　バルブ・クリアランス測定・調整方法				
36 時限	反復練習 単体プランジャ分解・組み付け　バルブ・クリアランス測定・調整方法				
37 時限	実技試験				
38 時限	実技試験				
39 時限	実技試験				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　一年次　基本④実習　制動倍力装置				
概要と目的	職場レベルの技術を身に付ける 構造作動を理解する				
担　当　者	宮澤　圭輔、望月　順一	単位数	39 時限	区分	実習
実務経験					
講義対象	一年生	時　期	1月～3月		
使用教材	三級シャシ(P149～155)、車両:ヴィッツ、倍力装置単体				
到達目標	個人レベルの作業の習得				
成績評価	実技試験・出欠点・平常点 A評価が全体の25%、B評価が45%、C評価が30%を基準とする。				
授業計画					
1時限	解説…導入①目的、使用教材、実習ノート作成				
2時限	解説…導入②求める性能、停止距離(制動距離)				
3時限	解説…ブレーキ・テスタ 作業…ブレーキ・テスタにて制動力点検(倍力作用の有り・無しの違い)				
4時限	作業…実験『ペットボトルで圧力差を確認する』 解説…圧力差について				
5時限	解説…ブレーキ・ペダルの点検手順と注意 作業…ブレーキ・ペダルの取り付け高さ、遊び、踏み残り代				
6時限	解説…真空制動倍力装置の点検手順と注意 作業…真空制動倍力装置の点検(気密機能、作動、負荷気密機能の各点検)				
7時限	作業…真空式制動倍力装置の点検(気密機能、作動、負荷気密機能の各点検) 〇ホース取り外しの有無、チェック・バルブの向きなど条件を変えた場合				
8時限	解説…マスタ・シリンダ、真空式制動倍力装置の取外し時の手順と注意 作業…マスタ・シリンダ、真空式制動倍力装置の取外し				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	なし

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　一年次　基本④実習　制動倍力装置				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
9時限	作業…マスタ・シリンダ、真空式制動倍力装置取外し時、 真空式制動倍力装置の単体点検				
10 時限	解説…マスタ・シリンダ、真空式制動倍力装置取付け時の手順と注意 作業…マスタ・シリンダ、真空式制動倍力装置取付け時				
11 時限	作業…マスタ・シリンダ、真空式制動倍力装置取付け時 ブレーキ・ペダルの高さ調整				
12 時限	作業…ブレーキ・系統のエア抜き、取付け作業の（含む予備時間）				
13 時限	解説…真空式制動倍力装置（単体教材）の分解手順と注意 作業…真空式制動倍力装置（単体教材）の分解				
14 時限	解説…真空式制動倍力装置（単体教材）の構成部品の名称、役割とスケッチ				
15 時限	解説…真空式制動倍力装置（単体教材）の構成部品の名称、役割とスケッチ				
16 時限	解説…倍力装置の作動（倍力の発生とA室B室の関係）				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　一年次　基本④実習　制動倍力装置				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
17 時限	解説…倍力装置の作動（続き、B室と各バルブの関係及び作動状態）				
18 時限	解説…倍力装置の作動（続き、各バルブの構成部品）				
19 時限	解説…リアクション・ディスクの作動と役割				
20 時限	解説…Pバルブ、LSPVの作動				
21 時限	解説…Pバルブ、LSPVの作動、練習問題 解説…真空式制動倍力装置（単体教材）の組付け手順と注意				
22 時限	作業…真空式制動倍力装置（単体教材）の組付け				
23 時限	作業…ブレーキ・オーバーホール 作業…車輪速センサ取り外し				
24 時限	作業…ブレーキ・オーバーホール 作業…車輪速センサ分解、組付け				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　一年次　基本④実習　制動倍力装置				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
25 時限	作業…ブレーキ・オーバーホール反復練習				
26 時限	解説…実習車両のブレーキ・パッド、ブレーキ・シュー交換作業注意 作業…実習車両のブレーキ・パッド、ブレーキ・シュー交換				
27 時限	作業…実習車両のブレーキ・パッド、ブレーキ・シュー交換				
28 時限	作業…実習車両のブレーキ・パッド、ブレーキ・シュー交換				
29 時限	作業…ブレーキ系統のエア抜き練習（個人）				
30 時限	作業…ブレーキ系統のエア抜き練習（個人）				
31 時限	倍力装置ムービーコム解説				
32 時限	倍力装置ムービーコム解説				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　一年次　基本④実習　制動倍力装置				
概要と目的	職場レベルの技術を身に付ける 構造作動を理解する				
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
33 時限	倍力装置ムービーコム解説 解説…練習問題の答え合わせと解説				
34 時限	作業…実習車両のブレーキ・パッド、ブレーキ・シュー交換				
35 時限	作業…実習車両のブレーキ・パッド、ブレーキ・シュー交換				
36 時限	片付け、車両清掃、まとめ				
37 時限	実技試験				
38 時限	実技試験				
39 時限	実技試験				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　一年次　基本④実習　多頻度作業				
概要と目的	職場レベルの技術を身に付ける 各部交換作業を体得する				
担　当　者	花岡　大輔、霜田　大	単位数	39 時限	区分	実習
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員が多頻度作業について教育を行う科目。				
講義対象	一年生	時　期	1月～3月		
使用教材	実習車両（デミオ他）、タイヤチェンジャ				
到達目標	作業手順の習得、個人レベルの多頻度作業の習得				
成績評価	実技試験・出欠点・平常点 A評価が全体の25%、B評価が45%、C評価が30%を基準とする。				
授業計画					
1時限	導入、課題				
2時限	リフト操作手順、注意事項				
3時限	トランスアクスル取り外し作業手順確認				
4時限	トランスアクスル取り外し作業手順確認				
5時限	安全確認、リフト操作個人レベルで練習				
6時限	実習準備　エンジンメカハンガ組み立て等				
7時限	トランスアクスル取外し				
8時限	トランスアクスル取外し				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　一年次　基本④実習　多頻度作業				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
9時限	トランスアクスル取外し				
10 時限	トランスアクスル取外し				
11 時限	トランスアクスル取外し				
12 時限	トランスアクスル取外し				
13 時限	トランスアクスル取外し				
14 時限	クラッチ O/H、点検、グリス塗布箇所				
15 時限	クラッチ O/H 反復練習				
16 時限	クラッチ O/H 反復練習				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　一年次　基本④実習　多頻度作業				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
17 時限	クラッチ O/H 反復練習				
18 時限	クラッチ O/H 反復練習				
19 時限	実技試験　セクション1				
20 時限	トランスアクスル組み付け				
21 時限	トランスアクスル組み付け				
22 時限	トランスアクスル組み付け				
23 時限	トランスアクスル組み付け				
24 時限	トランスアクスル組み付け				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　一年次　基本④実習　多頻度作業				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
25 時限	タイヤチェンジャ、エンジンオイル交換、エレメント交換、ベルト交換作業手順				
26 時限	トランスアクスル組み付け、完成チェック				
27 時限	エンジンオイル交換、エレメント交換反復練習				
28 時限	エンジンオイル交換、エレメント交換反復練習　　班ごとにタイヤチェンジャ作業				
29 時限	エンジンオイル交換、エレメント交換反復練習　　班ごとにタイヤチェンジャ作業				
30 時限	エンジンオイル、エレメント交換反復練習　タイヤチェンジャ作業　ベルト交換				
31 時限	エンジンオイル、エレメント交換　タイヤチェンジャ作業　ベルト交換反復練習				
32 時限	エンジンオイル、エレメント交換　タイヤチェンジャ作業　ベルト交換反復練習				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　一年次　基本④実習　多頻度作業				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
33 時限	エンジンオイル、エレメント交換　タイヤチェンジャ作業　ベルト交換反復練習				
34 時限	エンジンオイル、エレメント交換　タイヤチェンジャ作業　ベルト交換反復練習				
35 時限	エンジンオイル、エレメント交換　タイヤチェンジャ作業　ベルト交換反復練習				
36 時限	まとめ				
37 時限	実技試験				
38 時限	実技試験				
39 時限	実技試験				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　一年次　基本④実習　電子制御式燃料噴射装置Ⅰ				
概要と目的	職場レベルの技術を身に付ける 構造作動を理解する				
担　当　者	霜田　大、花岡　大輔	単位数	39 時限	区分	実習
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員が電子制御式燃料噴射装置Ⅰについて教育を行う科目。				
講義対象	一年生	時　期	1月～3月		
使用教材	3 級ガソリン、ガソリンエンジン構造、JZX90 マークⅡ、単体教材				
到達目標	電制式燃料噴射装置の理解と個人レベルの故障探究技術の習得				
成績評価	実技試験・出欠点・平常点 A評価が全体の25%、B評価が45%、C評価が30%を基準とする。				
授業計画					
1 時限	導入、目的、修得事項、注意事項、実習ノート作成				
2 時限	解説（実習ノート P1）名称 解説（実習ノート P2）電気の基本				
3 時限	解説（実習ノート P3、5～6）抵抗値の変化と回路、ダイアグノーシスコード確認 作業手順　現象確認、ダイアグノーシスコード確認、エンジン基本点検				
4 時限	作業　エンジン始動、暖機、ダイアグノーシスコード確認				
5 時限	作業　ダイアグノーシスコード確認				
6 時限	作業手順　V ベルト交換 作業　V ベルト交換				
7 時限	解説　（実習ノート P4）回路の電圧				
8 時限	作業手順　点検準備　ECU取り外し、シグナルチェックターミナル取り付け 解説　（実習ノート P7）点火時期、アイドル回転数、インマニ負圧測定				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　一年次　基本④実習　電子制御式燃料噴射装置Ⅰ				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
9 時限	作業　Ｖベルト交換				
10 時限	作業　Ｖベルト交換				
11 時限	作業　Ｖベルト取り付け状態確認、エンジン始動、暖機、点火時期点検、				
12 時限	作業　ECU取り外し、シグナルチェックターミナル取り付け アイドル回転数点検				
13 時限	作業手順　電圧点検、単体点検、配線点検 解説（実習ノートP8～10）部品名称と役割				
14 時限	解説（実習ノートP8～10）部品名称と役割、配線色、続き				
15 時限	解説（実習ノートP8～10）部品名称と役割、配線色、続き				
16 時限	解説（実習ノートP11～12）電圧点検 作業　点火時期、アイドル回転数点検				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　一年次　基本④実習　電子制御式燃料噴射装置Ⅰ				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
17 時限	作業　点火時期、アイドル回転数点検、インマニ圧力点検				
18 時限	作業　点火時期調整、端子電圧点検				
19 時限	作業手順　現象確認（ダイアグノーシスコード確認）、電圧点検、単体点検、配線点検				
20 時限	解説（実習ノートP14～15）故障診断（探求）				
21 時限	作業　点検練習（ダイアグノーシスコード確認、電圧、単体、配線）				
22 時限	作業　点検練習（ダイアグノーシスコード確認、電圧、単体、配線）				
23 時限	作業　点検練習（ダイアグノーシスコード確認、電圧、単体、配線）				
24 時限	作業　点検練習（ダイアグノーシスコード確認、電圧、単体、配線）				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　一年次　基本④実習　電子制御式燃料噴射装置Ⅰ				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
25 時限	作業手順　点検内容再確認 作業　点検練習（ダイアグノーシスコード確認、電圧、単体、配線）				
26 時限	作業　点検練習（ダイアグノーシスコード確認、電圧、単体、配線）				
27 時限	作業　点検練習（ダイアグノーシスコード確認、電圧、単体、配線）				
28 時限	作業　エンジン基本点検（点火時期、アイドル回転数）練習				
29 時限	作業　エンジン基本点検（点火時期、アイドル回転数）練習				
30 時限	作業　エンジン基本点検（点火時期、アイドル回転数）練習				
31 時限	授業内試験　エンジン基本点検（点火時期、アイドル回転数）				
32 時限	授業内試験　エンジン基本点検（点火時期、アイドル回転数）				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　一年次　基本④実習　電子制御式燃料噴射装置Ⅰ				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
33 時限	授業内試験　エンジン基本点検（点火時期、アイドル回転数）				
34 時限	作業　故障探求練習（ダイアグノーシスコード確認、電圧、単体、配線）				
35 時限	作業　故障探求練習（ダイアグノーシスコード確認、電圧、単体、配線）				
36 時限	作業　故障探求練習（ダイアグノーシスコード確認、電圧、単体、配線） 片付け、まとめ				
37 時限	実技試験				
38 時限	実技試験				
39 時限	実技試験				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　一年次　導入実習　自動車の基本構造Ⅰ				
概要と目的	エンジンの基本構造を理解する 自動車の構造を学ぶ				
担　当　者	望月　順一、花岡　大輔	単位数	3 時限	区分	実習
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員が自動車の基本構造Ⅰについて教育を行う科目。				
講義対象	一年生	時　期	4月上旬		
使用教材	ベンチエンジン、単体エンジン、二・四輪車、基礎自動車工学テキスト、 基礎自動車整備作業テキスト				
到達目標	自動車の基礎知識、安全意識の徹底、実習ルールを知る				
成績評価	実技試験・出欠点・平常点 A評価が全体の25%、B評価が45%、C評価が30%を基準とする。				
授業計画					
1時限	1. 実習基本ルール　2. レポートの書き方				
2時限	3. ガソリン・エンジン各部の名称と役目				
3時限	4. 工具の取り扱い　5. 工具のチェック				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　一年次　導入実習　自動車の基本構造Ⅱ				
概要と目的	ジャッキアップダウンの体得 自動車の構造を学ぶ				
担　当　者	宮澤　圭輔、霜田　大	単位数	3 時限	区分	実習
実務経験					
講義対象	一年生	時　期	4月上旬		
使用教材	二・四輪車、基礎自動車工学テキスト				
到達目標	自動車の基礎知識、安全意識の徹底、実習ルールを知る				
成績評価	実技試験・出欠点・平常点 A評価が全体の25%、B評価が45%、C評価が30%を基準とする。				
授業計画					
1時限	導入　実習の目的				
2時限	ジャッキ及びリジットラックの安全な取り扱い　テキスト				
3時限	4 輪・2 輪車の各装置の取り付け位置と作動 （動力伝達装置　ステアリング装置　ブレーキ装置）　テキスト				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	なし

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　一年次　導入実習　自動車の材料				
概要と目的	各部開閉操作方法を体得 自動車の構造を学ぶ				
担　当　者	花岡　大輔、望月　順一	単位数	3 時限	区分	実習
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員が自動車の材料について教育を行う科目。				
講義対象	一年生	時　期	4月上旬		
使用教材	基礎自動車工学テキスト、実習車両（フィット、ヴィッツ）、高圧洗車機				
到達目標	自動車の基礎知識、安全意識の徹底、実習ルールを知る				
成績評価	実技試験・出欠点・平常点 A評価が全体の25%、B評価が45%、C評価が30%を基準とする。				
授業計画					
1時限	実習注意　安全、服装 1．車両の取り扱い　ドア類開閉、施錠、フェンダカバー、シートカバー				
2時限	2．自動車の材料　3．洗車　自動車の塗装について、洗車手順				
3時限	高圧洗車、ワックス掛け、室内清掃				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　一年次　導入実習　車両取り扱い				
概要と目的	エンジンの始動方法を体得 自動車の構造を学ぶ				
担　当　者	霜田　大、宮澤　圭輔	単位数	3 時限	区分	実習
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員が車両取り扱いについて教育を行う科目。				
講義対象	一年生	時　期	4月上旬		
使用教材	実習車両（G／E、D／E、AT車、MT車など多車種）、プリント				
到達目標	自動車の基礎知識、安全意識の徹底、実習ルールを知る				
成績評価	実技試験・出欠点・平常点 A評価が全体の25%、B評価が45%、C評価が30%を基準とする。				
授業計画					
1 時限	導入　実習の目的、エンジンの始動方法（プリント）				
2 時限	警告灯の見方（プリント）				
3 時限	日常点検、片付け、まとめ				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　二年次前期　ガソリンエンジン整備法1				
概要と目的	国家試験レベルの知識を身に付ける				
担　当　者	風間　功要	単位数	10 時限	区分	学科
実務経験					
講義対象	二年生	時　期	4月～9月中旬		
使用教材	二級ガソリン、三級ガソリン、二級二輪、単体教材				
到達目標	国家試験レベルの理解				
成績評価	期末試験・出欠点・平常点 A評価が全体の25%、B評価が45%、C評価が30%を基準とする。				
授業計画					
1 時限	バルブタイミング復習問題1				
2 時限	バルブタイミング復習問題答え合わせ (P7～11)第 1 章総論				
3 時限	(P11～14)第 1 章総論 熱効率、平均有効圧力、体積効率、充てん効率、諸損失、グロス値とネット値				
4 時限	(P14～22)第 1 章総論　第 2 章エンジン本体 ノッキング、有害ガス 3 種、シリンダヘッドとシリンダヘッドガスケット				
5 時限	(P22～27)第 2 章エンジン本体 シリンダブロック、ピストン、ピストンリング、コンロッド、ベアリング類				
6 時限	(P27～32)第 2 章エンジン本体 クランクシャフト、トーショナルダンパ、バランサ機構、バルブ、バルブスプリング				
7 時限	(P32～50)第 2 章エンジン本体第 3 章潤滑装置、第 4 章冷却装置 バルブクリアランス自動調整機構、可変バルブタイミング、可変バルブリフト、潤滑装置、冷却装置等				
8 時限	(P7～50)期末試験対策				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	なし

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　二年次前期　ガソリンエンジン整備法1				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
9 時限	(P7～50)期末試験対策				
10 時限	期末試験				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　二年次前期　ガソリンエンジン整備法2				
概要と目的	国家試験レベルの知識を身に付ける				
担　当　者	舟坂　義幸	単位数	10 時限	区分	学科
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員がガソリンエンン整備法2について教育を行う科目。				
講義対象	二年生	時　期	4月～9月中旬		
使用教材	二級ガソリンエンジン、三級ガソリンエンジン、プリント				
到達目標	国家試験レベルの燃料装置の理解				
成績評価	期末試験・出欠点・平常点 A評価が全体の25%、B評価が45%、C評価が30%を基準とする。				
授業計画					
1	第 8 章電子制御装置導入（一年次の復習と二年次の予定について） 一年次復習プリント解説				
2	アクセルポジションセンサと電子制御スロットル装置（2G　P109、134～135） その他の信号検出（2G　P114～117）				
3	インジョクタの駆動回路、噴射方式（2G　P117～119）				
4	噴射時間、電圧補正時間（2G　P122） 始動時噴射、通常時噴射（2G　P119～120）				
5	各種補正（2G　P120～121） フューエルカット（2G　P122～123）				
6	アイドル回転速度制御装置、ECUによる制御（2G　P123～128） 点火時期制御（2G　P129～130）				
7	過電流保護回路（2G　P131）　通電時間制御（2G　P133～134） フューエルポンプ（2G　P52）　プレッシャレギュレータ（3G　P71）				
8	フェイルセーフ（教科書外）　LPG燃料装置（2G　P53～55） 練習問題（プリント実施）				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　二年次前期　ガソリンエンジン整備法2				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
9	練習問題（プリント解答解説）				
10	期末試験				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　二年次前期　ジーゼルエンジン整備法				
概要と目的	国家試験レベルの知識を身に付ける				
担　当　者	舟坂　義幸	単位数	21 時限	区分	学科
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員がジーゼルエンジン整備法について教育を行う科目。				
講義対象	二年生	時　期	4月～9月中旬		
使用教材	二級ジーゼルエンジン　ジーゼルエンジン構造　配布ﾌﾟﾘﾝﾄ				
到達目標	国家試験レベルのジーゼル電子制御等の理解				
成績評価	期末試験・出欠点・平常点 A評価が全体の25%、B評価が45%、C評価が30%を基準とする。				

授業計画

1 時限	P39～　コモンレール式高圧燃料噴射装置　概要・各部品の名称・燃料の流れ
2 時限	P40～　サプライポンプ　バルブの配置・プランジャの配置　　吐出量制御バルブ
3 時限	P41～　吐出量制御バルブ　吸入量制御バルブ
4 時限	P43～　コモンレール　インジェクタ
5 時限	P44～　インジェクタ コモンレール式高圧燃料噴射装置国家試験過去問題解答・解説
6 時限	P45～　エアフローメータ　ブースト圧センサ　温度センサ
7 時限	P47～　温度センサ　回転センサ(ピックアップコイル式　磁気抵抗素子式)
8 時限	P49～　アクセルポジションセンサ　コモンレール圧力センサ　ECU
伝達事項等	

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　二年次前期　ジーゼルエンジン整備法				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
9 時限	P51～ ECU 各種制御				
10 時限	P51～ 各種制御　整備				
11 時限	コモンレール式高圧燃料噴射装置国家試験過去問題解答･解説				
12 時限	P61～ 吸排気装置　ターボチャージャ				
13 時限	P64～ インタクーラ DPF				
14 時限	P66～ 尿素 SCR システム　吸排気装置国家試験過去問題解答･解説				
15 時限	P97～ 予熱装置　電熱式インテークエアヒータ　グロープラグ				
16 時限	P97～ グロープラグ　予熱装置国家試験過去問題解答･解説				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　二級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　二年次前期　ジーゼルエンジン整備法				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
17 時限	P9～　性能　平均有効圧力　図示仕事率と正味仕事率　エンジンの諸損失				
18 時限	P11～　体積効率と充填効率　空気過剰率　エンジンの出力試験 性能国家試験過去問題解答･解説				
19 時限	P12～　ジーゼルエンジンの燃焼　燃焼過程　ジーゼルノック　排出ガス ジーゼルエンジンの燃焼国家試験過去問題解答･解説				
20 時限	期末試験対策				
21 時限	期末試験				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　二年次前期　シャシ整備法1				
概要と目的	国家試験レベルの知識を身に付ける				
担　当　者	寺島　英幸	単位数	12 時限	区分	学科
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員がシャシ整備法1について教育を行う科目。				
講義対象	二年生	時　期	4月～9月中旬		
使用教材	二級シャシ(P7～64)				
到達目標	国家試験レベルの動力伝達装置の理解				
成績評価	期末試験・出欠点・平常点 A評価が全体の25%、B評価が45%、C評価が30%を基準とする。				
授業計画					
1時限	総論(自動車の性能、走行抵抗と駆動力)P7～11				
2時限	総論(走行抵抗と駆動力、駆動力と走行性能、走行性能曲線図)P11～13				
3時限	総論(エンジン性能曲線図、駆動力曲線、走行抵抗曲線、最高速度、 加速性能、登坂能力)P14～16				
4時限	動力伝達装置(概要、構造・機能、伝達トルク容量)P17～18				
5時限	動力伝達装置(クラッチ・スプリング、AT、トルク・コンバータ)P18～20				
6時限	動力伝達装置(トルク・コンバータ)P21～22				
7時限	動力伝達装置(変速機構、電子制御装置、油圧制御機構)P23～32				
8時限	動力伝達装置(変速点、代表的なレンジの作動例、ロックアップ機構、安全装置) P32～49				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　二年次前期　シャシ整備法1				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
9時限	動力伝達装置(無段変速式(CVT))P50～53				
10 時限	動力伝達装置 (差動制限型ディファレンシャル、インタ・アクスル・ディファレンシャル)P53～57				
11 時限	動力伝達装置(インタ・アクスル・ディファレンシャル、整備)P57～64				
12 時限	対策解説				
13 時限	対策解説				
14 時限	対策解説				
15 時限	期末試験				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　二年次前期　シャシ整備法2				
概要と目的	国家試験レベルの知識を身に付ける				
担　当　者	竹内　章夫	単位数	12 時限	区分	学科
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員がシャシ整備法2について教育を行う科目。				
講義対象	二年生	時　期	4月～9月中旬		
使用教材	三級自動車シャシ、二級シャシ編、プリント				
到達目標	作動と故障探求を理解し、国家試験問題の解答を出せるようにする				
成績評価	期末試験・出欠点・平常点 A評価が全体の25%、B評価が45%、C評価が30%を基準とする。				
授業計画					
1	フレーム及びボデー（三級P165）　フレームボデーとモノコックボデーの特徴 安全ガラスと塗装　　※三級シャシ教科書解説終了				
2	第 4 章　ステアリング装置　（二級P89）　概要と種類 旋回性能（コーナリング・フォースの理解　P90）				
3	コーナリング・フォースとスリップ・アングルの関係（P91） アンダステアとオーバステアの解説、スリプ・アングルとの関係理解				
4	パワー・ステアリングの種類　（P92）				
5	油圧式パワー・ステアリング　（P93） インテグラル型パワーステアリングの名称と作動				
6	パワー・ステアリングの手動操舵とかじ取り感覚（P95）				
7	オイル・ポンプ（P96） ベーン型、フロー・コントロール・バルブ、プレッシャ・リリーフ・バルブ				
8	第 5 章　ホイール及びタイヤ（P107）　ホイールの構造機能　タイヤのたわみ説明 静荷重半径と動荷重半径について解説				
伝達事項等	実習授業のフォローアップ必要				

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　二年次前期　シャシ整備法2				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
9	タイヤの緩衝作用・転がり抵抗・発熱・振動・走行音・寿命・偏平率の説明(P109～112) タイヤの変形による抵抗の原因、アンバラスの発生原因、走行音の種類				
10	タイヤ・ホイールの整備(P113～)　タイヤの異常摩耗の種類と原因・調整方法 ホイールの取付方法　潤滑剤使用方法と締付けトルク(JIS と ISO 方式)				
11	第 6 章　ホイール・アライメント(P119～) 1 年次学科、アライメント実習の復習、二級ポイント				
12	期末試験				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　二年次前期　一般教養				
概要と目的	国家試験レベルの知識を身に付ける				
担　当　者	舟坂　義幸、寺島　英幸	単位数	7 時限	区分	学科
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員が一般教養について教育を行う科目。				
講義対象	二年生	時　期	4月～9月中旬		
使用教材	B検 3 級テキスト				
到達目標	ビジネス能力検定3級レベルの理解				
成績評価	期末試験・出欠点・平常点 A評価が全体の25%、B評価が45%、C評価が30%を基準とする。				
授業計画					
1時限目	仕事は正確に計画的に P80　社会人としてのルール P46				
2時限目	社内文書の種類と作成例 P96～99　電子メール P90～91				
3時限目	ビジネス文書の書き方 P92～93　ビジネス文書の種類 P94～95				
4時限目	社外文書の決まりごと P100～105　社外文書の出し方 P106～107				
5時限目	新聞記事 P128～131　グラフの種類と作り方 P118～123				
6時限目	練習問題				
7時限目	期末試験				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　二年次前期　検査機器				
概要と目的	国家試験レベルの知識を身に付ける				
担　当　者	寺島　英幸	単位数	9 時限	区分	学科
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員が検査機器について教育を行う科目。				
講義対象	二年生	時　期	4月～9月中旬		
使用教材	三級シャシ教科書　練習問題プリント				
到達目標	国家試験レベルの検査機器取り扱い方法の理解				
成績評価	期末試験・出欠点・平常点 A評価が全体の25%、B評価が45%、C評価が30%を基準とする。				
授業計画					
1 時限	導入　継続検査の流れ　現車確認　保安装置確認				
2 時限	検査ラインの検査機器				
3 時限	サイドスリップテスタの取り扱い及び注意点				
4 時限	音量計の取り扱い及び注意点				
5 時限	ヘッドライトテスタの取り扱い及び注意点				
6 時限	CO・HC テスタ、黒煙測定器、及びオパシメータ（光透過式黒鉛測定器）の取り扱い及び注意点				
7 時限	試験対策プリント				
8 時限	試験対策プリント				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　二年次前期　検査機器				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
9時限	実技試験				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　二年次前期　自動車検査				
概要と目的	国家試験レベルの知識を身に付ける				
担　当　者	寺島　英幸	単位数	19 時限	区分	学科
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員が自動車検査について教育を行う科目。				
講義対象	二年生	時　期	4月～9月中旬		
使用教材	法令教本				
到達目標	国家試験レベルの保安基準の理解				
成績評価	期末試験・出欠点・平常点 A評価が全体の25%、B評価が45%、C評価が30%を基準とする。				
授業計画					
1 時限	Ⅱ. 道路運送車両の保安基準　1. 自動車の構造 ・用語の定義　～　・安定性【P121～130】				
2 時限	Ⅱ. 道路運送車両の保安基準 1. 自動車の構造　2. 自動車の装置（原動機及びシャシ関係）				
3 時限	Ⅱ. 道路運送車両の保安基準　2. 自動車の装置（原動機及びシャシ関係） ・かじ取装置　～　・電気装置【P137～148】				
4 時限	Ⅱ. 道路運送車両の保安基準　3. 自動車の装置（車体関係） ・車枠及び車体（強度）　～　（車体表示）【P148～155】				
5 時限	Ⅱ. 道路運送車両の保安基準　3. 自動車の装置（車体関係） ・巻込防止装置　～　・運転者席【P155～164】				
6 時限	Ⅱ. 道路運送車両の保安基準　3. 自動車の装置（車体関係） ・座席　～　・立席【P164～170】				
7 時限	Ⅱ. 道路運送車両の保安基準 3. 自動車の装置（車体関係）　4. 自動車の装置（公害防止関係）				
8 時限	Ⅱ. 道路運送車両の保安基準 4. 自動車の装置（公害防止関係）　5. 自動車の装置（灯火関係）				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　二年次前期　自動車検査				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
9 時限	Ⅱ. 道路運送車両の保安基準　5. 自動車の装置(灯火関係) ・配光可変型前照灯　～　・側方照射灯【P206～213】				
10 時限	Ⅱ. 道路運送車両の保安基準　5. 自動車の装置(灯火関係) ・車幅灯　～　・尾灯【P214～228】				
11 時限	Ⅱ. 道路運送車両の保安基準　5. 自動車の装置(灯火関係) ・後部霧灯　～　・再帰反射材【P229～236】				
12 時限	Ⅱ. 道路運送車両の保安基準　5. 自動車の装置(灯火関係) ・制動灯　～　・非常点滅表示灯【P236～251】				
13 時限	Ⅱ. 道路運送車両の保安基準　5. 自動車の装置(灯火関係) 6. 自動車の装置(運転操作)				
14 時限	Ⅱ. 道路運送車両の保安基準　6. 自動車の装置(運転操作) ・停止表示器材　～　内圧容器及びその付属装置【P261～272】				
15 時限	Ⅱ. 道路運送車両の保安基準　6. 自動車の装置(運転操作) ・運行記録計　～　・乗車定員/最大積載量【P272～275】				
16 時限	期末試験対策				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　二年次前期　自動車検査				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
17 時限	期末試験対策				
18 時限	期末試験対策				
19 時限	期末試験				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　二年次前期　自動車力学				
概要と目的	国家試験レベルの知識を身に付ける				
担　当　者	竹内　章夫	単位数	17 時限	区分	学科
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員が自動車力学について教育を行う科目。				
講義対象	二年生	時　期	4月～9月中旬		
使用教材	力学練習問題、力学復習問題（プリント） 自動車整備士の計算の基礎と問題				
到達目標	国家試験レベルの理解				
成績評価	期末試験・出欠点・平常点 A評価が全体の25%、B評価が45%、C評価が30%を基準とする。				
授業計画					
1 時限	自動車力学練習問題⑪　自動車の重心〔NO.3〕				
2 時限	自動車力学練習問題⑪　自動車の重心〔NO.3〕				
3 時限	自動車力学復習問題⑪　自動車の重心〔NO.3〕				
4 時限	自動車力学練習問題⑫ トランスミッション				
5 時限	自動車力学練習問題⑫ トランスミッション				
6 時限	自動車力学復習問題⑫ トランスミッション				
7 時限	自動車力学練習問題⑬　出力と走行性能				
8 時限	自動車力学練習問題⑬　出力と走行性能				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　二年次前期　自動車力学				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
9 時限					
10 時限					
11 時限					
12 時限					
13 時限					
14 時限					
15 時限					
16 時限					
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　二年次前期　自動車力学				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
17 時限	期末試験				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　二年次前期　電装品整備法1				
概要と目的	国家試験レベルの知識を身に付ける				
担　当　者	舟坂　義幸	単位数	10 時限	区分	学科
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員が電装品整備法 1 について教育を行う科目。				
講義対象	二年生	時　期	4月～9月中旬		
使用教材	二級ガソリン(P74～103)				
到達目標	国家試験レベルのエンジン電装品の理解				
成績評価	期末試験・出欠点・平常点 A評価が全体の25%、B評価が45%、C評価が30%を基準とする。				
授業計画					
1時限	バッテリ(起電力、放電特性曲線、充電特性曲線)P74～75				
2時限	バッテリ(容量、始動性能)P76				
3時限	バッテリ(比重と温度、放電量、凍結温度)P77				
4時限	バッテリ(寿命、整備)P78				
5時限	始動装置(概要、構造・機能)P79～82				
6時限	始動装置(エンジンの始動特性、スタータの出力特性)P82～83				
7時限	始動装置(整備、性能テスト)P84～86				
8時限	充電装置 P87～97				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　二年次前期　電装品整備法1				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
9時限	点火装置 P98～103				
10 時限	期末試験				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　二年次前期　電装品整備法2				
概要と目的	国家試験レベルの知識を身に付ける				
担　当　者	風間　功要	単位数	10 時限	区分	学科
実務経験					
講義対象	二年生	時　期	4月～9月中旬		
使用教材	二級シャシ				
到達目標	国家試験レベルの理解				
成績評価	期末試験・出欠点・平常点 A評価が全体の25%、B評価が45%、C評価が30%を基準とする。				
授業計画					
1時限	計器(スピードメータ、エンジン・タコメータ)P173～175				
2時限	計器(ウォータ・テンパレチャ・ゲージ、フューエル・ゲージ)P176～178				
3時限	計器(インジケータ)P178～179				
4時限	警報装置 P180～182				
5時限	外部診断器(スキャンツール)P183～185				
6時限	空気調和装置(概要、エアコンの分類)P186～187				
7時限	空気調和装置(冷凍サイクルを構成する機能部品)P188～191				
8時限	空気調和装置(冷凍サイクルを構成する機能部品)P192～195				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	なし

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　二年次前期　電装品整備法2				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
9時限	空気調和装置(オートエアコン、整備)P196～203				
10 時限	対策問題				
11 時限	期末試験				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　二年次前期　燃料・潤滑剤				
概要と目的	国家試験レベルの知識を身に付ける				
担　当　者	風間　功要	単位数	25 時限	区分	学科
実務経験					
講義対象	二年生	時　期	4月～9月中旬		
使用教材	内燃機関、燃料・油脂（P37～73）、基礎自動車工学　他				
到達目標	国家試験レベルの理解				
成績評価	期末試験・出欠点・平常点 A評価が全体の25%、B評価が45%、C評価が30%を基準とする。				
授業計画					
1時限	石油の精製工程				
2時限	ガソリンの性能（オクタン価まで）				
3時限	ガソリンの性状続き				
4時限	軽油の性状				
5時限	LPガス、潤滑の種類				
6時限	潤滑の作用、潤滑剤の種類、潤滑油の性状				
7時限	オイルの分類、粘度による分類				
8時限	グリース、その他の潤滑剤、作動油				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	なし

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　二年次前期　燃料･潤滑剤				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
9時限	ブレーキ･フルード、不凍液				
10 時限	試験対策プリント実施				
11 時限	試験対策プリント実施				
12 時限	試験対策プリント実施				
13 時限	演習				
14 時限	演習				
15 時限	演習				
16 時限	演習				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　二級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　二年次前期　燃料･潤滑剤				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
17 時限	演習				
18 時限	演習				
19 時限	演習				
20 時限	演習				
21 時限	演習				
22 時限	演習				
23 時限	演習				
24 時限	演習				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　二級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　二年次前期　燃料･潤滑剤				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
25 時限	期末試験				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　二年次後期　ガソリンエンジン故障探究				
概要と目的	国家試験レベルの知識を身に付ける				
担　当　者	風間　功要、舟坂　義幸	単位数	25 時限	区分	学科
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員がガソリンエンジン故障探究について教育を行う科目。				
講義対象	二年生	時　期	9月下旬～3月		
使用教材	二級ガソリンエンジン、三級ガソリンエンジン、過去問題、プリント				
到達目標	国家試験レベルの完全理解				
成績評価	期末試験・出欠点・平常点 A評価が全体の25%、B評価が45%、C評価が30%を基準とする。				
授業計画					
1、2	問題演習と解説　エンジン本体				
3、4	問題演習と解説　バルブ・タイミング				
5、6	問題演習と解説　燃料装置				
7、8	問題演習と解説　潤滑装置				
9、10	問題演習と解説　冷却装置				
11、12	問題演習と解説　吸排気装置				
13、14	問題演習と解説　排出ガス浄化装置				
15、16	問題演習と解説　電子制御装置				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	なし

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　二年次後期　ガソリンエンジン故障探究				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
17、18	問題演習と解説　電子制御装置				
19、20	問題演習と解説　ノッキング				
21、22	問題演習と解説　故障原因探究				
23、24	問題演習と解説　エンジン点検・整備				
25	期末試験				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　二年次後期　ジーゼルエンジン故障探究				
概要と目的	国家試験レベルの知識を身に付ける				
担　当　者	舟坂　義幸	単位数	25 時限	区分	学科
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員がジーゼルエンジン故障探究について教育を行う科目。				
講義対象	二年生	時　期	9月下旬～3月		
使用教材	三級自動車ジーゼル・エンジン　二級ジーゼル自動車エンジン編 ジーゼル・エンジン構造　国家試験過去問題　プリント				
到達目標	国家試験レベルの完全理解				
成績評価	期末試験・出欠点・平常点 A評価が全体の25%、B評価が45%、C評価が30%を基準とする。				

授業計画

1、2	問題演習と解説　エンジン本体
3、4	問題演習と解説　エンジン本体
5、6	問題演習と解説　バルブ・タイミング
7、8	問題演習と解説　潤滑装置
9、10	問題演習と解説　冷却装置
11、12	問題演習と解説　燃料装置
13、14	問題演習と解説　燃料装置
15、16	問題演習と解説　電子制御
伝達事項等	

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　二年次後期　ジーゼルエンジン故障探究				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
17、18	問題演習と解説　吸排気装置				
19、20	問題演習と解説　排気ガス、ジーゼルノック				
21、22	問題演習と解説　排出ガス浄化装置				
23、24	問題演習と解説　故障探究、整備				
25	期末試験				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　二年次後期　シャシ故障探究				
概要と目的	国家試験レベルの知識を身に付ける				
担　当　者	寺島　英幸、竹内　章夫	単位数	33 時限	区分	学科
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員がシャシ故障探究について教育を行う科目。				
講義対象	二年生	時　期	9月下旬～3月		
使用教材	二級自動車シャシ編教科書、二級登録試験過去問題プリント				
到達目標	国家試験レベルの完全理解				
成績評価	期末試験・出欠点・平常点 A評価が全体の25%、B評価が45%、C評価が30%を基準とする。				

授業計画

1	問題演習と解説　アクスル及びサスペンション　概要、機能　P65～67
2	問題演習と解説　ボデーの振動及び揺動　P67～69
3	問題演習と解説　サスペンションから発生する異音、乗り心地　P69～71
4	問題演習と解説　反力制御式パワーステアリング　配布プリント ホイール、タイヤの転がり抵抗　P107～110
5	問題演習と解説　ABS　P141～145　TCS　P146～149
6	問題演習と解説　ブレーキ装置　制動距離、摩擦係数、不具合現象 P129～130
7	問題演習と解説　ABS　スリップ率、ブレーキ特性、コーナリング特性 P141～142 ABS油圧制御サイクル　P142　二級問題
8	問題演習と解説　ABS　車輪速センサ、ECU　P142～P143
伝達事項等	国家試験問題解説を中心に理解を深める

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　二年次後期　シャシ故障探究				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					

授業計画	
9	問題演習と解説　ABS　アクチュエータ　構成と役割、作動（増圧・減圧・保持）P144～145
10	問題演習と解説　ABS　作動（増圧・減圧・保持）P144～145、プリント
11	問題演習と解説　TCS　制御サイクル　P146、二級問題
12	問題演習解説　TCS　作動（増圧・減圧・保持）P147～149
13	問題演習と解説　TCS　作動（増圧・減圧・保持）P147～149
14	問題演習と解説　エア・油圧式ブレーキ　構成部品、系統図 P131、実習の復習
15	問題演習と解説　エア・油圧式ブレーキ　ブレーキ・バルブの作動　P132～134
16	問題演習と解説　エア・油圧式ブレーキ　ブレーキ・バルブの作動　P132～134、二級問題
伝達事項等	

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　二年次後期　シャシ故障探究				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					

授業計画	
17	問題演習と解説　エア・油圧式ブレーキ　ブレーキ・バルブの作動　P132～134、二級問題
18	問題演習と解説　制動倍力装置の作動　ハイドロリック・ピストン部の理解P134、実習復習
19	問題演習と解説　制動倍力装置の作動　P134～136、二級問題
20	問題演習と解説　制動倍力装置の作動　P134～136、二級問題
21	問題演習と解説　フル・エア式ブレーキ　エアの流れ、リレー・バルブ、ブレーキ・チャンバ、スラック・アジャスタの理解
22	問題演習と解説　フル・エア式ブレーキの作動　P136～140、二級問題
23	問題演習と解説　排気ブレーキ　電気空気式の作動理解P150～151、二級問題
24	問題演習と解説　排気ブレーキ　作動状態と制御の理解、各バルブの働き P150～153
伝達事項等	

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　二年次後期　シャシ故障探究				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
25	問題演習と解説　電磁式リターダの構造、永久磁石式リターダ、流体式リターダ、エンジン・リターダ P155～157				
26	問題演習と解説　ブレーキ装置の整備　不具合現象と注意点、実習復習　P158～163				
27	問題演習と解説　フレームとモノコックの違い、安全ボデー　構造とエネルギ吸収　P165～169				
28	問題演習と解説　整備　フレームの亀裂　修正と補強方法　P170～171				
29	問題演習と解説　フレーム及びボデー　二級問題				
30	問題演習と解説　ステアリング装置　二級問題				
31	問題演習と解説　ホイール及びタイヤ　二級問題				
32	問題演習と解説　ホイール・アライメント　二級問題				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　二年次後期　シャシ故障探究				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
33	期末試験				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　二年次後期　自動車検査				
概要と目的	国家試験レベルの知識を身に付ける				
担　当　者	寺島　英幸	単位数	31 時限	区分	学科
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員が自動車検査について教育を行う科目。				
講義対象	二年生	時　期	9月下旬～3月		
使用教材	法令教本、国家試験過去問題、プリント				
到達目標	国家試験レベルの理解				
成績評価	期末試験・出欠点・平常点 A評価が全体の25%、B評価が45%、C評価が30%を基準とする。				
授業計画					
1、2	問題演習と解説　車両法　種別				
3、4	問題演習と解説　車両法　登録				
5、6	問題演習と解説　車両法　検査				
7、8	問題演習と解説　車両法　分解整備事業				
9、10	問題演習と解説　車両法　指定制度				
11、12	問題演習と解説　車両法　定期点検				
13、14	問題演習と解説　車両法　点検基準				
15、16	問題演習と解説　保安基準　車体				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　二年次後期　自動車検査				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
17、18	問題演習と解説　保安基準　軸重、安定性				
19、20	問題演習と解説　保安基準　装置類				
21、22	問題演習と解説　保安基準　装置類				
23、24	問題演習と解説　保安基準　騒音防止装置				
25、26	問題演習と解説　保安基準　ガス発散防止装置				
27、28	問題演習と解説　保安基準　灯火類				
29、30	問題演習と解説　保安基準　非常信号用具、後写鏡、速度計　等				
31	期末試験				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　二年次後期　自動車材料				
概要と目的	国家試験レベルの知識を身に付ける				
担　当　者	舟坂　義幸	単位数	27 時限	区分	学科
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員が自動車材料について教育を行う科目。				
講義対象	二年生	時　期	9月下旬～3月		
使用教材	基礎自動車工学(P47～54)、自動車の材料、プリント				
到達目標	国家試験レベルの完全理解				
成績評価	期末試験・出欠点・平常点 A評価が全体の25%、B評価が45%、C評価が30%を基準とする。				
授業計画					
1、2	授業用プリント配布、問題実施				
3、4	解説　自動車の主要部品と材料、比熱、曲げ応力、非破壊探傷試験、鉄鋼材料				
5、6	解説　鋳鉄、鋼、熱処理				
7、8	解説　非鉄金属、非金属				
9、10	解説　自動車のボデー構造、ベアリング				
11、12	問題演習と解説				
13、14	問題演習と解説				
15、16	問題演習と解説				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　二年次後期　自動車材料				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
17、18	問題演習と解説				
19、20	問題演習と解説				
21、22	問題演習と解説				
23、24	問題演習と解説				
25、26	問題演習と解説				
27、28	問題演習と解説				
29、30	問題演習と解説				
31	期末試験				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　二年次後期　自動車力学				
概要と目的	国家試験レベルの知識を身に付ける				
担　当　者	竹内　章夫	単位数	37 時限	区分	学科
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員が自動車力学について教育を行う科目。				
講義対象	二年生	時　期	9月下旬～3月		
使用教材	自動車整備士の計算の基礎と問題、プリント				
到達目標	国家試験レベルの理解				
成績評価	期末試験・出欠点・平常点 A評価が全体の25%、B評価が45%、C評価が30%を基準とする。				
授業計画					
1、2	問題演習と解説　基本計算				
3、4	問題演習と解説　単位換算				
5、6	問題演習と解説　軸重1				
7、8	問題演習と解説　軸重2				
9、10	問題演習と解説　T/M、総減速比				
11、12	問題演習と解説　駆動輪の回転速度				
13、14	問題演習と解説　プラネタリ・ギヤ・ユニット				
15、16	問題演習と解説　出力				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　二年次後期　自動車力学				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
17、18	問題演習と解説　ピストンスピード				
19、20	問題演習と解説　スタータ出力				
21、22	問題演習と解説　圧力、ホイールシリンダ油圧				
23、24	問題演習と解説　バルブ機構				
25、26	問題演習と解説　電気回路1				
27、28	問題演習と解説　電気回路2				
29、30	問題演習と解説　燃焼室				
31、32	問題演習と解説　バルブ開度				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　二年次後期　自動車力学				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
33、34	問題演習と解説　クランク角カム角				
35、36	問題演習と解説　諸元・性能				
37	期末試験				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　二年次後期　図面				
概要と目的	国家試験レベルの知識を身に付ける				
担　当　者	風間　功要	単位数	27 時限	区分	学科
実務経験					
講義対象	二年生	時　期	9月下旬～3月		
使用教材	二級講習用製図編教科書　プリント　方眼紙				
到達目標	国家試験レベルの理解				
成績評価	期末試験・出欠点・平常点 A評価が全体の25%、B評価が45%、C評価が30%を基準とする。				
授業計画					
1	導入　自動車整備士として必要な製図、図面、部品図 製図の基本　P6、テキスト作成（毎時限使用）				
2	図形の投影方法、第三角法に基づく図形の位置　P6				
3	製図に用いる線の種類と用途　P7				
4	寸法補助記号　P9 許容限界の記入方法、寸法公差　P10				
5	許容限界の記入方法、寸法公差　P10				
6	幾何公差の表示方法と説明　P14 表面性状の図示方法、除去加工の指示方法　P25				
7	表面粗さ、算術平均粗さと最大高さ粗さ　P26				
8	図面の見方（テキスト）				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	なし

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　二年次後期　図面				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
9～26	問題演習と解説				
27	期末試験				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　二年次後期　電装品故障探究				
概要と目的	国家試験レベルの知識を身に付ける				
担　当　者	舟坂　義幸、風間　功要	単位数	25 時限	区分	学科
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員が電装品故障探究について教育を行う科目。				
講義対象	二年生	時　期	9月下旬～3月		
使用教材	二級ガソリン、プリント				
到達目標	国家試験レベルの完全理解				
成績評価	期末試験・出欠点・平常点 A評価が全体の25%、B評価が45%、C評価が30%を基準とする。				
授業計画					
1、2	解説　電気装置の配線　P204～209				
3、4	解説　安全装置及び付属装置　P210～221				
5、6	問題演習と解説　半導体				
7、8	問題演習と解説　バッテリ　種類、材質、起電力				
9、10	問題演習と解説　バッテリ　容量、比重、点検				
11、12	問題演習と解説　始動装置　スタータ、点検整備				
13、14	問題演習と解説　充電装置　オルタネータ、点検整備				
15、16	問題演習と解説　充電装置　レギュレータ、整備				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　二年次後期　電装品故障探究				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
17、18	問題演習と解説　点火装置　点火時期制御				
19、20	問題演習と解説　点火装置　スパーク･プラグ				
21、22	問題演習と解説　予熱装置				
23、24	問題演習と解説　エアコン				
25	期末試験				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　二年次　応用①実習　12ヶ月定期点検				
概要と目的	職場レベルの技術を身に付ける 個人レベルで体得する				
担　当　者	風間　功要、寺島　英幸	単位数	27 時限	区分	実習
実務経験					
講義対象	二年生	時　期	4月～5月		
使用教材	定期点検の手引き、法令教本等　日産マーチ、トヨタマークⅡ				
到達目標	個人レベルの作業の習得				
成績評価	実技試験・出欠点・平常点 A評価が全体の25%、B評価が45%、C評価が30%を基準とする。				
授業計画					
1 時限	導入				
2 時限	定期点検の基礎知識、記録簿記入の概要				
3 時限	1 台目点検開始　エンジンルーム点検（解説と実習）				
4 時限	エンジンルーム点検（解説と実習）				
5 時限	室内点検（解説と実習）、足廻り点検（解説と実習）				
6 時限	室内点検、足廻り点検				
7 時限	足廻り点検、下廻り点検（解説と実習）				
8 時限	日常点検（解説と実習）、シビアコンディション点検（解説と実習）、記録簿まとめ				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	なし

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　二年次　応用①実習　12ヶ月定期点検				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
9 時限	2台目点検開始　エンジンルーム点検、室内点検				
10 時限	室内点検、足廻り点検				
11 時限	足廻り点検、下廻り点検、日常点検、記録簿まとめ				
12 時限	整備業務の流れ、サービス受付、サービス引渡し、ロープレ練習				
13 時限	サービス受付、サービス引渡し、ロープレ練習				
14 時限	定期交換部品の反復練習、ロープレ練習				
15 時限	定期交換部品の反復練習、ロープレ練習				
16 時限	定期交換部品の反復練習、ロープレ練習				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　二年次　応用①実習　12ヶ月定期点検				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
17 時限	定期交換部品の反復練習、ロープレ練習				
18 時限	定期交換部品の反復練習、ロープレ練習				
19 時限	実技試験について、点検及び交換部品の反復練習				
20 時限	点検反復練習及び交換部品の反復練習				
21 時限	点検反復練習及び交換部品の反復練習前半後半入れ替え				
22 時限	点検反復練習及び交換部品の反復練習				
23 時限	点検反復練習及び交換部品の反復練習				
24 時限	点検反復練習及び交換部品の反復練習、車両仕上げ、全体まとめ				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　二年次　応用①実習　12ヶ月定期点検				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
25 時限	実技試験				
26 時限	実技試験				
27 時限	実技試験				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　二年次　応用①実習　ｵｰﾄﾏﾁｯｸ･ﾄﾗﾝｽﾐｯｼｮﾝ構造				
概要と目的	職場レベルの技術を身に付ける 構造作動を理解する				
担　当　者	寺島　英幸、風間　功要	単位数	27 時限	区分	実習
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員がｵｰﾄﾏﾁｯｸ･ﾄﾗﾝｽﾐｯｼｮﾝ構造について教育を行う科目。				
講義対象	二年生	時　期	4月～5月		
使用教材	二級シャシ(P19～49) 単体教材…RE4R型(4 速A／T)、ロックアップつきトルク・コンバータ				
到達目標	作動の理解と作業手順の習得				
成績評価	実技試験・出欠点・平常点 A評価が全体の25%、B評価が45%、C評価が30%を基準とする。				
授業計画					
1時限	導入（目的、教材紹介）、実習ノート作成				
2時限	導入続き、分解手順・注意事項解説				
3時限	A／T分解				
4時限	A／T分解				
5時限	構成部品確認（名称・スケッチ）				
6時限	構成部品確認（名称・スケッチ）・各部品の役割解説				
7時限	プラネタリ・ギヤ・ユニット導入（マニュアル・トランスミッションとの違い、種類） 構成部品確認、プラネタリ・ギヤ・ユニット部仮組付け（構造確認）				
8時限	プラネタリ・ギヤ・ユニットの作動解説（変速比と各ギヤの回転方向）				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　二年次　応用①実習　ｵｰﾄﾏﾁｯｸ･ﾄﾗﾝｽﾐｯｼｮﾝ構造				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
9時限	各クラッチ類の確認、Dレンジ1速、1 レンジ1速の作動状態（クラッチ類）解説				
10 時限	Dレンジ1速、1 レンジ1速の作動状態（クラッチ類）その他のレンジの作動状態				
11 時限	制御の種類と構成部品、センサ等の種類と名称及び役割				
12 時限	制御の種類と構成部品、センサ等の種類と名称及び役割				
13 時限	トルク・コンバータ導入、トルク・コンバータの作動原理				
14 時限	トルク・コンバータの構成部品と役割、スケッチ				
15 時限	ロックアップ解説				
16 時限	授業内試験（部品名称等）				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　二年次　応用①実習　ｵｰﾄﾏﾁｯｸ･ﾄﾗﾝｽﾐｯｼｮﾝ構造				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
17 時限	トルク･コンバータの性能、性能曲線図の読み方				
18 時限	トルク･コンバータ練習問題（計算）実施、解答解説				
19 時限	A／T組付け手順･注意点解説、A／T組付け				
20 時限	A／T組付け				
21 時限	A／T組付け				
22 時限	インヒビタ･スイッチの役割･作動解説、インヒビタ･スイッチ交換調整練習				
23 時限	インヒビタ･スイッチ交換調整練習				
24 時限	安全装置、まとめ、片付け				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

有資格	実務経験
あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　二年次　応用①実習　ｵｰﾄﾏﾁｯｸ･ﾄﾗﾝｽﾐｯｼｮﾝ構造				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
25 時限	実技試験				
26 時限	実技試験				
27 時限	実技試験				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　二年次　応用①実習　ステアリング整備				
概要と目的	職場レベルの技術を身に付ける 国家試験レベルの知識を身に付ける				
担　当　者	竹内　章夫、舟坂　義幸	単位数	27 時限	区分	実習
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員がステアリング整備について教育を行う科目。				
講義対象	二年生	時　期	4月～5月		
使用教材	教科書　二級自動車シャシ(P92～98・P102～105)　車両　マツダ・デミオ・DW 系 単体部品　ベーン型オイルポンプ　ラック・ピニオン型パワーステアリング ASSY(油圧式)				
到達目標	個人レベルの作業の習得				
成績評価	実技試験・出欠点・平常点 A評価が全体の25%、B評価が45%、C評価が30%を基準とする。				
授業計画					
1	目的　導入　実習ノート作成 二級自動車シャシ(P102～)P／Sの基本点検について				
2	P／Sの基本点検作業(一人一回作業)				
3	車両からのP／SギヤASSY及びP／Sオイルポンプ取り外し作業				
4	車両からのP／SギヤASSY及びP／Sオイルポンプ取り外し作業				
5	車両からのP／SギヤASSY及びP／Sオイルポンプ取り外し作業				
6	車両からのP／SギヤASSY及びP／Sオイルポンプ取り外し作業				
7	車両からのP／SギヤASSY及びP／Sオイルポンプ取り外し作業				
8	実習ノート(P2)P／SギヤASSY及びP／Sオイルポンプスケッチ、P／Sフルードの流れ、作動確認について				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　二年次　応用①実習　ステアリング整備				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
9	車両へのP／SギヤASSY及びP／Sオイルポンプ組み付け作業				
10	車両へのP／SギヤASSY及びP／Sオイルポンプ組み付け作業				
11	車両へのP／SギヤASSY及びP／Sオイルポンプ組み付け作業				
12	車両へのP／SギヤASSY及びP／Sオイルポンプ組み付け作				
13	車両へのP／SギヤASSY及びP／Sオイルポンプ組み付け作業				
14	車両へのP／SギヤASSY及びP／Sオイルポンプ組み付け作業				
15	車両へのP／SギヤASSY及びP／Sオイルポンプ組み付け作業 完成検査　エア抜き作業				
16	ベーン型オイルポンプ（単体部品）分解 実習ノート（P3～）部品名称確認　スケッチ				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　二年次　応用①実習　ステアリング整備				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
17	実習ノート(P5～)ベーン型オイルポンプの作動 実習ノート(P7～)フローコントロールバルブの作動				
18	実習ノート(P8～)プレッシャリリーフバルブの作動 実習ノート(P9～)エアコントールバルブの作動				
19	実習ノート(P6～)ベーン型オイルポンプの点検作業 ベーン型オイルポンプの組み付け				
20	ラックピニオン型P／S分解 実習ノート(P10～)部品名称確認　スケッチ				
21	実習ノート(P11～)ラックピニオン型スプールバルブ式作動				
22	ラックピニオン型P／S組み付け				
23	実技試験項目反復練習				
24	実技試験項目反復練習 清掃　まとめ　所感発表				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　二年次　応用①実習　ステアリング整備				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
25	実技試験				
26	実技試験				
27	実技試験				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　二年次　応用①実習　電子制御式燃料噴射装置Ⅱ				
概要と目的	職場レベルの技術を身に付ける 国家試験レベルの知識を身に付ける				
担　当　者	舟坂　義幸、竹内　章夫	単位数	27 時限	区分	実習
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員が電子制御式燃料噴射装置Ⅱについて教育を行う科目。				
講義対象	二年生	時　期	4月～5月		
使用教材	トヨタマークⅡ　ベンチエンジン　教科書（故障と探究）				
到達目標	個人レベルの作業の習得				
成績評価	実技試験・出欠点・平常点 A評価が全体の25%、B評価が45%、C評価が30%を基準とする。				
授業計画					
1 時限	導入と実習目的 実習ノート作成				
2 時限	故障探求導入（故探P5～8） 故障探求の流れ、不具合事例　※実習ノート使用				
3 時限	トラブルシュートのヒント（故探P11～13） パワーバランス、火花点検				
4 時限	トラブルシュートのヒント（故探P43～45、14） インジェクタ作動音、圧縮点検				
5 時限	トラブルシュートのヒント（故探P40～43、9） エアの吸い込み、燃圧点検、混合気の濃さ				
6 時限	ダイアグノーシス点検　※実習ノート使用 故障探求事例について				
7 時限	EFI故障探求の基本的な考え方について 故障探求実例の実施　※実習ノート使用				
8 時限	故障探求実例の実施　※実習ノート使用				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　二年次　応用①実習　電子制御式燃料噴射装置Ⅱ				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
9 時限	故障探求実例の実施　※実習ノート使用				
10 時限	故障探求実例の実施　※実習ノート使用 故障探求実践				
11 時限	故障探求実践				
12 時限	故障探求実践、まとめ 配線図の読み方、配線図と現車確認				
13 時限	オシロスコープ導入、 取り扱い手順と注意点、各スイッチの役割と操作方法				
14 時限	オシロスコープ操作（模擬信号取り込み、画面表示、表示方法の変更）				
15 時限	オシロスコープ操作（模擬信号取り込み、画面表示、表示方法の変更）				
16 時限	インジェクタ駆動信号波形測定表示、信号波形について解説				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　二年次　応用①実習　電子制御式燃料噴射装置Ⅱ				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
17 時限	IGT、IGF、IG(－)信号波形測定表示、信号波形について解説				
18 時限	ISC駆動信号波形測定表示、信号波形(デューティ信号)について解説				
19 時限	クランク各センサ(G、Ne)信号波形測定表示、信号波形について解説				
20 時限	オシロスコープ波形表示個人練習				
21 時限	オシロスコープ波形表示個人練習 O2センサ、バキューム・センサ、ノック・センサ信号表示確認				
22 時限	オシロスコープまとめ、片付け 反復練習(故障探求実践、オシロスコープ)				
23 時限	反復練習(故障探求実践、オシロスコープ)				
24 時限	反復練習(故障探求実践、オシロスコープ) 片付け、清掃、まとめ				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　二年次　応用①実習　電子制御式燃料噴射装置Ⅱ				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
25 時限	実技試験				
26 時限	実技試験				
27 時限	実技試験				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　二年次　応用②実習　ジーゼルエンジン燃料装置				
概要と目的	職場レベルの技術を身に付ける 構造作動を理解する				
担　当　者	風間　功要、舟坂　義幸	単位数	33 時限	区分	実習
実務経験					
講義対象	二年生	時　期	6月～9月中旬		
使用教材	2C型ジーゼルエンジン単体　VE型インジェクション・ポンプ単体（2Cより取り外し） コモンレール単体部品各種　実習ノート　三・二級ジーゼル教科書　ムービーコム				
到達目標	作業手順の習得				
成績評価	実技試験・出欠点・平常点 A評価が全体の25%、B評価が45%、C評価が30%を基準とする。				
授業計画					
1時限	導入　実習目的　注意点				
2時限	2C型ジーゼル・エンジン単体からVE型インジェクション・ポンプ取り外し				
3時限	VE型インジェクション・ポンプ単体分解				
4時限	VE型インジェクション・ポンプ単体分解完了				
5時限	部品名称確認				
6時限	VE型インジェクション・ポンプ構造作動				
7時限	VE型インジェクション・ポンプ構造作動				
8時限	VE型インジェクション・ポンプ構造作動				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	なし

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　二年次　応用②実習　ジーゼルエンジン燃料装置				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
9時限	VE型インジェクション・ポンプ構造作動 実習ノート　ムービー・コム				
10 時限	VE型インジェクション・ポンプ構造作動 実習ノート　ムービー・コム				
11 時限	VE型インジェクション・ポンプ構造作動　科目内試験対策及び準備 実習ノート　ムービー・コム				
12 時限	VE型インジェクション・ポンプ構造作動　科目内試験対策及び準備 実習ノート　ムービー・コム				
13 時限	授業内実技試験(部品名称と働き)　課題ﾌﾟﾘﾝﾄ				
14 時限	VE型インジェクション・ポンプ構造作動 実習ノート　ムービー・コム				
15 時限	VE型インジェクション・ポンプ構造作動 実習ノート　ムービー・コム				
16 時限	VE型インジェクション・ポンプ構造作動 実習ノート　ムービー・コム				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　二年次　応用②実習　ジーゼルエンジン燃料装置				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
17 時限	VE型インジェクション・ポンプ単体組み付け				
18 時限	VE型インジェクション・ポンプ単体組み付け				
19 時限	VE型インジェクション・ポンプ単体組み付け				
20 時限	VE型インジェクション・ポンプを2Cエンジン単体に組み付け				
21 時限	VE型インジェクション・ポンプを2Cエンジン単体に組み付け				
22 時限	コモンレール式高圧燃料噴射装置 サプライポンプ分解作業・部品名称確認				
23 時限	サプライポンプ構造作動 実習ノート				
24 時限	サプライポンプ構造作動 実習ノート				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　二年次　応用②実習　ジーゼルエンジン燃料装置				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
25 時限	サプライポンプ構造作動 実習ノート				
26 時限	サプライポンプ組み付け				
27 時限	コモンレール式高圧燃料噴射装置 コモンレール構造作動				
28 時限	実技試験項目反復練習				
29 時限	実技試験項目反復練習				
30 時限	実技試験項目反復練習・実習のまとめ・清掃・レポート所感				
31 時限	実技試験				
32 時限	実技試験				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　二年次　応用②実習　ジーゼルエンジン燃料装置				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
33 時限	実技試験				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　二年次　応用②実習　ホイールアライメント				
概要と目的	職場レベルの技術を身に付ける 調整作業を体得する				
担　当　者	竹内　章夫、寺島　英幸	単位数	33 時限	区分	実習
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員がホイールアライメントについて教育を行う科目。				
講義対象	二年生	時　期	6月～9月中旬		
使用教材	三級シャシ(P123～133)、二級シャシ(P119～128)				
到達目標	個人レベルの作業の習得				
成績評価	実技試験・出欠点・平常点 A評価が全体の25%、B評価が45%、C評価が30%を基準とする。				
授業計画					
1時限	導入、実習ノート作成、アライメントとは				
2時限	測定前準備解説、タイヤサイズ、タイヤ空気圧、溝等確認 ホイール・ベース、トレッド、対角線の各距離測定				
3時限	ホイール・ベース、トレッド、対角線の各距離測定続き（車両交代）				
4時限	点検測定手順解説…ハンドル方の有無、ハンドル回転量、ターニング・ラジアス 点検測定…ハンドル方の有無、ハンドル回転量、ターニング・ラジアス				
5時限	点検測定…ハンドル方の有無、ハンドル回転量、ターニング・ラジアス				
6時限	点検測定…ハンドル方の有無、ハンドル回転量、ターニング・ラジアス 解説…点検項目のまとめ、旋回時の外輪と内輪、サイド・スリップ導入				
7時限	解説…サイド・スリップ、CCK・ゲージの使い方（コンペンセータ補正手順）				
8時限	作業…コンペンセータ補正（個人練習）、サイド・スリップ測定（班単位）				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　二年次　応用②実習　ホイールアライメント				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
9時限	作業…コンペンセータ補正（個人練習）、サイド・スリップ測定（班単位）				
10 時限	解説…キャンバ、キャスタ、キング・ピン傾角測定手順と注意点				
11 時限	作業…キャンバ、キャスタ、キング・ピン傾角測定（個人練習）				
12 時限	作業…キャンバ、キャスタ、キング・ピン傾角測定（個人練習） 解説…点検項目まとめ				
13 時限	解説…キャンバ				
14 時限	作業…キャンバ、キャスタ、キング・ピン傾角測定、調整、測定時車両状態変更				
15 時限	作業…キャンバ、キャスタ、キング・ピン傾角測定、調整、測定時車両状態変更				
16 時限	作業…キャンバ、キャスタ、キング・ピン傾角測定、調整、車両交換				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　二年次　応用②実習　ホイールアライメント				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
17 時限	作業…キャンバ、キャスタ、キング・ピン傾角測定、調整、車両交換				
18 時限	作業…キャンバ、キャスタ、キング・ピン傾角測定、調整、車両交換 解説…キャスタ				
19 時限	解説…キング・ピン傾角、トー測定手順				
20 時限	作業…トー測定、 解説…4輪アライメント・テスタ使用法と調整（テスタを使用して解説）				
21 時限	作業…トー測定 解説…4輪アライメント・テスタ使用法と調整（テスタを使用して解説）				
22 時限	作業…トー測定 解説…4輪アライメント・テスタ使用法と調整（テスタを使用して解説）				
23 時限	作業…トー測定（車両交換） 解説…4輪アライメント・テスタ使用法と調整（テスタを使用して解説）				
24 時限	作業…トー測定（車両交換） 解説…4輪アライメント・テスタ使用法と調整（テスタを使用して解説）				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　二年次　応用②実習　ホイールアライメント				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
25 時限	トーイン調整とサイド・スリップ測定 解説…4輪アライメント・テスタ使用法と調整（テスタを使用して解説）				
26 時限	トーイン調整とサイド・スリップ測定 解説…4輪アライメント・テスタ使用法と調整（テスタを使用して解説）				
27 時限	トーイン調整とサイド・スリップ測定 解説…4輪アライメント・テスタ使用法と調整（テスタを使用して解説）				
28 時限	トーイン調整とサイド・スリップ測定 解説…4輪アライメント・テスタ使用法と調整（テスタを使用して解説）				
29 時限	各測定個人練習				
30 時限	各測定個人練習、まとめ、片付け				
31 時限	実技試験				
32 時限	実技試験				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　二年次　応用②実習　ホイールアライメント				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
33 時限	実技試験				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　二年次　応用②実習　実践整備Ⅰ　Ⅰ／P脱着				
概要と目的	職場レベルの技術を身に付ける 構造作動を理解する				
担　当　者	舟坂　義幸、風間　功要	単位数	33 時限	区分	実習
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員が実践整備Ⅰ　Ⅰ／P脱着について教育を行う科目。				
講義対象	二年生	時　期	6月～9月中旬		
使用教材	実車:AD ﾊﾞﾝ(VSY10)、プロボックス・サクシード(NLP51V)、単体ｴﾝｼﾞﾝ(2C) 三級ジーゼル、二級ジーゼル、実習ノート				
到達目標	個人レベルの作業の習得				
成績評価	実技試験・出欠点・平常点 A評価が全体の25%、B評価が45%、C評価が30%を基準とする。				
授業計画					
1時限	導入 三級 P65～66, 74～75, 80～84, 88～89 二級 P39～40, 44～45, 51～52				
2時限	予熱装置　グロー・プラグ式の概要、構成				
3時限	予熱装置　グロー・プラグ式の構成				
4時限	予熱装置　グロー・プラグ式の予熱回路とグロー・プラグ・リレーの構成、点検				
5時限	予熱装置　グロー・プラグ式の予熱回路点検、インテーク・エア・ヒータ式の構成				
6時限	インジェクション・ノズル及びノズル・ホルダの構造・作動				
7時限	インジェクション・ノズル脱着及び分解				
8時限	ノズルの噴射圧力の調整方法の習得				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　二年次　応用②実習　実践整備Ⅰ　Ⅰ／P脱着				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
9時限	ノズル・テスタによるノズルの点検と測定及び反復練習				
10 時限	ノズル・テスタによるノズルの点検と測定及び反復練習				
11 時限	コモンレール式高圧燃料噴射装置　概要、燃料の流れ、構成部品				
12 時限	コモンレール式高圧燃料噴射装置　ソレノイド式インジェクタの役割、構成				
13 時限	コモンレール式高圧燃料噴射装置　ソレノイド式インジェクタの作動				
14 時限	コモンレール式高圧燃料噴射装置　ECUの各制御				
15 時限	実車から VE 型インジェクション・ポンプ取り外し作業 ジーゼル・エンジン特徴・概要				
16 時限	VE 型インジェクション・ポンプ概要　燃料の流れ　実習ノート使用 実車から VE 型インジェクション・ポンプ取り外し手順の説明及び注意点				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　二年次　応用②実習　実践整備Ⅰ　Ⅰ／P脱着				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
17 時限	実車から VE 型インジェクション・ポンプ取り外し作業				
18 時限	実車から VE 型インジェクション・ポンプ取り外し作業				
19 時限	実車から VE 型インジェクション・ポンプ取り外し作業				
20 時限	実車から VE 型インジェクション・ポンプ取り外し作業完了				
21 時限	VE 型インジェクション・ポンプを実車に取り付け手順の説明及び注意点				
22 時限	VE 型インジェクション・ポンプを実車に取り付け作業				
23 時限	VE 型インジェクション・ポンプを実車に取り付け作業				
24 時限	VE 型インジェクション・ポンプを実車に取り付け作業				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　二年次　応用②実習　実践整備Ⅰ　Ⅰ／P脱着				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
25 時限	VE 型インジェクション・ポンプを実車に取り付け作業				
26 時限	VE 型インジェクション・ポンプを実車に取り付け作業完了				
27 時限	フューエルラインのエアー抜き作業　アイドル回転数の点検・調整 噴射時期の点検				
28 時限	実技試験項目反復練習				
29 時限	実技試験項目反復練習				
30 時限	実技試験項目反復練習				
31 時限	実技試験				
32 時限	実技試験				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　二年次　応用②実習　実践整備Ⅰ　Ⅰ／P脱着				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
33 時限	実技試験				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　二年次　応用②実習　実践整備Ⅱ　エンジン脱着				
概要と目的	職場レベルの技術を身に付ける 作業を体得する				
担　当　者	寺島　英幸、竹内　章夫	単位数	33 時限	区分	実習
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員が実践整備Ⅱエンジン脱着について教育を行う科目。				
講義対象	二年生	時　期	6月～9月中旬		
使用教材	実習車両				
到達目標	作業手順の習得、個人レベルの作業の習得				
成績評価	実技試験・出欠点・平常点 A評価が全体の25%、B評価が45%、C評価が30%を基準とする。				
授業計画					
1 時限	導入と実習目的 エンジンオーバホールについて				
2 時限	エンジンオーバホールについて エンジン脱着が必要な作業について				
3 時限	エンジン脱着作業（降し） 燃料流出防止、油脂抜き取り、ラジエータ				
4 時限	エンジン脱着作業（降し） エアクリーナ、各種ケーブル、クラッチレリーズシリンダ、P／Sポンプ				
5 時限	エンジン脱着作業（降し） A／Cホース、エンジンワイヤーハーネス				
6 時限	エンジン脱着作業（降し） メンバ、エキゾーストパイプ				
7 時限	エンジン脱着作業（降し） ドライブシャフト、ホース類				
8 時限	エンジン脱着作業（降し） 切り離し前最終チェック、車両より切り離し				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　二年次　応用②実習　実践整備Ⅱ　エンジン脱着				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
9 時限	エンジン脱着作業（降し） エンジン異常個所点検				
10 時限	エンジン脱着作業（載せ） 車両へ組付け				
11 時限	エンジン脱着作業（載せ） ホース類、ドライブシャフト				
12 時限	エンジン脱着作業（載せ） エキゾーストパイプ、メンバ				
13 時限	エンジン脱着作業（載せ） エンジンワイヤーハーネス、P／Sポンプ、各種ケーブル、クラッチレリーズ				
14 時限	エンジン脱着作業（載せ） エアクリーナ、ラジエータ、油脂注入				
15 時限	エンジン脱着作業（載せ）、最終チェック項目について 反復練習（タイロッドエンド脱着、ラジエータホース脱着）				
16 時限	解説…導入、タイミング・ベルト取り外し手順と注意 作業…タイミング・ベルト取り外し作業				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　二年次　応用②実習　実践整備Ⅱ　エンジン脱着				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
17 時限	作業…タイミング・ベルト取り外し作業 解説…タイミング・ベルト交換作業の手順と注意				
18 時限	作業…タイミング・ベルト交換練習（個人）				
19 時限	作業…タイミング・ベルト交換練習（個人）				
20 時限	作業…タイミング・ベルト交換練習（個人）				
21 時限	作業…タイミング・ベルト交換練習（個人）				
22 時限	授業内実技試験（タイミング・ベルト交換）				
23 時限	解説…組付け作業時の手順と注意 作業…タイミング・ベルト交換時の補機部品組付け作業				
24 時限	作業…タイミング・ベルト交換時の補機部品組付け作業				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　二年次　応用②実習　実践整備Ⅱ　エンジン脱着				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
25 時限	作業…タイミング・ベルト交換時の補機部品組付け作業				
26 時限	解説…オルタネータ・ベルト、エアコン・ベルト交換作業の手順と注意 作業…オルタネータ・ベルト交換作業練習				
27 時限	作業…オルタネータ・ベルト、エアコン・ベルト交換作業練習				
28 時限	作業…オルタネータ・ベルト、エアコン・ベルト交換作業練習				
29 時限	反復練習				
30 時限	反復練習 片付け、清掃、まとめ				
31 時限	実技試験				
32 時限	実技試験				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　二年次　応用②実習　実践整備Ⅱ　エンジン脱着				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
33 時限	実技試験				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　二年次　応用②実習　全体実習(定期点検)				
概要と目的	職場レベルの技術を身に付ける 各作業の体得				
担　当　者	寺島　英幸、二年職員	単位数	30 時限	区分	実習
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員が全体実習(定期点検)について教育を行う科目。				
講義対象	二年生	時　期	6月～9月中旬		
使用教材	定期点検の手引き、法令教本				
到達目標	個人レベルの作業の習得				
成績評価	実技試験・出欠点・平常点 A評価が全体の25%、B評価が45%、C評価が30%を基準とする。				
授業計画					
1 時限	技能コンテスト導入				
2 時限	12ヵ月定期点検整備、記録簿作成、アドバイザー練習				
3 時限	12ヵ月定期点検整備、記録簿作成、アドバイザー練習				
4 時限	12ヵ月定期点検整備、記録簿作成、アドバイザー練習				
5 時限	12ヵ月定期点検整備、記録簿作成、アドバイザー練習				
6 時限	12ヵ月定期点検整備、記録簿作成、アドバイザー練習、HR				
7 時限	12ヵ月定期点検整備、記録簿作成、アドバイザー練習				
8 時限	12ヵ月定期点検整備、記録簿作成、アドバイザー練習				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　二年次　応用②実習　全体実習(定期点検)				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
9 時限	12ヵ月定期点検整備、記録簿作成、アドバイザー練習				
10 時限	12ヵ月定期点検整備、記録簿作成、アドバイザー練習				
11 時限	12ヵ月定期点検整備、記録簿作成、アドバイザー練習				
12 時限	12ヵ月定期点検整備、記録簿作成、アドバイザー練習、HR				
13 時限	12ヵ月定期点検整備、記録簿作成、アドバイザー練習				
14 時限	12ヵ月定期点検整備、記録簿作成、アドバイザー練習				
15 時限	12ヵ月定期点検整備、記録簿作成、アドバイザー練習				
16 時限	12ヵ月定期点検整備、記録簿作成、アドバイザー練習				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　二年次　応用②実習　全体実習(定期点検)				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
17 時限	12ヵ月定期点検整備、記録簿作成、アドバイザー練習				
18 時限	12ヵ月定期点検整備、記録簿作成、アドバイザー練習、HR				
19 時限	12ヵ月定期点検整備、記録簿作成、アドバイザー練習				
20 時限	12ヵ月定期点検整備、記録簿作成、アドバイザー練習				
21 時限	12ヵ月定期点検整備、記録簿作成、アドバイザー練習				
22 時限	12ヵ月定期点検整備、記録簿作成、アドバイザー練習				
23 時限	12ヵ月定期点検整備、記録簿作成、アドバイザー練習				
24 時限	12ヵ月定期点検整備、記録簿作成、アドバイザー練習、HR				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　二年次　応用②実習　全体実習(定期点検)				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
25 時限	技能コンテスト				
26 時限	技能コンテスト				
27 時限	技能コンテスト				
28 時限	技能コンテスト				
29 時限	技能コンテスト				
30 時限	技能コンテスト				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　二年次　応用③実習　24ヶ月定期点検				
概要と目的	職場レベルの技術を身に付ける 個人レベルで体得する				
担　当　者	風間　功要、寺島　英幸	単位数	45 時限	区分	実習
実務経験					
講義対象	二年生	時　期	9月下旬～11月中旬		
使用教材	法令教本、二・三級ガソリン、二・三級シャシ、二・三級ジーゼル				
到達目標	個人レベルの作業の習得				
成績評価	実技試験・出欠点・平常点 A評価が全体の25%、B評価が45%、C評価が30%を基準とする。				
授業計画					
1 時限	導入				
2 時限	車検の概要、実車にて 2 年点検を説明 ブレーキテスタ点検手順測定				
3 時限	実車点検作業 スピードメータ点検手順測定				
4 時限	国家試験対策授業				
5 時限	国家試験対策授業				
6 時限	国家試験対策授業				
7 時限	実車点検作業 ブレーキ、スピード測定値判定　解説				
8 時限	実車点検作業 ヘッドライト・テスタ点検手順測定(右)				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	なし

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　二年次　応用③実習　24ヶ月定期点検				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
9 時限	実車点検作業 ヘッドライト・テスタ点検調整続き（左）				
10 時限	国家試験対策授業				
11 時限	国家試験対策授業				
12 時限	国家試験対策授業				
13 時限	実車点検作業、エアコン真空引き、充てん、ガス量の確認作業、実車点検作業 近接排気騒音、警音器点検				
14 時限	実車点検作業、エアコン真空引き、充てん、ガス量の確認作業、実車点検作業 近接排気騒音、警音器点検、横滑り量点検				
15 時限	エアコン真空引き、充てん、ガス量の確認作業、実車点検作業 横滑り量（サイド・スリップ）点検、練習問題				
16 時限	国家試験対策授業				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　二年次　応用③実習　24ヶ月定期点検				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
17 時限	国家試験対策授業				
18 時限	国家試験対策授業				
19 時限	エアコン真空引き、充てん、ガス量の確認作業、実車点検作業。 オートエアコン解説、練習問題解答				
20 時限	まとめ、練習、清掃。入れ替え。				
21 時限	導入				
22 時限	国家試験対策授業				
23 時限	国家試験対策授業				
24 時限	国家試験対策授業				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　二年次　応用③実習　24ヶ月定期点検				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
25 時限	ブレーキテスタ点検手順測定 車検の概要、実車にて 2 年点検を説明				
26 時限	スピードメータ点検手順測定 実車点検作業				
27 時限	ヘッドライト・テスタ点検調整続き（右） 実車点検作業				
28 時限	国家試験対策授業				
29 時限	国家試験対策授業				
30 時限	国家試験対策授業				
31 時限	ヘッドライト・テスタ点検調整続き（左） 実車点検作業				
32 時限	近接排気騒音、警音器点検 実車点検作業、エアコン真空引き、充てん、ガス量の確認作業、実車点検作業				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　二年次　応用③実習　24ヶ月定期点検				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
33 時限	近接排気騒音、警音器点検、横滑り量点検 実車点検作業、エアコン真空引き、充てん、ガス量の確認作業、実車点検作業				
34 時限	国家試験対策授業				
35 時限	国家試験対策授業				
36 時限	国家試験対策授業				
37 時限	横滑り量（サイド・スリップ）点検、練習問題 エアコン真空引き、充てん、ガス量の確認作業、実車点検作業				
38 時限	オートエアコン解説、練習問題解答 エアコン真空引き、充てん、ガス量の確認作業、実車点検作業。				
39 時限	まとめ、練習、清掃。				
40 時限	国家試験対策授業				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　二年次　応用③実習　24ヶ月定期点検				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
41 時限	国家試験対策授業				
42 時限	国家試験対策授業				
43 時限	実技試験				
44 時限	実技試験				
45 時限	実技試験				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　二年次　応用③実習　実践整備Ⅲ　A／T				
概要と目的	職場レベルの技術を身に付ける 作業を体得する				
担　当　者	竹内　章夫、舟坂　義幸	単位数	45 時限	区分	実習
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員が実践整備ⅢA/Tについて教育を行う科目。				
講義対象	二年生	時　期	9月下旬～11月中旬		
使用教材	三級シャシ(P34～37、41～44、223～224) 二級シャシ(P19～49、59～64)				
到達目標	実技試験・出欠点・平常点 A評価が全体の25%、B評価が45%、C評価が30%を基準とする。				
成績評価	実技試験・出欠点・平常試験・レポート				
授業計画					
1時限	解説…導入①(目的、教材)、実習ノート作成				
2時限	解説…作業手順、取外し作業時の注意 作業…ドライブ・シャフト取外し				
3時限	作業…ドライブ・シャフト取外し続き				
4時限	解説…作業手順、取外し作業時の注意 作業…ディファレンシャル・キャリア取り外し				
5時限	作業…ディファレンシャル・キャリア取り外し(完了)				
6時限	解説…作業手順、取り付け作業時の注意 作業…ディファレンシャル・キャリア取り付け				
7時限	作業…ディファレンシャル・キャリア取り付け(完了)				
8時限	解説…作業手順、取り外し作業時の注意 作業…A／Tアセンブリ取り外し				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　二年次　応用③実習　実践整備Ⅲ　A／T				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
9時限	作業…A／Tアセンブリ取り外し				
10 時限	作業…A／Tアッセンブリ取り外し				
11 時限	作業…A／Tアッセンブリ取り外し（完了）				
12 時限	解説…取り付け作業手順、注意点 作業…A／Tアッセンブリ取り付け				
13 時限	作業…A／Tアッセンブリ取り付け				
14 時限	作業…A／Tアッセンブリ取り付け				
15 時限	作業…A／Tアッセンブリ取り付け				
16 時限	解説…ドライブ・シャフト分解手順、注意点（単体教材） 作業…ドライブ・シャフト分解				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　二年次　応用③実習　実践整備Ⅲ　A／T				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
17 時限	解説…ユニバーサル・ジョイント				
18 時限	課題…バーフィールド型ジョイントとトリポード型ジョイントのスケッチ				
19 時限	課題…バーフィールド型ジョイントとトリポード型ジョイントのスケッチ				
20 時限	解説…ドライブ・シャフト・ブーツ交換作業手順、注意点 作業…ドライブ・シャフト・ブーツ交換（個人）				
21 時限	作業…ドライブ・シャフト・ブーツ交換練習（個人） 解説…シフト・レバー操作部（シフト・ロック、キー・インタロック）				
22 時限	作業…ドライブ・シャフト・ブーツ交換練習（個人） 解説…シフト・レバー操作部（シフト・ロック、キー・インタロック）				
23 時限	作業…ドライブ・シャフト・ブーツ交換練習（個人） 解説…シフト・レバー操作部（シフト・ロック、キー・インタロック）				
24 時限	作業…ドライブ・シャフト・ブーツ交換練習（個人） 解説…シフト・レバー操作部（シフト・ロック、キー・インタロック）				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　二年次　応用③実習　実践整備Ⅲ　A／T				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
25 時限	作業…ドライブ・シャフト・ブーツ交換練習（個人） 解説…シフト・レバー操作部（シフト・ロック、キー・インタロック）				
26 時限	授業内試験…ドライブ・シャフト・ブーツ交換				
27 時限	授業内試験…ドライブ・シャフト・ブーツ交換				
28 時限	授業内試験…試験予備時間 作業…授業内試験終了後の片付けと清掃				
29 時限	解説…A／T基本点検の手順と注意点				
30 時限	解説…A／T油量点検時の手順と注意 作業…油量点検（始動前、エンジン冷間時）、A／T基本点検、排気漏れ点検				
31 時限	作業…油量点検（始動前、エンジン冷間時）、A／T基本点検、排気漏れ点検				
32 時限	作業…油量点検（始動前、エンジン冷間時）、A／T基本点検、排気漏れ点検				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　二年次　応用③実習　実践整備Ⅲ　A／T				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
33 時限	解説…ストール・テスト実施手順と注意 作業…ストール・テスト				
34 時限	作業…ストール・テスト				
35 時限	作業…ストール・テスト				
36 時限	作業…ストール・テスト 解説…故障原因と点検内容の関係（ストール・テスト、スロットル・ケーブル点検）				
37 時限	解説…ガバナ・プレッシャ・テスト、ライン・プレッシャ・テストの手順と注意 作業…ガバナ・プレッシャ・テスト、ライン・プレッシャ・テスト				
38 時限	作業…ガバナ・プレッシャ・テスト、ライン・プレッシャ・テスト				
39 時限	作業…ガバナ・プレッシャ・テスト、ライン・プレッシャ・テスト 解説…故障原因と点検内容の関係（油圧点検…ガバナ圧、ライン圧）				
40 時限	作業…個人練習				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　二年次　応用③実習　実践整備Ⅲ　A／T				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	実習
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
41 時限	作業…個人練習				
42 時限	作業…個人練習、片付け、車両清掃、まとめ				
43 時限	実技試験				
44 時限	実技試験				
45 時限	実技試験				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　二年次　応用③実習　実践整備Ⅳ　エンジン(ヘッド)O／H				
概要と目的	職場レベルの技術を身に付ける 作業を体得する				
担　当　者	寺島　英幸、風間　功要	単位数	45 時限	区分	実習
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員が実践整備Ⅳエンジン(ヘッド)O/H について教育を行う科目。				
講義対象	二年生	時　期	9月下旬～11月中旬		
使用教材	実習車両(DW3Wデミオ)、各種測定機材				
到達目標	個人レベルの作業の習得				
成績評価	実技試験・出欠点・平常点 A評価が全体の25%、B評価が45%、C評価が30%を基準とする。				
授業計画					
1 時限	【1】導入　1. 授業の進め方　2. プリント作成				
2時限	3. 目的～6. ヘッド取り外しの必要性				
3時限	【2】分解前点検の必要性				
4時限	【3】分解前点検				
5時限	3. 故障探求				
6時限	4. オイル注入での測定				
7時限	(2)排気ガス目視点検				
8時限	(3)異音からの判断				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　二年次　応用③実習　実践整備Ⅳ　O／H				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
9時限	4. バルブ・クリアランス測定練習				
10 時限	4. バルブ・クリアランス測定練習				
11 時限	4. バルブ・クリアランス測定練習				
12 時限	【4】ヘッド取り外し（エンジン周り）				
13 時限	【4】ヘッド取り外し（エンジン周り）				
14 時限	【4】ヘッド取り外し（エンジン周り）				
15 時限	（タイミング・ベルト周り）				
16 時限	（カムシャフト周り）				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　二年次　応用③実習　実践整備Ⅳ　O／H				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
17 時限	【5】洗浄前の目視点検				
18 時限	【6】シリンダ・ヘッド分解				
19 時限	【6】シリンダ・ヘッド分解				
20 時限	【7】バルブ点検				
21 時限	【8】部品洗浄				
22 時限	【8】部品洗浄				
23 時限	【9】洗浄後の点検				
24 時限	【10】バルブ･クリアランス調整　(1)調整法　(2)シム選択法				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　二年次　応用③実習　実践整備Ⅳ　O／H				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
25 時限	【10】バルブ･クリアランス調整　(1)調整法　(2)シム選択法				
26 時限	【10】バルブ･クリアランス調整　(3)シム選択法個人練習				
27 時限	(3)シム選択法個人練習				
28 時限	【11】ヘッド組み立て				
29 時限	【11】ヘッド組み立て				
30 時限	【12】ヘッド組み付け(ヘッド･ボルトとカムシャフト周り)				
31 時限	(ヘッド･ボルトとカムシャフト周り)				
32 時限	(タイミング･ベルト周り)				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　二年次　応用③実習　実践整備Ⅳ　O／H				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
33 時限	（配線，ホース関係周り）				
34 時限	（配線，ホース関係周り）				
35 時限	（配線，ホース関係周り）				
36 時限	【13】完成検査　1～3点火時期調整				
37 時限	1～3点火時期調整				
38 時限	4．コンプレッション再測定				
39 時限	4．コンプレッション再測定				
40 時限	【14】シムの選択練習と課題				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　二年次　応用③実習　実践整備Ⅳ　O／H				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
41 時限	【14】シムの選択練習と課題				
42 時限	【14】シムの選択練習と課題				
43 時限	【清掃】(床，キャディ，部品皿，車両ワックスがけ)				
44 時限	まとめ				
45 時限	実技試験				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　二年次　応用③実習　大型・特殊機構				
概要と目的	職場レベルの技術を身に付ける 構造作動を理解する				
担　当　者	舟坂　義幸、竹内　章夫	単位数	45 時限	区分	実習
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員が大型・特殊機構について教育を行う科目。				
講義対象	二年生	時　期	9月下旬～11月中旬		
使用教材	二級ガソリンエンジン，二級シャシ教科書，実習ノート 単体教材:コンプレッサ　ドライヤ　レベリングバルブ　ターボ　LSD　LPG				
到達目標	個人レベルの作業の習得と構造作動の理解				
成績評価	期末試験・出欠点・平常点 A評価が全体の25%、B評価が45%、C評価が30%を基準とする。				
授業計画					
1	導入　実習目的　分解組付時の注意事項				
2	エアコンプレッサ・ドライヤの役目，構造，作動 二級シャシ P76～79　実習ノート				
3	エアコンプレッサ・ドライヤの役目，構造，作動 二級シャシ P76～79　実習ノート				
4	エアコンプレッサ・ドライヤの役目，構造，作動 二級シャシ P76～79　実習ノート				
5	エアコンプレッサ・ドライヤの役目，構造，作動 二級シャシ P76～79　練習問題プリント				
6	エアサスペンション特徴・構造　二級シャシ P71～73　実習ノート				
7	エアサスペンション特徴・構造　二級シャシ P71～73　実習ノート				
8	エアスプリングの長所・短所と種類　二級シャシ P74　実習ノート				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　二年次　応用③実習　大型・特殊機構				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
9	エアスプリングの長所・短所と種類　二級シャシ P74　練習問題プリント				
10	レベリングバルブ構造・作動　二級シャシ P74～75　実習ノート				
11	レベリングバルブ構造・作動　二級シャシ P74～75　実習ノート				
12	レベリングバルブ構造・作動　二級シャシ P74～75　実習ノート				
13	レベリングバルブ構造・作動　二級シャシ P74～75　実習ノート				
14	レベリングバルブ構造・作動　二級シャシ P74～75　練習問題プリント				
15	エアブレーキ　ブレーキバルブ構造・作動　二級シャシ P131～133　実習ノート				
16	エアブレーキ　ブレーキバルブ構造・作動　二級シャシ P131～133　実習ノート				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　二年次　応用③実習　大型･特殊機構				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
17	エアブレーキ　ブレーキバルブ構造･作動　二級シャシ P131～133　実習ノート				
18	エアブレーキ　ブレーキバルブ構造･作動　二級シャシ P131～133　実習ノート				
19	エアブレーキ　ブレーキバルブ構造･作動　二級シャシ P131～133 練習問題プリント				
20	エア･油圧式制動倍力装置構造･作動　二級シャシ P131～135　実習ノート				
21	エア･油圧式制動倍力装置構造･作動　二級シャシ P131～135　実習ノート				
22	エア･油圧式制動倍力装置構造･作動　二級シャシ P131～135　実習ノート				
23	エア･油圧式制動倍力装置構造･作動　二級シャシ P131～135 練習問題プリント				
24	リレーバルブの役目･構造･作動　二級シャシ P137　実習ノート				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　二年次　応用③実習　大型・特殊機構				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
25	リレーバルブの役目・構造・作動　二級シャシ P137　実習ノート				
26	リレーバルブの役目・構造・作動　二級シャシ P137　実習ノート				
27	リレーバルブの役目・構造・作動　二級シャシ P137　練習問題プリント				
28	ブレーキチャンバ　二級シャシ P139　練習問題プリント				
29	エキゾーストブレーキ構造・作動　二級シャシ P150～153　実習ノート				
30	エキゾーストブレーキ構造・作動　二級シャシ				
31	エキゾーストブレーキ構造・作動　二級シャシ エディ・カレント・リターダ構成部品　練習問題プリント				
32	過給機の役目，種類と特徴　二級ｶﾞｿﾘﾝ P57～61　実習ノート ターボ・チャージャとスーパ・チャージャの違い				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　二年次　応用③実習　大型・特殊機構				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
33	過給機の役目，種類と特徴　二級ｶﾞｿﾘﾝ P57～61 ターボ・チャージャの特徴				
34	過給機の役目，種類と特徴　二級ｶﾞｿﾘﾝ P57～61 スーパ・チャージャの特徴　練習問題プリント				
35	インタクーラ　二級ｶﾞｿﾘﾝ P61　練習問題プリント				
36	可変吸気装置の作動解説　二級ｶﾞｿﾘﾝ P62～63　練習問題プリント				
37	自動作動制限型ディファレンシャル役目・種類　二級シャシ P53～57				
38	自動作動制限型ディファレンシャル　トルク感応式 P53～57				
39	自動作動制限型ディファレンシャル　回転速度差感応式 P53～57				
40	電子制御式 LPG 燃料装置 P53～55 装置の構成　燃料の流れ　練習問題プリント				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　二年次　応用③実習　大型･特殊機構				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
41	総まとめ　試験対策　実習ノート及び練習問題				
42	総まとめ　試験対策　実習ノート及び練習問題				
43	実技試験				
44	実技試験				
45	実技試験				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　二年次　応用④実習　ガソリンエンジン故障探究				
概要と目的	職場レベルの技術を身に付ける 国家試験レベルの知識を身に付ける				
担　当　者	風間　功要、舟坂　義幸	単位数	19 時限	区分	実習
実務経験					
講義対象	二年生	時　期	11月下旬～12月		
使用教材	二級ガソリン自動車エンジン編、三級自動車ガソリン・エンジン、自動車整備士問題と解説、プリント、模擬試験、単体教材、ムービーコム　他				
到達目標	国家試験レベルの完全理解				
成績評価	実技試験・出欠点・平常点 A評価が全体の25%、B評価が45%、C評価が30%を基準とする。				
授業計画					
1、2	故障探究演習　　解説　計算問題、諸元・性能、燃焼・排出ガス				
3、4	故障探究演習　　解説　原理・法則、材料、燃料・潤滑剤				
5、6	故障探究演習　　解説　エンジン本体				
7、8	故障探究演習　　解説　エンジン本体、バルブ・タイミング				
9、10	故障探究演習　　解説　燃料装置、潤滑装置、冷却装置				
11、12	故障探究演習　　解説　吸排気装置、排出ガス浄化装置				
13、14	故障探究演習　　解説　電子制御装置				
15、16	故障探究演習　　解説　電子制御装置、ノッキング				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	なし

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　二年次　応用④実習　ガソリンエンジン故障探究				
概要と目的					
担　当　者		単位数	19 時限	区分	実習
講義対象		時　期	11月下旬～12月		
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
17、18	故障探究演習　　解説　故障原因探究、点検・整備				
19	実技試験				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　二年次　応用④実習　ジーゼルエンジン故障探究				
概要と目的	職場レベルの技術を身に付ける 国家試験レベルの知識を身に付ける				
担　当　者	舟坂　義幸、竹内　章夫	単位数	19 時限	区分	実習
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員がジーゼルエンジン故障探究について教育を行う科目。				
講義対象	二年生	時　期	11月下旬～12月		
使用教材	二級ジーゼル自動車エンジン編、三級自動車ジーゼル・エンジン、自動車整備士問題と解説、プリント、模擬試験、単体教材、ムービーコム　他				
到達目標	国家試験レベルの完全理解				
成績評価	実技試験・出欠点・平常点 A評価が全体の25%、B評価が45%、C評価が30%を基準とする。				
授業計画					
1、2	故障探究演習　　解説　計算問題、諸元性能				
3、4	故障探究演習　　解説　燃料・潤滑剤、ねじ・材料				
5、6	故障探究演習　　解説　測定・検査機器、工具				
7、8	故障探究演習　　解説　エンジン本体、バルブ・タイミング				
9、10	故障探究演習　　解説　潤滑装置、冷却装置、吸排気装置、DPF				
11、12	故障探究演習　　解説　燃料装置　インジェクション・ポンプ				
13、14	故障探究演習　　解説　燃料装置　インジェクション・ポンプ				
15、16	故障探究演習　　解説　燃料装置　コモンレール、点検整備				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　二年次　応用④実習　ジーゼルエンジン故障探究				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
17、18	故障探究演習　　解説　故障原因探究、排気ガス、ｼﾞｰｾﾞﾙﾉｯｸ				
19	実技試験				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　二年次　応用④実習　シャシ故障探究				
概要と目的	職場レベルの技術を身に付ける 国家試験レベルの知識を身に付ける				
担　当　者	竹内　章夫、寺島　英幸	単位数	19 時限	区分	実習
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員がシャシ故障探究について教育を行う科目。				
講義対象	二年生	時　期	11月下旬～12月		
使用教材	二級自動車シャシ編、三級自動車シャシ、自動車整備士問題と解説、プリント、模擬試験、単体教材、ムービーコム　他				
到達目標	国家試験レベルの完全理解				
成績評価	実技試験・出欠点・平常点 A評価が全体の25%、B評価が45%、C評価が30%を基準とする。				

授業計画

1、2	故障探究演習　　解説　クラッチ、トルコン、ロックアップ、トルコン計算
3、4	故障探究演習　　解説　変速機、遊星歯車、油圧制御
5、6	故障探究演習　　解説　電子制御式AT、AT変速線図、CVT
7、8	故障探究演習　　解説　点検、ストールテスト、デフ、計算
9、10	故障探究演習　　解説　サスペンション、ボデー
11、12	故障探究演習　　解説　ステアリング、油圧パワステ、電動パワステ
13、14	故障探究演習　　解説　タイヤ・ホイール、アライメント、摩耗・振動・騒音
15、16	故障探究演習　　解説　ブレーキ、ABS、トラコン、不具合現象、整備
伝達事項等	

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　二年次　応用④実習　シャシ故障探究				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
17、18	故障探究演習　　解説　エア･ブレーキ、補助ブレーキ、フレーム･ボデー				
19	期末試験				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　二年次　応用④実習　電装品故障探究				
概要と目的	職場レベルの技術を身に付ける 国家試験レベルの知識を身に付ける				
担　当　者	寺島　英幸、風間　功要	単位数	19 時限	区分	実習
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員が電装品故障探究について教育を行う科目。				
講義対象	二年生	時　期	11月下旬～12月		
使用教材	二級ガソリン/ジーゼル自動車エンジン編、三級自動車ガソリン/ジーゼル・エンジン、自動車整備士問題と解説、プリント、模擬試験、単体教材、ムービーコム　他				
到達目標	国家試験レベルの完全理解				
成績評価	実技試験・出欠点・平常点 A評価が全体の25%、B評価が45%、C評価が30%を基準とする。				

授業計画

1、2	故障探究演習　解説　計算問題
3、4	故障探究演習　解説　半導体
5、6	故障探究演習　解説　エアコン
7、8	故障探究演習　解説　バッテリ　種類、材質、起電力
9、10	故障探究演習　解説　バッテリ　容量、比重、点検
11、12	故障探究演習　解説　始動装置　出力特性、点検整備
13、14	故障探究演習　解説　充電装置　オルタ、レギュレータ、整備
15、16	故障探究演習　解説　点火装置　点火時期制御、ｽﾊﾟｰｸﾌﾟﾗｸﾞ
伝達事項等	

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　二年次　応用④実習　電装品故障探究				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
17、18	故障探究演習　　解説　電気装置、予熱装置				
19	期末試験				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　三年次前期　エンジン新技術				
概要と目的	国家試験レベルの知識を身に付ける				
担　当　者	鎌田　喜行	単位数	10 時限	区分	学科
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員がエンジン新技術について教育を行う科目。				
講義対象	三年生	時　期	4月～9月中旬		
使用教材	一級自動車整備士自動車新技術				
到達目標	一級レベルのエンジン新技術の知識習得				
成績評価	期末試験・出欠点・平常点　A評価:185～200点、B評価:170～184点、C評価:160～169点を基準とする。				
授業計画					
1	ハイブリッド車　種類、特徴　構造・機能（P11～14）				
2	ハイブリッド車　構造機能（P15～20）				
3	ハイブリッド車　構造機能（P21～28）				
4	ハイブリッド車　点検整備（P29～36）				
5	CNG自動車　基礎、種類、構造、機能（P37～P46）				
6	CNG自動車　構造機能（P47～P48）、点検整備（P49～64）				
7	筒内噴射式ガソリン・エンジン　概要、構造機能（P65～P76）				
8	筒内噴射式ガソリン・エンジン　構造機能（P77～P80）				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　三年次前期　エンジン新技術				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
9	コモンレール式高圧燃料噴射システム 概要、特徴、構造機能、点検整備（P81～89）				
10	期末試験				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　三年次前期　エンジン整備技術				
概要と目的	国家試験レベルの知識を身に付ける				
担　当　者	鎌田　喜行	単位数	27 時限	区分	学科
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員がエンジン整備技術について教育を行う科目。				
講義対象	三年生	時　期	4月～9月中旬		
使用教材	一級自動車整備士エンジン電子制御装置、プリント				
到達目標	一級レベルの電子制御装置と回路の理解				
成績評価	期末試験・出欠点・平常点　A評価:185～200点、B評価:170～184点、C評価:160～169点を基準とする。				

授業計画

1	高度整備技術　概要、ガソリン・エンジン制御(P67～69)
2	ジーゼル・エンジン制御(P70～72)
3	構造・機能・点検　電源、マイコン点検(P73～75)
4	センサ概要　センサ信号の異常検知(P75～77)
5	論理信号センサ　種類、スイッチ(P77～79)
6	論理信号センサ　スイッチ(P79～82)
7	リニア信号センサ　種類、水温センサ(P82～85)
8	リニア信号センサ　水温センサ(P86～88)
伝達事項等	

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　三年次前期　エンジン整備技術				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
9	リニア信号センサ　バキューム・センサ(P89～90)				
10	リニア信号センサ　バキューム・センサ(P90～92)				
11	リニア信号センサ　エア・フロー・メータ(P93～96)				
12	リニア信号センサ　スロットル・ポジション・センサ(P96～99)				
13	周波数信号センサ　種類、パルス・ジェネレータ(P99～104)				
14	周波数信号センサ　MRE(P104～108)				
15	周波数信号センサ　光学素子式(P108～113)				
16	その他のセンサ　種類、ノック・センサ(P113～116)				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　三年次前期　エンジン整備技術				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
17	その他のセンサ　O_2センサ（P117～119）				
18	ECU の制御　ECUの制御　運転制御モード（P230、プリント）				
19	ECU の制御　ガソリン・エンジン作動制御モード（P231～243）				
20	ECU の制御　ジーゼル・エンジン作動制御モード（P245～255）				
21	練習問題　制御、電源、異常検知　解答、解説				
22	練習問題　センサ　解答、解説				
23	練習問題　センサ　解答、解説				
24	練習問題　センサ、ECU　解答、解説				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　三年次前期　エンジン整備技術				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
25	練習問題　解答、解説				
26	練習問題　解答、解説				
27	期末試験				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　三年次前期　シャシ新技術				
概要と目的	国家試験レベルの知識を身に付ける				
担　当　者	鎌田　喜行	単位数	10 時限	区分	学科
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員がシャシ新技術について教育を行う科目。				
講義対象	三年生	時　期	4月～9月中旬		
使用教材	一級自動車整備士自動車新技術				
到達目標	一級レベルのシャシ新技術の知識習得				
成績評価	期末試験・出欠点・平常点　A評価:185～200点、B評価:170～184点、C評価:160～169点を基準とする。				
授業計画					
1	第 1 章　無段変速機　概要・特徴・構造機能(P93～P101)				
2	構造・機能・点検整備(P101～P111)				
3	第 2 章　車両安定制御装置　概要・特徴・構造機能(P113～120)				
4	構造機能(P120～128)				
5	構造機能(129～136)				
6	第 3 章　SRSエアバッグ及びプリテンショナ・シート・ベルト概要構造(P137～145)				
7	構造・機能(P146～P158)				
8	点検・整備(P159～176)				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　三年次前期　シャシ新技術				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
9	練習問題解答、解説				
10	期末試験				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　三年次前期　シャシ整備技術				
概要と目的	国家試験レベルの知識を身に付ける				
担　当　者	廣間　和彦	単位数	29 時限	区分	学科
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員がシャシ整備技術について教育を行う科目。				
講義対象	三年生	時　期	4月～9月中旬		
使用教材	一級自動車整備士シャシ（エンジン）電子制御装置、プリント				
到達目標	一級レベルの電子制御装置と回路の理解、振動・騒音の知識習得				
成績評価	期末試験・出欠点・平常点　A評価：185～200点、B評価：170～184点、C評価：160～169点を基準とする。				

授業計画

1	電子制御式AT　導入、概要　P9～11
2	電子制御式AT　センサ　P12～13
3	電子制御式AT　論理信号センサ　P14～17
4	電子制御式AT　論理信号センサ　P18～22
5	電子制御式AT　論理信号センサ　P22～26
6	電子制御式AT　リニア信号センサ　P27～30
7	電子制御式AT　リニア信号センサ　P30～35
8	電子制御式AT　周波数信号センサ　P36～40、160～162
伝達事項等	

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　三年次前期　シャシ整備技術				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
9	センサ復習　P9～40、練習問題				
10	電子制御式AT　アクチュエータ　EG電制P120～122、164				
11	電子制御式AT　アクチュエータ　駆動回路　EG電制P124～125				
12	電子制御式AT　スイッチング駆動アクチュエータ　P41～45				
13	電子制御式AT　スイッチング駆動アクチュエータ　P46～49				
14	電子制御式AT　リニア駆動アクチュエータ　P50～52				
15	電子制御式AT　リニア駆動アクチュエータ　P53～55				
16	電子制御式AT　リニア駆動アクチュエータ　P56～58				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　三年次前期　シャシ整備技術				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
17	電子制御式AT　リニア駆動アクチュエータ　P59～63				
18	アクチュエータ復習　P41～63、練習問題				
19	電子制御式AT　ECUの制御　P63～64				
20	電子制御式AT　ECUの制御　P65～66				
21	電子制御式AT　ECUの制御　P66～68				
22	電子制御式AT　ECUの制御復習　P63～68、練習問題				
23	振動・騒音　振動と音　振動の基本　剛体弾性振動　P283～287				
24	振動・騒音　音の基本　音圧レベル計算　P288～290				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　三年次前期　シャシ整備技術				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
25	振動･騒音　振動騒音防止　ダンパ、吸音、遮音　P291～293				
26	振動･騒音　不具合現象と振動周波数の計算　P302、310、320				
27	振動･騒音復習　P283～293、練習問題、計算問題				
28	練習問題　解答･解説				
29	期末試験				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　三年次前期　一般教養				
概要と目的	新入社員レベルの知識を身に付ける				
担　当　者	鎌田　喜行	単位数	11 時限	区分	学科
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員が一般教養について教育を行う科目。				
講義対象	三年生	時　期	4月～9月中旬		
使用教材	プリント				
到達目標	入社試験レベルの知識、社会人としての教養を習得				
成績評価	期末試験・出欠点・平常点　A評価:185～200点、B評価:170～184点、C評価:160～169点を基準とする。				
授業計画					
1	就職についての心構え、自己分析				
2	就職についての心構え、自己分析				
3	日本の自動車保有台数、長野県の自動車業界の理解				
4	長野県の自動車保有台数、種別による割合、使用年数				
5	自動車整備業界の把握、自動車関連の用語の解説、略語				
6	自動車保険の種類、自賠責保険の仕組み				
7	実務計算（損益計算、利益率計算、原価率計算、価格設定）				
8	実務計算（損益計算、利益率計算、原価率計算、価格設定）				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　三年次前期　一般教養				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
9	実務計算（損益計算、利益率計算、原価率計算、価格設定）				
10	練習問題　解答、解説				
11	期末試験				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　三年次前期　環境保全				
概要と目的	国家試験レベルの知識を身に付ける				
担　当　者	鎌田　喜行	単位数	11 時限	区分	学科
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員が環境保全について教育を行う科目。				
講義対象	三年生	時　期	4月～9月中旬		
使用教材	一級自動車整備士総合診断・環境保全・安全管理				
到達目標	一級レベルの理解と知識習得				
成績評価	期末試験・出欠点・平常点　A評価:185～200点、B評価:170～184点、C評価:160～169点を基準とする。				

授業計画

1	地球規模の環境保全とその必要性、資源の有効活用（P103～106）
2	資源の有効活用（P106～108）
3	産業廃棄物処理の影響と対応（P109～111）
4	産業廃棄物処理の影響と対応（P112～114）
5	練習問題　解答、解説
6	産業廃棄物処理の影響と対応（P115～117）
7	産業廃棄物処理の影響と対応（P118～120）
8	整備事業場などにおける環境保全　（P121～123）
伝達事項等	

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　三年次前期　環境保全				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
9	整備事業場などにおける環境保全　(P124～125)				
10	練習問題解答、解説				
11	期末試験				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　三年次前期　故障診断				
概要と目的	国家試験レベルの知識を身に付ける				
担　当　者	鎌田　喜行	単位数	18 時限	区分	学科
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員が故障診断について教育を行う科目。				
講義対象	三年生	時　期	4月～9月中旬		
使用教材	一級自動車整備士エンジン電子制御装置、シャシ電子制御装置、練習問題集				
到達目標	一級レベルのエンジン、シャシ電子回路の故障診断の知識習得				
成績評価	期末試験・出欠点・平常点　A評価:185～200点、B評価:170～184点、C評価:160～169点を基準とする。				
授業計画					
1	エンジン電子制御装置　高度診断技術　エンジンP257～259				
2	エンジン電子制御装置　高度診断技術　エンジンP260～262				
3	エンジン電子制御装置　高度診断技術　エンジンP263～265				
4	エンジン電子制御装置　高度診断技術　エンジンP266～268				
5	エンジン電子制御装置　高度診断技術　エンジンP269～272				
6	練習問題　解答・解説				
7	練習問題　解答・解説				
8	練習問題　解答・解説				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　三年次前期　故障診断				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
9	シャシ電子制御装置　高度診断技術　シャシP277～279				
10	シャシ電子制御装置　高度診断技術　シャシP280～282				
11	シャシ電子制御装置　高度診断技術　シャシP283～286				
12	練習問題　解答･解説				
13	練習問題　解答･解説				
14	騒音振動の計算問題　シャシ P302、310				
15	騒音振動の計算問題　シャシ P310、320				
16	練習問題　解答･解説				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　三年次前期　故障診断				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
17	練習問題　解答･解説				
18	期末試験				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　三年次前期　自動車力学				
概要と目的	国家試験レベルの知識を身に付ける				
担　当　者	鎌田　喜行	単位数	4 時限	区分	学科
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員が自動車力学について教育を行う科目。				
講義対象	三年生	時　期	4月～9月中旬		
使用教材	力学プリント				
到達目標	二級自動車力学の解答実力維持				
成績評価	期末試験・出欠点・平常点　A評価:185～200点、B評価:170～184点、C評価:160～169点を基準とする。				
授業計画					
1	単位換算、加速度、走行抵抗、排気量、圧縮比、軸重				
2	仕事量、仕事率、軸重、重心移動、荷台オフセット				
3	軸重、諸元、車速の実速度と誤差、エンジン回転速度				
4	期末試験				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　三年次前期　整備作業機器				
概要と目的	国家試験レベルの知識を身に付ける				
担　当　者	鎌田　喜行	単位数	6 時限	区分	学科
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員が整備作業機器について教育を行う科目。				
講義対象	三年生	時　期	4月～9月中旬		
使用教材	一級自動車整備士エンジン/シャシ電子制御装置 一級自動車整備士総合診断・環境保全・安全管理、基礎自動車整備作業				
到達目標	一級レベルの整備、計測機器の知識習得				
成績評価	期末試験・出欠点・平常点　A評価:185～200点、B評価:170～184点、 C評価:160～169点を基準とする。				
授業計画					
1	エンジン電子制御装置　(P24、52～56)				
2	エンジン電子制御装置　(P60～63)				
3	総合診断・環境保全・安全管理　(P136～140)				
4	シャシ電子制御装置　(P294～300)				
5	練習問題　解答、解説				
6	期末試験				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　三年次前期　総合診断				
概要と目的	国家試験レベルの知識を身に付ける				
担　当　者	鎌田　喜行	単位数	7 時限	区分	学科
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員が総合診断について教育を行う科目。				
講義対象	三年生	時　期	4月～9月中旬		
使用教材	一級自動車整備士総合診断・環境保全・安全管理				
到達目標	一級レベルの総合診断の知識習得				
成績評価	期末試験・出欠点・平常点　A評価:185～200点、B評価:170～184点、C評価:160～169点を基準とする。				
授業計画					
1	自動車整備に関する総合診断　P9～19				
2	自動車整備に関する総合診断　P20～30				
3	自動車整備に関する総合診断　P31～40				
4	自動車整備に関する総合診断　P41～42、応酬話法　P43～61				
5	応酬話法　P62～80				
6	応酬話法　P81～99				
7	期末試験				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　三年次前期　電気･電子回路				
概要と目的	国家試験レベルの知識を身に付ける				
担　当　者	宮島　英輔	単位数	10 時限	区分	学科
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員が電気･電子回路について教育を行う科目。				
講義対象	三年生	時　期	4月～9月中旬		
使用教材	一級自動車整備士エンジン電子制御装置				
到達目標	一級レベルの電気･電子回路の理解と測定技術の習得				
成績評価	期末試験･出欠点･平常点　A評価:185～200点、B評価:170～184点、C評価:160～169点を基準とする。				

授業計画

1	電気回路の概要（P7～P12）
2	電気回路の故障（P12～24
3	電気･電子回路の測定技術（P24～29）
4	電気･電子回路の測定技術（P30～33）
5	電気･電子回路の測定技術（P34～41）
6	電気･電子回路の測定技術（P42～48）
7	電気･電子回路の測定技術（P49～59）
8	電気･電子回路の測定技術（P60～66）
伝達事項等	

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　三年次前期　電気･電子回路				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
9	復習				
10	期末試験				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　三年次前期　電装品整備技術				
概要と目的	国家試験レベルの知識を身に付ける				
担　当　者	廣間　和彦	単位数	7 時限	区分	学科
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員が電装品整備技術について教育を行う科目。				
講義対象	三年生	時　期	4月～9月中旬		
使用教材	一級自動車整備士シャシ電子制御装置				
到達目標	一級レベルのオート･エアコン電子制御装置と回路の理解				
成績評価	期末試験･出欠点･平常点　A評価:185～200点、B評価:170～184点、C評価:160～169点を基準とする。				

授業計画

1	オート･エアコン　概要　P199～201
2	オート･エアコン　論理信号センサ　P202～207
3	オート･エアコン　論理信号センサ　P207～214
4	オート･エアコン　リニア信号センサ　P214～221
5	オート･エアコン　ECU　P269～272
6	練習問題　解答･解説
7	期末試験
伝達事項等	

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　三年次後期　エンジン新技術				
概要と目的	国家試験レベルの知識を身に付ける				
担　当　者	鎌田　喜行	単位数	10 時限	区分	学科
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員がエンジン新技術について教育を行う科目。				
講義対象	三年生	時　期	9月下旬～3月		
使用教材	一級自動車整備士自動車新技術				
到達目標	一級レベルのエンジン新技術の知識習得				
成績評価	期末試験・出欠点・平常点　A評価:185～200点、B評価:170～184点、C評価:160～169点を基準とする。				

授業計画

1	ハイブリッド車　復習　P11～23
2	ハイブリッド車　復習　P24～36
3	圧縮天然ガス車　復習　P37～50
4	圧縮天然ガス車　復習　P51～64
5	筒内噴射式ガソリン・エンジン　復習　P65～69
6	筒内噴射式ガソリン・エンジン　復習　P70～74
7	筒内噴射式ガソリン・エンジン　復習　P75～80
8	コモンレール式高圧燃料噴射システム　復習　P81～84
伝達事項等	

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　三年次後期　エンジン新技術				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
9	コモンレール式高圧燃料噴射システム　復習　P85～90				
10	期末試験				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　三年次後期　エンジン整備技術				
一級レベル	一級レベルの電子制御装置と回路の理解				
担　当　者	鎌田　喜行	単位数	35 時限	区分	学科
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員がエンジン整備技術について教育を行う科目。				
講義対象	三年生	時　期	9月下旬～3月		
使用教材	一級自動車整備士エンジン電子制御装置				
到達目標	一級レベルの電子制御装置と回路の理解				
成績評価	期末試験・出欠点・平常点　A評価:185～200点、B評価:170～184点、C評価:160～169点を基準とする。				

授業計画

1	構造・機能・点検　アクチュエータ　P120～123
2	構造・機能・点検　アクチュエータ　P124～126
3	構造・機能・点検　アクチュエータ　P127～130
4	構造・機能・点検　アクチュエータ　P131～133
5	構造・機能・点検　アクチュエータ　P134～137
6	構造・機能・点検　アクチュエータ　P138～140
7	P120～130 の復習
8	P131～140 の復習
伝達事項等	

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　三年次後期　エンジン整備技術				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
9	構造･機能･点検　アクチュエータ　P141～143				
10	構造･機能･点検　アクチュエータ　P144～146				
11	構造･機能･点検　アクチュエータ　P147～149				
12	構造･機能･点検　アクチュエータ　P150～152				
13	構造･機能･点検　アクチュエータ　P153～155				
14	構造･機能･点検　アクチュエータ　P156～158				
15	P141～149 の復習				
16	P150～158 の復習				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　三年次後期　エンジン整備技術				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
17	構造･機能･点検　アクチュエータ　P159～162				
18	構造･機能･点検　アクチュエータ　P163～166				
19	構造･機能･点検　アクチュエータ　P167～170				
20	構造･機能･点検　アクチュエータ　P171～174				
21	構造･機能･点検　アクチュエータ　P175～178				
22	構造･機能･点検　アクチュエータ　P179～182				
23	P159～170 の復習				
24	P171～182 の復習				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　三年次後期　エンジン整備技術				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
25	構造･機能･点検　アクチュエータ　P183～186				
26	構造･機能･点検　アクチュエータ　P187～190				
27	構造･機能･点検　アクチュエータ　P191～193				
28	構造･機能･点検　アクチュエータ　P194～196				
29	構造･機能･点検　アクチュエータ　P197～199				
30	構造･機能･点検　アクチュエータ　P200～204				
31	P183～193 の復習				
32	P194～204 の復習				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　三年次後期　エンジン整備技術				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
33	練習問題解答、解説				
34	練習問題解答、解説				
35	期末試験				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　三年次後期　シャシ新技術				
概要と目的	国家試験レベルの知識を身に付ける				
担　当　者	鎌田　喜行	単位数	10 時限	区分	学科
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員がシャシ新技術について教育を行う科目。				
講義対象	三年生	時　期	9月下旬～3月		
使用教材	一級自動車整備士シャシ電子制御装置				
到達目標	一級レベルのシャシ新技術の知識習得				
成績評価	期末試験・出欠点・平常点　A評価:185～200点、B評価:170～184点、C評価:160～169点を基準とする。				
授業計画					
1	無段変速機 復習 P93～98				
2	無段変速機 復習 P99～105				
3	無段変速機 復習 P106～111				
4	車両安定制御装置　復習 P113～119				
5	車両安定制御装置　復習 P120～128				
6	車両安定制御装置　復習 P129～136				
7	SRSエアバッグ及びプリテンショナ・シート・ベルト　復習 P137～149				
8	SRSエアバッグ及びプリテンショナ・シート・ベルト　復習 P150～162				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　三年次後期　シャシ新技術				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
9	SRSエアバッグ及びプリテンショナ・シート・ベルト　復習　P163～176				
10	期末試験				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　三年次後期　シャシ整備技術				
概要と目的	国家試験レベルの知識を身に付ける				
担　当　者	鎌田　喜行	単位数	38 時限	区分	学科
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員がシャシ整備技術について教育を行う科目。				
講義対象	三年生	時　期	9月下旬～3月		
使用教材	一級自動車整備士シャシ電子制御装置、練習問題集				
到達目標	一級レベルの電子制御装置と回路の理解				
成績評価	期末試験・出欠点・平常点　A評価:185～200点、B評価:170～184点、C評価:160～169点を基準とする。				

授業計画

1	電動式パワー・ステアリング P87～89
2	電動式パワー・ステアリング P89～94
3	電動式パワー・ステアリング P95～98
4	電動式パワー・ステアリング P99～101
5	電動式パワー・ステアリング P101～105
6	電動式パワー・ステアリング P106～108
7	電動式パワー・ステアリング P108～111
8	電動式パワー・ステアリング P111～115
伝達事項等	

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　三年次後期　シャシ整備技術				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
9	電動式パワー・ステアリング P116～119				
10	電動式パワー・ステアリング P120～124				
11	電動式パワー・ステアリング P124～128				
12	電動式パワー・ステアリング P128～132				
13	電動式パワー・ステアリング P132～135				
14	電動式パワー・ステアリング P136～138				
15	電動式パワー・ステアリングのまとめ				
16	アンチロック・ブレーキ・システム P147～149				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　三年次後期　シャシ整備技術				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
17	アンチロック・ブレーキ・システム P150～153				
18	アンチロック・ブレーキ・システム P153～155				
19	アンチロック・ブレーキ・システム P156～159				
20	アンチロック・ブレーキ・システム P160～164				
21	アンチロック・ブレーキ・システム P165～168				
22	アンチロック・ブレーキ・システム P169～172				
23	アンチロック・ブレーキ・システム P173～176				
24	アンチロック・ブレーキ・システム P176～178				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　三年次後期　シャシ整備技術				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
25	アンチロック・ブレーキ・システム P179～181				
26	アンチロック・ブレーキ・システム P181～182				
27	アンチロック・ブレーキ・システム P183～185				
28	アンチロック・ブレーキ・システム P186～188				
29	アンチロック・ブレーキ・システムのまとめ				
30	アンチロック・ブレーキ・システムのまとめ				
31	振動・騒音　P298～304				
32	振動・騒音　P304～310				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　三年次後期　シャシ整備技術				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
33	振動･騒音　P310～314				
34	振動･騒音　P315～324				
35	振動･騒音　P324～332				
36	振動･騒音　P333～340				
37	振動･騒音　P341～346				
38	期末試験				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　三年次後期　安全管理				
概要と目的	国家試験レベルの知識を身に付ける				
担　当　者	鎌田　喜行	単位数	11 時限	区分	学科
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員が安全管理について教育を行う科目。				
講義対象	三年生	時　期	9月下旬～3月		
使用教材	一級自動車整備士総合診断・環境保全・安全管理				
到達目標	一級レベルの理解と安全知識を身につける				
成績評価	期末試験・出欠点・平常点　A評価:185～200点、B評価:170～184点、C評価:160～169点を基準とする。				
授業計画					
1	安全管理の意義　災害のあらまし　災害の仕組み 不安全状態と不安全行動　P129～132				
2	災害の起こる要件　災害の急所　P132～134				
3	災害防止　安全のルール　整理整頓　P135、136				
4	作業上の注意事項 1)各種工具の取り扱い　2)機械設備関係の取り扱い　P136、137				
5	2)機械設備関係の取り扱い　3)各種機器類の安全点検　P137～139				
6	4)電気機器の取り扱い　5)運搬作業時の注意事項 6)共同作業時の注意事項　P139、140				
7	防火の知識　P140、141				
8	防火の知識　P142、143				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　三年次後期　安全管理				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
9	救急処置についての心得　P143、144				
10	練習問題解答、解説				
11	期末試験				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　三年次後期　一般教養				
概要と目的	社会人レベルの知識を身に付ける				
担　当　者	鎌田　喜行	単位数	14 時限	区分	学科
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員が一般教養について教育を行う科目。				
講義対象	三年生	時　期	9月下旬～3月		
使用教材	プリント				
到達目標	社会人レベルの常識とサービスマンの必要知識を学ぶ				
成績評価	期末試験・出欠点・平常点　A評価:185～200点、B評価:170～184点、C評価:160～169点を基準とする。				

授業計画

1	経済基礎概論1
2	経済基礎概論2
3	経済用語の基礎知識1
4	経済用語の基礎知識2
5	経済用語の略語
6	自動車に関する制度1
7	自動車に関する制度2
8	自動車に関する制度3
伝達事項等	

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　三年次後期　一般教養				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
9	自賠責保険に関する知識1				
10	自賠責保険に関する知識2				
11	実務計算1（見積もり、工賃計算、利益率計算、売価計算、売掛計算）				
12	実務計算2（見積もり、工賃計算、利益率計算、売価計算、売掛計算）				
13	実務計算3（見積もり、工賃計算、利益率計算、売価計算、売掛計算）				
14	期末試験				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　三年次後期　検査機器				
概要と目的	国家試験レベルの知識を身に付ける				
担　当　者	鎌田　喜行	単位数	6 時限	区分	学科
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員が検査機器について教育を行う科目。				
講義対象	三年生	時　期	9月下旬～3月		
使用教材	法令教材、法令教本、定期点検の手引き、三級シャシ、 自動車検査ハンドブック、プリント				
到達目標	検査機器の取り扱い知識の習得と二級検査機器の復習				
成績評価	期末試験・出欠点・平常点　A評価:185～200点、B評価:170～184点、 C評価:160～169点を基準とする。				
授業計画					
1	サイド・スリップ・テスタ、CO・HC テスタの機器取り扱い				
2	ブレーキ・テスタ、スピード・メータ・テスタの機器取り扱い、検査の合否判定				
3	ヘッド・ライト・テスタ、音量計、オパシメータ、の機器取り扱い				
4	ジーゼル・スモーク・メータの取り扱い、ハイブリッド車の検査時モード				
5	機器の使用用途、その他検査機器の取扱方法				
6	期末試験				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　三年次後期　故障診断				
概要と目的	国家試験レベルの知識を身に付ける				
担　当　者	鎌田　喜行	単位数	22 時限	区分	学科
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員が故障診断について教育を行う科目。				
講義対象	三年生	時　期	9月下旬～3月		
使用教材	一級自動車整備士エンジン/シャシ電子制御装置				
到達目標	一級レベルのエンジン、シャシ電子回路の故障診断の知識習得				
成績評価	期末試験・出欠点・平常点　A評価:185～200点、B評価:170～184点、C評価:160～169点を基準とする。				
授業計画					
1	エンジン電子制御装置　高度故障診断技術　P257～260				
2	エンジン電子制御装置　高度故障診断技術　P261～264				
3	エンジン電子制御装置　高度故障診断技術　P265～268				
4	エンジン電子制御装置　高度故障診断技術　P269～272				
5	エンジン電子制御装置　高度故障診断技術　P273～275				
6	エンジン電子制御装置　高度故障診断技術　P276～279				
7	エンジン電子制御装置　高度故障診断技術　P280～283				
8	シャシ電子制御装置　高度故障診断技術(EPS)　P139～141				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　三年次後期　故障診断				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
9	シャシ電子制御装置　高度故障診断技術(EPS)　P142～144				
10	シャシ電子制御装置　高度故障診断技術(EPS)　P144～145				
11	シャシ電子制御装置　高度故障診断技術(ABS)　P189～191				
12	シャシ電子制御装置　高度故障診断技術(ABS)　P192～194				
13	シャシ電子制御装置　高度故障診断技術(ABS)　P195～197				
14	シャシ電子制御装置　高度診断技術(振動・騒音)　P343～346				
15	シャシ電子制御装置　高度診断技術(振動・騒音)　P347～350				
16	シャシ電子制御装置　高度診断技術(振動・騒音)　P351～355				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　三年次後期　故障診断				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
17	シャシ電子制御装置　高度診断技術(振動・騒音)　P356～360				
18	シャシ電子制御装置　高度診断技術(振動・騒音)　P361～364				
19	シャシ電子制御装置　高度診断技術(振動・騒音)　P365～367				
20	練習問題解答、解説				
21	練習問題解答、解説				
22	期末試験				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　三年次後期　自動車検査				
概要と目	国家試験レベルの知識を身に付ける				
担　当　者	鎌田　喜行	単位数	11 時限	区分	学科
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員が自動車検査について教育を行う科目。				
講義対象	三年生	時　期	9月下旬～3月		
使用教材	法令教材、法令教本、自動車検査ハンドブック				
到達目標	一級レベルの保安基準の知識習得				
成績評価	期末試験・出欠点・平常点　A評価:185～200点、B評価:170～184点、C評価:160～169点を基準とする。				
授業計画					
1	導入、保安基準第 1 条用語の定義～第 9 条走行装置等 P87～98				
2	保安基準第 10 条操縦装置～第 12 条制動装置 P99～108				
3	保安基準第 14 条緩衝装置～第 18 条 2 巻き込み防止装置等 P109～123				
4	保安基準第 20 条乗車装置～第 29 条窓ガラス P123～135				
5	保安基準第 30 条騒音防止装置～第 32 条前照灯 P135～148				
6	保安基準前部霧灯～第 35 条2側方灯及び側方反射器 P148～158				
7	保安基準第 36 条番号灯～第 39 条制動灯 P158～169				
8	保安基準第 39 条 2 補助制動灯～第 41 条方向指示器 P169～179				
伝達事項					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　三年次後期　自動車検査				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
9	保安基準第 41 条 3 非常点滅表示灯～第 44 条後写鏡等 P179～191				
10	保安基準第 45 条窓ふき機等～第 48 条2運行記録計 P191～197				
11	期末試験				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　三年次後期　自動車材料				
概要と目的	国家試験レベルの知識を身に付ける				
担　当　者	鎌田　喜行	単位数	4 時限	区分	学科
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員が自動車材料について教育を行う科目。				
講義対象	三年生	時　期	9月下旬～3月		
使用教材	プリント				
到達目標	二級自動車材料の復習と一級口述試験説明知識の習得				
成績評価	期末試験・出欠点・平常点　A評価:185～200点、B評価:170～184点、C評価:160～169点を基準とする。				
授業計画					
1	金属の性質・特性、軸受け、疲労損傷の確認方法				
2	自動車の材料の特性、自動車のボデーの構造				
3	熱処理の方法と特性、軽量構造の工夫				
4	期末試験				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　三年次後期　自動車法令				
概要と目的	国家試験レベルの知識を身に付ける				
担　当　者	鎌田　喜行	単位数	11 時限	区分	学科
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員が自動車法令について教育を行う科目。				
講義対象	三年生	時　期	9月下旬～3月		
使用教材	法令教材、法令教本				
到達目標	一級レベルの車両法の知識習得				
成績評価	期末試験・出欠点・平常点　A評価:185～200点、B評価:170～184点、C評価:160～169点を基準とする。				
授業計画					
1	整備士制度のあらまし、法規制の概要　P11～19				
2	車両法の意義～第 19 条自動車登録番号標の表示の義務　P20～29				
3	第 31 条打刻の塗まつ等の禁止～第 55 条自動車整備士の技能検定　P30～41				
4	検査～第 69 条の2解体等又は輸出に係る届出　P42～50				
5	第 70 条再交付～第 94 条の 5 保安基準適合証等　P51～60				
6	第 94 条の 5 の 2 限定保安基準適合証～施行規則別表第 5(作業機械等)　P61～70				
7	自動車点検基準 P71～86				
8	練習問題、解答解説				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　三年次後期　自動車法令				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
9	練習問題、解答解説				
10	練習問題、				
11	期末試験				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　三年次後期　自動車力学				
概要と目的	国家試験レベルの知識を身に付ける				
担　当　者	鎌田　喜行	単位数	6 時限	区分	学科
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員が自動車力学について教育を行う科目。				
講義対象	三年生	時　期	9月下旬～3月		
使用教材	プリント				
到達目標	二級自動車力学解答の実力維持				
成績評価	期末試験・出欠点・平常点　A評価:185～200点、B評価:170～184点、C評価:160～169点を基準とする。				
授業計画					
1	軸重、加速度				
2	駆動輪回転速度、加速度				
3	加速度、駆動輪回転速度				
4	駆動力、圧力と力				
5	電気回路計算、バルブ機構にかかる力				
6	期末試験				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　三年次後期　図面				
概要と目的	国家試験レベルの知識を身に付ける				
担　当　者	鎌田　喜行	単位数	4 時限	区分	学科
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員が図面ついて教育を行う科目。				
講義対象	三年生	時　期	9月下旬～3月		
使用教材	二級講習用製図編教科書、プリント				
到達目標	二級図面の復習と整備士の図面知識の習得				
成績評価	期末試験・出欠点・平常点　A評価:185～200点、B評価:170～184点、C評価:160～169点を基準とする。				
授業計画					
1	製図の概要、線の種類による用法、図形の表し方				
2	第三角法と第一角法、投影図の作図、製図の表記方法				
3	中間部分の省略、断面法、面の肌の図示、電気用図記号				
4	期末試験				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　三年次後期　総合診断				
概要と目的	国家試験レベルの知識を身に付ける				
担　当　者	鎌田　喜行	単位数	9 時限	区分	学科
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員が総合診断について教育を行う科目。				
講義対象	三年生	時　期	9月下旬～3月		
使用教材	一級自動車整備士総合診断・環境保全・安全管理				
到達目標	一級レベルの総合診断の知識習得				
成績評価	期末試験・出欠点・平常点　A評価:185～200点、B評価:170～184点、C評価:160～169点を基準とする。				

授業計画

1	自動車整備に関する総合診断の復習1　P9～10
2	自動車整備に関する総合診断の復習2　P11～20
3	自動車整備に関する総合診断の復習3　P21～30
4	自動車整備に関する総合診断の復習4　P31～46
5	応酬話法の復習1　P47～64
6	応酬話法の復習2　P65～82
7	応酬話法の復習3　P83～99
8	部品装着時の構造等変更検査時等における取扱い P145～150
伝達事項等	

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　三年次後期　総合診断				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
9	期末試験				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　三年次後期　測定機器				
概要と目的	国家試験レベルの知識を身に付ける				
担　当　者	鎌田　喜行	単位数	6 時限	区分	学科
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員が測定機器について教育を行う科目。				
講義対象	三年生	時　期	9月下旬～3月		
使用教材	基礎自動車整備作業、三級自動車ガソリンエンジン、三級自動車シャシ、プリント				
到達目標	二級測定機器の復習				
成績評価	期末試験・出欠点・平常点　A評価:185～200点、B評価:170～184点、C評価:160～169点を基準とする。				
授業計画					
1	誤差の原因と対策、各測定器具の測定方法、注意点、目盛りの読み取り				
2	各測定器具の測定方法、注意点、目盛りの読み取り				
3	各測定器具の測定方法、注意点、目盛りの移動量と指針の方向				
4	測定機器の名称と役割				
5	まとめ				
6	期末試験				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　三年次後期　電気･電子回路				
概要と目的	国家試験レベルの知識を身に付ける				
担　当　者	鎌田　喜行	単位数	12 時限	区分	学科
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員が電気･電子回路について教育を行う科目。				
講義対象	三年生	時　期	9月下旬～3月		
使用教材	一級自動車整備士エンジン電子制御装置				
到達目標	一級レベルの電気･電子回路の理解と測定技術の習得				
成績評価	期末試験･出欠点･平常点　A評価:185～200点、B評価:170～184点、C評価:160～169点を基準とする。				
授業計画					
1	電気回路の概要の復習(P7～P12)				
2	電気回路の故障の復習(P12～24)				
3	電気･電子回路の測定技術の復習(P24～29)				
4	電気･電子回路の測定技術の復習1(P30～33)				
5	電気･電子回路の測定技術の復習2(P34～41)				
6	電気･電子回路の測定技術の復習3(P42～48)				
7	電気･電子回路の測定技術の復習4(P49～59)				
8	電気･電子回路の測定技術の復習5(P60～66)				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　三年次後期　電気･電子回路				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
9	一級試験問題　解答･解説				
10	一級試験問題　解答･解説				
11	一級試験問題　解答･解説				
12	期末試験				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　三年次後期　電装品整備技術				
概要と目的	国家試験レベルの知識を身に付ける				
担　当　者	鎌田　喜行	単位数	9 時限	区分	学科
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員が電装品整備技術について教育を行う科目。				
講義対象	三年生	時　期	9月下旬～3月		
使用教材	一級自動車整備士シャシ電子制御装置				
到達目標	一級レベルの電子制御装置と回路の理解				
成績評価	期末試験・出欠点・平常点　A評価:185～200点、B評価:170～184点、C評価:160～169点を基準とする。				

授業計画

1	オート・エアコン　RECアクチュエータ　P222～228
2	オート・エアコン　RECアクチュエータ　P229～235
3	オート・エアコン　RECアクチュエータ　P235～241
4	オート・エアコン　モード・アクチュエータ　P241～249
5	オート・エアコン　エア・ミックス・アクチュエータ　P250～257
6	オート・エアコン　ブロア・モータ　P257～262
7	オート・エアコン　バス・ライン　P262～268
8	オート・エアコン　ECU　P269～272
伝達事項等	

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　三年次後期　電装品整備技術				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
9	期末試験				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　三年次後期　燃料･潤滑剤				
概要と目的	国家試験レベルの知識を身に付ける				
担　当　者	鎌田　喜行	単位数	4 時限	区分	学科
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員が燃料･潤滑剤について教育を行う科目。				
講義対象	三年生	時　期	9月下旬～3月		
使用教材	プリント				
到達目標	二級燃料･潤滑剤の復習と一級口述試験説明知識の習得				
成績評価	期末試験･出欠点･平常点　A評価:185～200点、B評価:170～184点、C評価:160～169点を基準とする。				
授業計画					
1	燃料の引火点、発火点、ガソリンの性状、燃料の精製、蒸留調合				
2	軽油の性状、オイルの粘度、性状、作用、潤滑の状態				
3	グリースの性状、ブレーキ液の性状、不凍液の性状				
4	期末試験				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　三年次　探究①実習　研究製作				
概要と目的	職場レベルの技術を身に付ける 工具の使用方法・安全作業の体得				
担　当　者	鎌田　喜行	単位数	141　時	区分	実習
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員が研究製作について教育を行う科目。				
講義対象	三年生	時　期	4月～6月上旬		
使用教材	一級自動車整備士総合診断・環境保全・安全管理、基礎自動車整備作業、 各種プリント、サービスマニュアル、配線図集				
到達目標	手仕上げ・機械工作作業の体得及び安全作業の体得				
成績評価	実技試験・出欠点・平常点　A評価:170～200点、B評価:140～169点、 C評価:120～139点を基準とする。				

授業計画

1	導入、概要
2	使用作業機器の取扱方法、注意事項の確認（整備機器）
3	配線図の読み方
4	車両よりエンジン取り外し
5	車両よりエンジン取り外し
6	車両よりエンジン取り外し
7	車両よりエンジン取り外し
8	車両よりエンジン取り外し
伝達事項等	

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　三年次　探究①実習　研究製作				
概要と目的	職場レベルの技術を身に付ける 工具の使用方法・安全作業の体得				
担　当　者	鎌田　喜行	単位数	141　時	区分	実習
講義対象	三年生	時　期	4月～6月上旬		
使用教材	一級自動車整備士総合診断・環境保全・安全管理、基礎自動車整備作業、 各種プリント、サービスマニュアル、配線図集				
到達目標	手仕上げ・機械工作作業の体得及び安全作業の体得				
成績評価	実技試験・出欠点・平常試験・レポート				
授業計画					
9	車両よりエンジン取り外し				
10	車両より配線、燃料配管、その他必要な部品の取り外し				
11	車両より配線、燃料配管、その他必要な部品の取り外し				
12	車両より配線、燃料配管、その他必要な部品の取り外し				
13	車両より配線、燃料配管、その他必要な部品の取り外し				
14	車両より配線、燃料配管、その他必要な部品の取り外し				
15	車両より配線、燃料配管、その他必要な部品の取り外し				
16	使用作業機器の取扱方法、注意事項の確認（金属加工）				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　三年次　探究①実習　研究製作				
概要と目的	職場レベルの技術を身に付ける 工具の使用方法・安全作業の体得				
担　当　者	鎌田　喜行	単位数	141　時	区分	実習
講義対象	三年生	時　期	4月～6月上旬		
使用教材	一級自動車整備士総合診断・環境保全・安全管理、基礎自動車整備作業、 各種プリント、サービスマニュアル、配線図集				
到達目標	手仕上げ・機械工作作業の体得及び安全作業の体得				
成績評価	実技試験・出欠点・平常試験・レポート				
授業計画					
17	ベンチエンジン基礎部分の作成				
18	ベンチエンジン基礎部分の作成				
19	ベンチエンジン基礎部分の作成				
20	ベンチエンジン基礎部分の作成				
21	ベンチエンジン基礎部分の作成				
22	ベンチエンジン基礎部分の作成				
23	ベンチエンジン支柱部分の作成				
24	ベンチエンジン支柱部分の作成				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　三年次　探究①実習　研究製作				
概要と目的	職場レベルの技術を身に付ける 工具の使用方法・安全作業の体得				
担　当　者	鎌田　喜行	単位数	141　時	区分	実習
講義対象	三年生	時　期	4月～6月上旬		
使用教材	一級自動車整備士総合診断・環境保全・安全管理、基礎自動車整備作業、 各種プリント、サービスマニュアル、配線図集				
到達目標	手仕上げ・機械工作作業の体得及び安全作業の体得				
成績評価	実技試験・出欠点・平常試験・レポート				
授業計画					
25	ベンチエンジン支柱部分の作成				
26	ベンチエンジン支柱部分の作成				
27	ベンチエンジン支柱部分の作成				
28	ベンチエンジン支柱部分の作成				
29	ベンチエンジン支柱部分の作成				
30	ベンチエンジン支柱部分の作成				
31	ベンチエンジン支柱部分の作成				
32	ベンチエンジン支柱部分の作成				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　三年次　探究①実習　研究製作				
概要と目的	職場レベルの技術を身に付ける 工具の使用方法・安全作業の体得				
担　当　者	鎌田　喜行	単位数	141　時	区分	実習
講義対象	三年生	時　期	4月～6月上旬		
使用教材	一級自動車整備士総合診断・環境保全・安全管理、基礎自動車整備作業、 各種プリント、サービスマニュアル、配線図集				
到達目標	手仕上げ・機械工作作業の体得及び安全作業の体得				
成績評価	実技試験・出欠点・平常試験・レポート				
授業計画					
33	ベンチエンジン支柱部分の作成				
34	部品レイアウトの検討				
35	エンジン・マウント位置の検討				
36	ベンチエンジンマウントの作成				
37	ベンチエンジンマウントの作成				
38	ベンチエンジンマウントの作成				
39	ベンチエンジンマウントの作成				
40	ベンチエンジンマウントの作成				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　三年次　探究①実習　研究製作				
概要と目的	職場レベルの技術を身に付ける 工具の使用方法・安全作業の体得				
担　当　者	鎌田　喜行	単位数	141　時	区分	実習
講義対象	三年生	時　期	4月～6月上旬		
使用教材	一級自動車整備士総合診断・環境保全・安全管理、基礎自動車整備作業、 各種プリント、サービスマニュアル、配線図集				
到達目標	手仕上げ・機械工作作業の体得及び安全作業の体得				
成績評価	実技試験・出欠点・平常試験・レポート				
授業計画					
41	エンジン・マウント位置の検討				
42	ベンチエンジンマウントの作成				
43	ベンチエンジンマウントの作成				
44	ベンチエンジンマウントの作成				
45	ベンチエンジンマウントの作成				
46	エンジン・マウント位置の検討				
47	ベンチエンジンマウントの作成				
48	ベンチエンジンマウントの作成				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　三年次　探究①実習　研究製作				
概要と目的	職場レベルの技術を身に付ける 工具の使用方法・安全作業の体得				
担　当　者	鎌田　喜行	単位数	141　時	区分	実習
講義対象	三年生	時　期	4月～6月上旬		
使用教材	一級自動車整備士総合診断・環境保全・安全管理、基礎自動車整備作業、 各種プリント、サービスマニュアル、配線図集				
到達目標	手仕上げ・機械工作作業の体得及び安全作業の体得				
成績評価	実技試験・出欠点・平常試験・レポート				
授業計画					
49	ベンチエンジンマウントの作成				
50	ベンチエンジンマウントの作成				
51	ベンチエンジンマウントの作成				
52	ベンチエンジンマウントの作成				
53	部品レイアウト、配線の取り回しの検討				
54	補機部品、付属部品の取り付け				
55	補機部品、付属部品の取り付け				
56	補機部品、付属部品の取り付け				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　三年次　探究①実習　研究製作				
概要と目的	職場レベルの技術を身に付ける 工具の使用方法・安全作業の体得				
担　当　者	鎌田　喜行	単位数	141　時	区分	実習
講義対象	三年生	時　期	4月～6月上旬		
使用教材	一級自動車整備士総合診断・環境保全・安全管理、基礎自動車整備作業、 各種プリント、サービスマニュアル、配線図集				
到達目標	手仕上げ・機械工作作業の体得及び安全作業の体得				
成績評価	実技試験・出欠点・平常試験・レポート				
授業計画					
57	補機部品、付属部品の取り付け				
58	補機部品、付属部品の取り付け				
59	補機部品、付属部品の取り付け				
60	補機部品、付属部品の取り付け				
61	補機部品、付属部品の取り付け				
62	補機部品、付属部品の取り付け				
63	補機部品、付属部品の取り付け				
64	補機部品、付属部品の取り付け				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　三年次　探究①実習　研究製作				
概要と目的	職場レベルの技術を身に付ける 工具の使用方法・安全作業の体得				
担　当　者	鎌田　喜行	単位数	141　時	区分	実習
講義対象	三年生	時　期	4月～6月上旬		
使用教材	一級自動車整備士総合診断・環境保全・安全管理、基礎自動車整備作業、 各種プリント、サービスマニュアル、配線図集				
到達目標	手仕上げ・機械工作作業の体得及び安全作業の体得				
成績評価	実技試験・出欠点・平常試験・レポート				
授業計画					
65	部品レイアウト、配線の取り回しの検再検討				
66	燃料配管の取り付け				
67	燃料配管の取り付け				
68	燃料配管の取り付け				
69	燃料配管の取り付け				
70	燃料配管の取り付け				
71	燃料配管の取り付け				
72	燃料配管の取り付け				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　三年次　探究①実習　研究製作				
概要と目的	職場レベルの技術を身に付ける 工具の使用方法・安全作業の体得				
担　当　者	鎌田　喜行	単位数	141　時	区分	実習
講義対象	三年生	時　期	4月～6月上旬		
使用教材	一級自動車整備士総合診断・環境保全・安全管理、基礎自動車整備作業、 各種プリント、サービスマニュアル、配線図集				
到達目標	手仕上げ・機械工作作業の体得及び安全作業の体得				
成績評価	実技試験・出欠点・平常試験・レポート				
授業計画					
73	燃料配管の取り付け				
74	燃料配管の取り付け				
75	電気配線の仮取り付け				
76	電気配線の仮取り付け				
77	電気配線の仮取り付け				
78	エンジン始動チェック、以上の有無の確認				
79	エンジン始動チェック、以上の有無の確認				
80	エンジン始動チェック、以上の有無の確認				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　三年次　探究①実習　研究製作				
概要と目的	職場レベルの技術を身に付ける 工具の使用方法・安全作業の体得				
担　当　者	鎌田　喜行	単位数	141　時	区分	実習
講義対象	三年生	時　期	4月～6月上旬		
使用教材	一級自動車整備士総合診断・環境保全・安全管理、基礎自動車整備作業、 各種プリント、サービスマニュアル、配線図集				
到達目標	手仕上げ・機械工作作業の体得及び安全作業の体得				
成績評価	実技試験・出欠点・平常試験・レポート				
授業計画					
81	燃料配管の取り付け				
82	燃料配管の取り付け				
83	燃料配管の取り付け				
84	燃料配管の取り付け				
85	燃料配管の取り付け				
86	電気配線の取り付け、不要な配線の取り外し				
87	電気配線の取り付け、不要な配線の取り外し				
88	電気配線の取り付け、不要な配線の取り外し				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　三年次　探究①実習　研究製作				
概要と目的	職場レベルの技術を身に付ける 工具の使用方法・安全作業の体得				
担　当　者	鎌田　喜行	単位数	141　時	区分	実習
講義対象	三年生	時　期	4月～6月上旬		
使用教材	一級自動車整備士総合診断・環境保全・安全管理、基礎自動車整備作業、 各種プリント、サービスマニュアル、配線図集				
到達目標	手仕上げ・機械工作作業の体得及び安全作業の体得				
成績評価	実技試験・出欠点・平常試験・レポート				
授業計画					
89	電気配線の取り付け、不要な配線の取り外し				
90	電気配線の取り付け、不要な配線の取り外し				
91	電気配線の取り付け、不要な配線の取り外し				
92	中間始動チェック、異状の有無の確認				
93	電気配線の取り付け、不要な配線の取り外し				
94	電気配線の取り付け、不要な配線の取り外し				
95	電気配線の取り付け、不要な配線の取り外し				
96	電気配線の取り付け、不要な配線の取り外し				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　三年次　探究①実習　研究製作				
概要と目的	職場レベルの技術を身に付ける 工具の使用方法・安全作業の体得				
担　当　者	鎌田　喜行	単位数	141　時	区分	実習
講義対象	三年生	時　期	4月～6月上旬		
使用教材	一級自動車整備士総合診断・環境保全・安全管理、基礎自動車整備作業、 各種プリント、サービスマニュアル、配線図集				
到達目標	手仕上げ・機械工作作業の体得及び安全作業の体得				
成績評価	実技試験・出欠点・平常試験・レポート				
授業計画					
97	電気配線の取り付け、不要な配線の取り外し				
98	電気配線の取り付け、不要な配線の取り外し				
99	電気配線の取り付け、不要な配線の取り外し				
100	電気配線の取り付け、不要な配線の取り外し				
101	電気配線の取り付け、不要な配線の取り外し				
102	電気配線の取り付け、不要な配線の取り外し				
103	電気配線の取り付け、不要な配線の取り外し				
104	電気配線の取り付け、不要な配線の取り外し				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　三年次　探究①実習　研究製作				
概要と目的	職場レベルの技術を身に付ける 工具の使用方法・安全作業の体得				
担　当　者	鎌田　喜行	単位数	141　時	区分	実習
講義対象	三年生	時　期	4月～6月上旬		
使用教材	一級自動車整備士総合診断・環境保全・安全管理、基礎自動車整備作業、 各種プリント、サービスマニュアル、配線図集				
到達目標	手仕上げ・機械工作作業の体得及び安全作業の体得				
成績評価	実技試験・出欠点・平常試験・レポート				
授業計画					
105	中間始動チェック、異状の有無の確認				
106	電気配線の取り付け、不要な配線の取り外し				
107	電気配線の取り付け、不要な配線の取り外し				
108	電気配線の取り付け、不要な配線の取り外し				
109	電気配線の取り付け、不要な配線の取り外し				
110	電気配線の取り付け、不要な配線の取り外し				
111	電気配線の取り付け、不要な配線の取り外し				
112	電気配線の取り付け、不要な配線の取り外し				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　三年次　探究①実習　研究製作				
概要と目的	職場レベルの技術を身に付ける 工具の使用方法・安全作業の体得				
担　当　者	鎌田　喜行	単位数	141　時	区分	実習
講義対象	三年生	時　期	4月～6月上旬		
使用教材	一級自動車整備士総合診断・環境保全・安全管理、基礎自動車整備作業、 各種プリント、サービスマニュアル、配線図集				
到達目標	手仕上げ・機械工作作業の体得及び安全作業の体得				
成績評価	実技試験・出欠点・平常試験・レポート				
授業計画					
113	電気配線の取り付け、不要な配線の取り外し				
114	電気配線の取り付け、不要な配線の取り外し				
115	電気配線の取り付け、不要な配線の取り外し				
116	エンジン始動、点検、調整、最終確認				
117	エンジン始動、点検、調整、最終確認				
118	制作課題の作成（金属の切断、穴開け、溶接）				
119	制作課題の作成（金属の切断、穴開け、溶接）				
120	制作課題の作成（金属の切断、穴開け、溶接）				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　三年次　探究①実習　研究製作				
概要と目的	職場レベルの技術を身に付ける 工具の使用方法・安全作業の体得				
担　当　者	鎌田　喜行	単位数	141　時	区分	実習
講義対象	三年生	時　期	4月～6月上旬		
使用教材	一級自動車整備士総合診断・環境保全・安全管理、基礎自動車整備作業、 各種プリント、サービスマニュアル、配線図集				
到達目標	手仕上げ・機械工作作業の体得及び安全作業の体得				
成績評価	実技試験・出欠点・平常試験・レポート				
授業計画					
121	制作課題の作成（金属の切断、穴開け、溶接）				
122	制作課題の作成（金属の切断、穴開け、溶接）				
123	制作課題の作成（金属の切断、穴開け、溶接）				
124	制作課題の作成（金属の切断、穴開け、溶接）				
125	制作課題の作成（金属の切断、穴開け、溶接）				
126	制作課題の作成（金属の切断、穴開け、溶接）				
127	制作課題の作成（金属の切断、穴開け、溶接）				
128	制作課題の作成（金属の切断、穴開け、溶接）				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　三年次　探究①実習　研究製作				
概要と目的	職場レベルの技術を身に付ける 工具の使用方法・安全作業の体得				
担　当　者	鎌田　喜行	単位数	141　時	区分	実習
講義対象	三年生	時　期	4月～6月上旬		
使用教材	一級自動車整備士総合診断・環境保全・安全管理、基礎自動車整備作業、 各種プリント、サービスマニュアル、配線図集				
到達目標	手仕上げ・機械工作作業の体得及び安全作業の体得				
成績評価	実技試験・出欠点・平常試験・レポート				
授業計画					
129	制作課題の作成（金属の切断、穴開け、溶接）				
130	制作課題の作成（金属の切断、穴開け、溶接）				
131	制作課題の作成（金属の切断、穴開け、溶接）				
132	制作課題の作成（金属の切断、穴開け、溶接）				
133	制作課題の作成（金属の切断、穴開け、溶接）				
134	制作課題の作成（金属の切断、穴開け、溶接）				
135	制作課題の作成（金属の切断、穴開け、溶接）				
136	実習内容の復習				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　三年次　探究①実習　研究製作				
概要と目的	職場レベルの技術を身に付ける 工具の使用方法・安全作業の体得				
担　当　者	鎌田　喜行	単位数	141　時	区分	実習
講義対象	三年生	時　期	4月～6月上旬		
使用教材	一級自動車整備士総合診断・環境保全・安全管理、基礎自動車整備作業、 各種プリント、サービスマニュアル、配線図集				
到達目標	手仕上げ・機械工作作業の体得及び安全作業の体得				
成績評価	実技試験・出欠点・平常試験・レポート				
授業計画					
137	実習内容の復習				
138	実習内容の復習				
139	実技試験				
140	実技試験				
141	実技試験				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　三年次　探究②実習　エンジン新機構				
概要と目的	職場レベルの技術を身に付ける 国家試験レベルの知識を身に付ける				
担　当　者	鎌田　喜行	単位数	75 時限	区分	実習
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員がエンジン新機構について教育を行う科目。				
講義対象	三年生	時　期	6月中旬～9月中旬		
使用教材	一級自動車整備士自動車新技術、次世代自動車システムHV及び車両診断/EV、低圧電気取扱い知識				
到達目標	一級レベルの理解と点検・整備技術の体得				
成績評価	実技試験・出欠点・平常点　A評価:170～200点、B評価:140～169点、 C評価:120～139点を基準とする。				
授業計画					
1	導入、概要				
2	ハイブリッド車の部品構成確認、脱着、分解、組立、作動確認				
3	ハイブリッド車の部品構成確認、脱着、分解、組立、作動確認				
4	ハイブリッド車の部品構成確認、脱着、分解、組立、作動確認				
5	ハイブリッド車の部品構成確認、脱着、分解、組立、作動確認				
6	ハイブリッド車の部品構成確認、脱着、分解、組立、作動確認				
7	ハイブリッド車の部品構成確認、脱着、分解、組立、作動確認				
8	ハイブリッド車の部品構成確認、脱着、分解、組立、作動確認				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　三年次　探究②実習　エンジン新機構				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
9	ハイブリッド車の部品構成確認、脱着、分解、組立、作動確認				
10	ハイブリッド車の部品構成確認、脱着、分解、組立、作動確認				
11	ハイブリッド車の部品構成確認、脱着、分解、組立、作動確認				
12	ハイブリッド車の点検、整備手法の体得				
13	ハイブリッド車の点検、整備手法の体得				
14	ハイブリッド車の点検、整備手法の体得				
15	ハイブリッド車の点検、整備手法の体得				
16	ハイブリッド車の点検、整備手法の体得				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　三年次　探究②実習　エンジン新機構				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
17	ハイブリッド車の点検、整備手法の体得				
18	ハイブリッド車のまとめ				
19	圧縮天然ガス(CNG)自動車の部品構成確認、脱着、分解、組立、作動確認				
20	圧縮天然ガス(CNG)自動車の部品構成確認、脱着、分解、組立、作動確認				
21	圧縮天然ガス(CNG)自動車の部品構成確認、脱着、分解、組立、作動確認				
22	圧縮天然ガス(CNG)自動車の部品構成確認、脱着、分解、組立、作動確認				
23	圧縮天然ガス(CNG)自動車の部品構成確認、脱着、分解、組立、作動確認				
24	圧縮天然ガス(CNG)自動車の部品構成確認、脱着、分解、組立、作動確認				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　三年次　探究②実習　エンジン新機構				
概要と目的	職場レベルの技術を身に付ける 国家試験レベルの知識を身に付ける				
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
25	圧縮天然ガス(CNG)自動車の部品構成確認、脱着、分解、組立、作動確認				
26	圧縮天然ガス(CNG)自動車の部品構成確認、脱着、分解、組立、作動確認				
27	圧縮天然ガス(CNG)自動車の部品構成確認、脱着、分解、組立、作動確認				
28	圧縮天然ガス(CNG)自動車の部品構成確認、脱着、分解、組立、作動確認				
29	圧縮天然ガス(CNG)自動車の部品構成確認、脱着、分解、組立、作動確認				
30	圧縮天然ガス(CNG)自動車の部品構成確認、脱着、分解、組立、作動確認				
31	圧縮天然ガス(CNG)自動車の部品構成確認、脱着、分解、組立、作動確認				
32	圧縮天然ガス(CNG)自動車の点検、整備手法の体得				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　三年次　探究②実習　エンジン新機構				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
33	圧縮天然ガス(CNG)自動車の点検、整備手法の体得				
34	圧縮天然ガス(CNG)自動車の点検、整備手法の体得				
35	圧縮天然ガス(CNG)自動車のまとめ				
36	筒内噴射式ガソリン・エンジンの部品構成確認、脱着、分解、組立				
37	筒内噴射式ガソリン・エンジンの部品構成確認、脱着、分解、組立				
38	筒内噴射式ガソリン・エンジンの部品構成確認、脱着、分解、組立				
39	筒内噴射式ガソリン・エンジンの部品構成確認、脱着、分解、組立				
40	筒内噴射式ガソリン・エンジンの部品構成確認、脱着、分解、組立				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　三年次　探究②実習　エンジン新機構				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期	6月中旬～9月中旬		
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
41	筒内噴射式ガソリン・エンジンの部品構成確認、脱着、分解、組立				
42	筒内噴射式ガソリン・エンジンの部品構成確認、脱着、分解、組立				
43	筒内噴射式ガソリン・エンジンの部品構成確認、脱着、分解、組立				
44	筒内噴射式ガソリン・エンジンの部品構成確認、脱着、分解、組立				
45	筒内噴射式ガソリン・エンジンの部品構成確認、脱着、分解、組立				
46	筒内噴射式ガソリン・エンジンの部品構成確認、脱着、分解、組立				
47	筒内噴射式ガソリン・エンジンの部品構成確認、脱着、分解、組立				
48	筒内噴射式ガソリン・エンジンの部品構成確認、脱着、分解、組立				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　三年次　探究②実習　エンジン新機構				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
49	筒内噴射式ガソリン・エンジンの部品構成確認、脱着、分解、組立				
50	筒内噴射式ガソリン・エンジンの部品構成確認、脱着、分解、組立				
51	筒内噴射式ガソリン・エンジンの部品構成確認、脱着、分解、組立				
52	筒内噴射式ガソリン・エンジンのまとめ				
53	コモン・レール式高圧燃料噴射システムの部品構成確認、脱着、分解、組立				
54	コモン・レール式高圧燃料噴射システムの部品構成確認、脱着、分解、組立				
55	コモン・レール式高圧燃料噴射システムの部品構成確認、脱着、分解、組立				
56	コモン・レール式高圧燃料噴射システムの部品構成確認、脱着、分解、組立				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　三年次　探究②実習　エンジン新機構				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
57	コモン･レール式高圧燃料噴射システムの部品構成確認、脱着、分解、組立				
58	コモン･レール式高圧燃料噴射システムの部品構成確認、脱着、分解、組立				
59	コモン･レール式高圧燃料噴射システムの部品構成確認、脱着、分解、組立				
60	コモン･レール式高圧燃料噴射システムの部品構成確認、脱着、分解、組立				
61	コモン･レール式高圧燃料噴射システムの部品構成確認、脱着、分解、組立				
62	コモン･レール式高圧燃料噴射システムの部品構成確認、脱着、分解、組立				
63	コモン･レール式高圧燃料噴射システムの部品構成確認、脱着、分解、組立				
64	コモン･レール式高圧燃料噴射システムの部品構成確認、脱着、分解、組立				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　三年次　探究②実習　エンジン新機構				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
65	コモン･レール式高圧燃料噴射システムの部品構成確認、脱着、分解、組立				
66	コモン･レール式高圧燃料噴射システムの部品構成確認、脱着、分解、組立				
67	コモン･レール式高圧燃料噴射システムの部品構成確認、脱着、分解、組立				
68	コモン･レール式高圧燃料噴射システムの部品構成確認、脱着、分解、組立				
69	コモン･レール式高圧燃料噴射システムのまとめ				
70	実習内容の復習				
71	実習内容の復習				
72	実習内容の復習				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　三年次　探究②実習　エンジン新機構				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
73	実技試験				
74	実技試験				
75	実技試験				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　三年次　探究②実習　シャシ新機構				
概要と目的	職場レベルの技術を身に付ける 国家試験レベルの知識を身に付ける				
担　当　者	鎌田　喜行	単位数	51 時限	区分	実習
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員がシャシ新機構について教育を行う科目。				
講義対象	三年生	時　期	6月中旬～9月中旬		
使用教材	一級自動車整備士自動車新技術、プリント				
到達目標	一級レベルの理解と点検・整備技術の体得				
成績評価	実技試験・出欠点・平常点　A評価:170～200点、B評価:140～169点、 C評価:120～139点を基準とする。				
授業計画					
1	導入、概要				
2	無段変速機(CVT)の部品構成確認、試乗				
3	無段変速機(CVT)の部品構成確認、脱着、分解、組立、作動確認				
4	無段変速機(CVT)の部品構成確認、脱着、分解、組立、作動確認				
5	無段変速機(CVT)の部品構成確認、脱着、分解、組立、作動確認				
6	無段変速機(CVT)の部品構成確認、脱着、分解、組立、作動確認				
7	無段変速機(CVT)の部品構成確認、脱着、分解、組立、作動確認				
8	無段変速機(CVT)の部品構成確認、脱着、分解、組立、作動確認				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　三年次　探究②実習　シャシ新機構				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
9	無段変速機(CVT)の部品構成確認、脱着、分解、組立、作動確認				
10	無段変速機(CVT)の部品構成確認、脱着、分解、組立、作動確認				
11	無段変速機(CVT)の部品構成確認、脱着、分解、組立、作動確認				
12	無段変速機(CVT)の部品構成確認、脱着、分解、組立、作動確認				
13	無段変速機(CVT)の部品構成確認、脱着、分解、組立、作動確認				
14	無段変速機(CVT)の点検、整備手法の体得				
15	無段変速機(CVT)の点検、整備手法の体得				
16	無段変速機(CVT)のまとめ				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　三年次　探究②実習　シャシ新機構				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
17	車両安定制御装置の部品構成確認、試乗				
18	車両安定制御装置部品確認、作動上状況の確認				
19	車両安定制御装置部品確認、作動上状況の確認				
20	車両安定制御装置部品確認、作動上状況の確認				
21	車両安定制御装置部品確認、作動上状況の確認				
22	車両安定制御装置部品確認、作動上状況の確認				
23	車両安定制御装置部品確認、作動上状況の確認				
24	車両安定制御装置部品確認、作動上状況の確認				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　三年次　探究②実習　シャシ新機構				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
25	車両安定制御装置制御解説				
26	車両安定制御装置制御解説				
27	車両安定制御装置制御解説				
28	車両安定制御装置制御解説				
29	車両安定制御装置の理解度確認				
30	車両安定制御装置の理解度確認				
31	車両安定制御装置のまとめ				
32	SRS エア・バッグ及びプリテンショナ・シート・ベルト				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　三年次　探究②実習　シャシ新機構				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
33	SRS エア・バッグの構成部品確認、作動システムについて				
34	SRS エア・バッグの構成部品確認、作動システムについて				
35	プリテンショナ・シート・ベルトの構成部品確認、作動システムについて				
36	プリテンショナ・シート・ベルトの構成部品確認、作動システムについて				
37	各センサの作動状況の確認				
38	SRS エア・バッグ及びプリテンショナ・シート・ベルトの点検、脱着、異状時の故障診断				
39	SRS エア・バッグ及びプリテンショナ・シート・ベルトの点検、脱着、異状時の故障診断				
40	SRS エア・バッグ及びプリテンショナ・シート・ベルトの点検、脱着、異状時の故障診断				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　三年次　探究②実習　シャシ新機構				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
41	SRS エア・バッグ及びプリテンショナ・シート・ベルトの点検、脱着、異状時の故障診断				
42	SRS エア・バッグ及びプリテンショナ・シート・ベルトの点検、脱着、異状時の故障診断				
43	SRS エア・バッグ及びプリテンショナ・シート・ベルトの点検、脱着、異状時の故障診断				
44	SRS エア・バッグ及びプリテンショナ・シート・ベルトの廃棄要領の講義				
45	SRS エア・バッグ及びプリテンショナ・シート・ベルトのまとめ				
46	実習内容の復習				
47	実習内容の復習				
48	実習内容の復習				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　三年次　探究②実習　シャシ新機構				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
49	実技試験				
50	実技試験				
51	実技試験				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　三年次　探究②実習　応用計測				
概要と目的	職場レベルの技術を身に付ける テスタの測定方法の体得				
担　当　者	鎌田　喜行	単位数	21 時限	区分	実習
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員が応用計測について教育を行う科目。				
講義対象	三年生	時　期	6月中旬～9月中旬		
使用教材	一級自動車整備士エンジン電子制御装置、プリント				
到達目標	一級レベルの理解と応用計測作業技術の体得				
成績評価	実技試験・出欠点・平常点　A評価:170～200点、B評価:140～169点、 C評価:120～139点を基準とする。				
授業計画					
1	導入、概要				
2	測定技術の体得（テスタの種類、基本測定技術）				
3	測定（電圧、抵抗、ダイオード・テスト等）				
4	測定（電流クランプを用いた測定方法、活回路を用いた電圧測定）				
5	測定（活回路を用いた電圧測定、異状時の電圧、作動の変化）				
6	測定技術のまとめ、測定練習				
7	外部診断器の取り扱い方法				
8	外部診断器の取り扱い方法				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　三年次　探究②実習　応用計測				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
9	オシロスコープの操作方法、活用方法				
10	オシロスコープの操作方法、活用方法				
11	オシロスコープの操作方法、活用方法のまとめ				
12	外部診断器の機能を用いた故障診断への活用方法				
13	外部診断器の機能を用いた故障診断への活用方法				
14	外部診断器の機能を用いた故障診断への活用方法				
15	外部診断器の機能を用いた故障診断への活用方法				
16	外部診断器の機能を用いた故障診断への活用方法のまとめ				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　三年次　探究②実習　応用計測				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
17	実習内容の復習、作業反復練習				
18	実習内容の復習、作業反復練習				
19	実技試験				
20	実技試験				
21	実技試験				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　三年次　探究③実習　エンジン構造				
概要と目的	職場レベルの技術を身に付ける 作業の個人レベルでの体得				
担　当　者	鎌田　喜行	単位数	57 時限	区分	実習
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員がエンジン構造について教育を行う科目。				
講義対象	三年生	時　期	9月下旬～12月上旬		
使用教材	プリント、サービス・マニュアル、二級ガソリン自動車エンジン編、二級ジーゼル自動車エンジン編、三級自動車ガソリン・エンジン、三級自動車ジーゼル・エンジン				
到達目標	一級レベルの理解と自動車整備技術の体得				
成績評価	実技試験・出欠点・平常点　A評価:170～200点、B評価:140～169点、 C評価:120～139点を基準とする。				
授業計画					
1	導入、概要				
2	ジーゼル・エンジンの始動と予熱装置の作動の関係				
3	予熱装置の故障時の現象と故障探究手法				
4	予熱装置の故障時の現象と故障探究手法				
5	エンジンの故障探究手法の解説と実践				
6	エンジンの故障探究手法の解説と実践				
7	エンジン構造研究（ロータリ・エンジン）分解・組み付け				
8	エンジン構造研究（ロータリ・エンジン）分解・組み付け				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　三年次　探究③実習　エンジン構造				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
9	エンジン構造研究（ロータリ・エンジン）分解・組み付け				
10	エンジン構造研究（ロータリ・エンジン）分解・組み付け				
11	エンジン構造研究（ロータリ・エンジン）分解・組み付け				
12	エンジン構造研究（ロータリ・エンジン）分解・組み付け				
13	エンジン構造研究（ロータリ・エンジン）分解・組み付け				
14	エンジン構造研究（ロータリ・エンジン）分解・組み付け				
15	エンジン構造研究（ロータリ・エンジン）分解・組み付け				
16	エンジン構造研究（ロータリ・エンジン）分解・組み付け				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　三年次　探究③実習　エンジン構造				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
17	エンジン・オーバーホール（状況確認）				
18	エンジン・オーバーホール（状況確認）				
19	エンジン・オーバーホール作業（分解、洗浄、測定、良否判定、組み付け、調整）				
20	エンジン・オーバーホール作業（分解、洗浄、測定、良否判定、組み付け、調整）				
21	エンジン・オーバーホール作業（分解、洗浄、測定、良否判定、組み付け、調整）				
22	エンジン・オーバーホール作業（分解、洗浄、測定、良否判定、組み付け、調整）				
23	エンジン・オーバーホール作業（分解、洗浄、測定、良否判定、組み付け、調整）				
24	エンジン・オーバーホール作業（分解、洗浄、測定、良否判定、組み付け、調整）				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　三年次　探究③実習　エンジン構造				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
25	エンジン・オーバーホール作業（分解、洗浄、測定、良否判定、組み付け、調整）				
26	エンジン・オーバーホール作業（分解、洗浄、測定、良否判定、組み付け、調整）				
27	エンジン・オーバーホール作業（分解、洗浄、測定、良否判定、組み付け、調整）				
28	エンジン・オーバーホール作業（分解、洗浄、測定、良否判定、組み付け、調整）				
29	エンジン・オーバーホール作業（分解、洗浄、測定、良否判定、組み付け、調整）				
30	エンジン・オーバーホール作業（分解、洗浄、測定、良否判定、組み付け、調整）				
31	エンジン・オーバーホール作業（分解、洗浄、測定、良否判定、組み付け、調整）				
32	エンジン・オーバーホール作業（分解、洗浄、測定、良否判定、組み付け、調整）				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　三年次　探究③実習　エンジン構造				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
33	エンジン・オーバーホール作業（分解、洗浄、測定、良否判定、組み付け、調整）				
34	エンジン・オーバーホール作業（分解、洗浄、測定、良否判定、組み付け、調整）				
35	エンジン・オーバーホール作業（分解、洗浄、測定、良否判定、組み付け、調整）				
36	エンジン・オーバーホール作業（分解、洗浄、測定、良否判定、組み付け、調整）				
37	エンジン・オーバーホール作業（分解、洗浄、測定、良否判定、組み付け、調整）				
38	エンジン・オーバーホール作業（分解、洗浄、測定、良否判定、組み付け、調整）				
39	エンジン・オーバーホール作業（分解、洗浄、測定、良否判定、組み付け、調整）				
40	エンジン・オーバーホール作業（分解、洗浄、測定、良否判定、組み付け、調整）				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　三年次　探究③実習　エンジン構造				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
41	エンジン・オーバーホール作業（分解、洗浄、測定、良否判定、組み付け、調整）				
42	エンジン・オーバーホール作業（分解、洗浄、測定、良否判定、組み付け、調整）				
43	エンジン・オーバーホール作業（分解、洗浄、測定、良否判定、組み付け、調整）				
44	エンジン・オーバーホール作業（分解、洗浄、測定、良否判定、組み付け、調整）				
45	エンジン・オーバーホール作業（分解、洗浄、測定、良否判定、組み付け、調整）				
46	エンジン・オーバーホール作業（分解、洗浄、測定、良否判定、組み付け、調整）				
47	エンジン・オーバーホール作業（分解、洗浄、測定、良否判定、組み付け、調整）				
48	エンジン・オーバーホール作業（分解、洗浄、測定、良否判定、組み付け、調整）				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　三年次　探究③実習　エンジン構造				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
49	エンジン・オーバーホール作業（分解、洗浄、測定、良否判定、組み付け、調整）				
50	エンジン・オーバーホール作業（分解、洗浄、測定、良否判定、組み付け、調整）				
51	エンジン・オーバーホール作業（分解、洗浄、測定、良否判定、組み付け、調整）				
52	実習内容の復習				
53	実習内容の復習				
54	実習内容の復習				
55	実技試験				
56	実技試験				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　三年次　探究③実習　エンジン構造				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
57	実技試験				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　三年次　探究③実習　エンジン電子制御				
概要と目的	職場レベルの技術を身に付ける 故障探究方法の体得				
担　当　者	鎌田　喜行	単位数	57 時限	区分	実習
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員がエンジン電子制御について教育を行う科目。				
講義対象	三年生	時　期	9月下旬～12月上旬		
使用教材	プリント、サービス・マニュアル、一級自動車整備士エンジン電子制御装置、 二級ガソリン自動車エンジン編				
到達目標	一級レベルの理解と自動車整備技術の体得				
成績評価	実技試験・出欠点・平常点　A評価:170～200点、B評価:140～169点、 C評価:120～139点を基準とする。				
授業計画					
1	導入、概要				
2	電子制御装置（燃料噴射、点火時期、アイドル回転制御）の復習				
3	各センサの正常制御電圧の確認				
4	各センサの正常制御電圧の確認				
5	各センサの正常制御電圧の確認				
6	各センサの正常制御電圧の確認				
7	各センサの正常制御電圧の確認				
8	診断の基本（問診、前点検、再現手法）の実践				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　三年次　探究③実習　エンジン電子制御				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
9	センサの故障探究、切り分け方法（水温センサ、吸気温センサ）、異常現象確認				
10	センサの故障探究、切り分け方法（水温センサ、吸気温センサ）、異常現象確認				
11	センサの故障探究、切り分け方法（水温センサ、吸気温センサ）、異常現象確認				
12	センサの故障探究、切り分け方法（バキューム・センサ）、異常現象確認				
13	センサの故障探究、切り分け方法（バキューム・センサ）、異常現象確認				
14	センサの故障探究、切り分け方法（バキューム・センサ）、異常現象確認				
15	センサの故障探究、切り分け方法（スロットル・ポジション・センサ）、異常現象確認				
16	センサの故障探究、切り分け方法（スロットル・ポジション・センサ）、異常現象確認				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　三年次　探究③実習　エンジン電子制御				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
17	センサの故障探究、切り分け方法（スロットル・ポジション・センサ）、異常現象確認				
18	センサの故障探究方法（O_2 センサ）、異常現象確認				
19	センサの故障探究方法（O_2 センサ）、異常現象確認				
20	センサの故障探究方法（O_2 センサ）、異常現象確認				
21	センサの故障探究方法（エア・フロー・メータ）、異常現象確認				
22	センサの故障探究方法（エア・フロー・メータ）、異常現象確認				
23	センサの故障探究方法（エア・フロー・メータ）、異常現象確認				
24	センサ、配線、ECU の切り分け方法（クランク角（カム角）センサ）				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　三年次　探究③実習　エンジン電子制御				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
25	センサ、配線、ECU の切り分け方法（クランク角（カム角）センサ）				
26	センサ、配線、ECU の切り分け方法（クランク角（カム角）センサ）				
27	アクチュエータ（イグナイタ）故障探究、異常現象確認				
28	アクチュエータ（イグナイタ）故障探究、異常現象確認				
29	アクチュエータ（イグナイタ）故障探究、異常現象確認				
30	アクチュエータ（ISCV）故障探究、異常現象確認				
31	アクチュエータ（ISCV）故障探究、異常現象確認				
32	アクチュエータ（ISCV）故障探究、異常現象確認				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　三年次　探究③実習　エンジン電子制御				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
33	アクチュエータ（フューエル・ポンプ）故障探究、異常現象確認				
34	アクチュエータ（フューエル・ポンプ）故障探究、異常現象確認				
35	アクチュエータ（フューエル・ポンプ）故障探究、異常現象確認				
36	エンジン不調（単気筒不具合、異常コードなし）故障探究、現象確認				
37	エンジン不調（単気筒不具合、異常コードなし）故障探究、現象確認				
38	エンジン不調（単気筒不具合、異常コードなし）故障探究、現象確認				
39	エンジン不調（全気筒不具合、異常コードなし）故障探究、現象確認				
40	エンジン不調（全気筒不具合、異常コードなし）故障探究、現象確認				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　三年次　探究③実習　エンジン電子制御				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
41	エンジン不調（全気筒不具合、異常コードなし）故障探究、現象確認				
42	故障探究演習と解説				
43	故障探究演習と解説				
44	故障探究演習と解説				
45	故障探究演習と解説				
46	故障探究演習と解説				
47	故障探究演習と解説				
48	故障探究演習と解説				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　三年次　探究③実習　エンジン電子制御				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
49	故障探究演習と解説				
50	故障探究演習と解説				
51	故障探究演習と解説				
52	実習内容の復習				
53	実習内容の復習				
54	実習内容の復習				
55	実技試験				
56	実技試験				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　三年次　探究③実習　エンジン電子制御				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価	実技試験・出欠点・平常試験・レポート				
授業計画					
57	実技試験				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　三年次　探究③実習　駆動装置				
概要と目的	職場レベルの技術を身に付ける 作業の個人レベルでの体得				
担　当　者	鎌田　喜行	単位数	57 時限	区分	実習
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員が駆動装置について教育を行う科目。				
講義対象	三年生	時　期	9月下旬～12月上旬		
使用教材	プリント、一級自動車整備士シャシ電子制御装置、二級自動車シャシ				
到達目標	一級レベルの理解と自動車整備技術の体得				
成績評価	実技試験・出欠点・平常点　A評価:170～200点、B評価:140～169点、 C評価:120～139点を基準とする。				
授業計画					
1	導入、概要				
2	電子制御 AT の制御内容、基本点検				
3	電子制御 AT 脱着（含アクスル、ディファレンシャル、プロペラシャフト等）の脱着				
4	電子制御 AT 脱着（含アクスル、ディファレンシャル、プロペラシャフト等）の脱着				
5	電子制御 AT 脱着（含アクスル、ディファレンシャル、プロペラシャフト等）の脱着				
6	電子制御 AT 脱着（含アクスル、ディファレンシャル、プロペラシャフト等）の脱着				
7	電子制御 AT 脱着（含アクスル、ディファレンシャル、プロペラシャフト等）の脱着				
8	電子制御 AT 脱着（含アクスル、ディファレンシャル、プロペラシャフト等）の脱着				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　三年次　探究③実習　駆動装置				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
9	電子制御 AT 脱着（含アクスル、ディファレンシャル、プロペラシャフト等）の脱着				
10	電子制御 AT 脱着（含アクスル、ディファレンシャル、プロペラシャフト等）の脱着、ATF 補充、点検				
11	A/T 故障の切り分け手法				
12	振動騒音分析器の用途、測定方法、使用方法（P295～298）				
13	他振動騒音測定機器の用途、測定方法、使用方法（P294、295）				
14	騒音計の用途、測定方法、使用方法（P299,300）				
15	騒音計の用途、測定方法、使用方法（P299,300）				
16	騒音計の用途、測定方法、使用方法（P299,300）				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　三年次　探究③実習　駆動装置				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
17	騒音計の用途、測定方法、使用方法(P299,300)				
18	騒音計の用途、測定方法、使用方法(P299,300)				
19	音圧レベルの確認(騒音計を用いて)、計算方法				
20	音圧レベルの確認(騒音計を用いて)、計算方法				
21	音圧レベルの確認(騒音計を用いて)、計算方法				
22	騒音振動分析器の活用、周波数分析 P362～365				
23	騒音振動分析器の活用、周波数分析 P362～365				
24	騒音振動分析器の活用、周波数分析 P362～365				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　三年次　探究③実習　駆動装置				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
25	騒音振動分析器の活用、周波数分析 P362～365				
26	騒音振動分析器の活用、周波数分析 P362～365				
27	騒音振動分析器の活用、周波数分析 P362～365				
28	タイヤの振れの測定、ホイールの振れの測定、位相合わせの方法、タイヤの組み替え、バランス調整				
29	タイヤの振れの測定、ホイールの振れの測定、位相合わせの方法、タイヤの組み替え、バランス調整				
30	タイヤの振れの測定、ホイールの振れの測定、位相合わせの方法、タイヤの組み替え、バランス調整				
31	タイヤの振れの測定、ホイールの振れの測定、位相合わせの方法、タイヤの組み替え、バランス調整				
32	タイヤの振れの測定、ホイールの振れの測定、位相合わせの方法、タイヤの組み替え、バランス調整				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　三年次　探究③実習　駆動装置				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
33	タイヤの振れの測定、ホイールの振れの測定、位相合わせの方法、タイヤの組み替え、バランス調整				
34	タイヤの振れの測定、ホイールの振れの測定、位相合わせの方法、タイヤの組み替え、バランス調整				
35	タイヤの振れの測定、ホイールの振れの測定、位相合わせの方法、タイヤの組み替え、バランス調整				
36	タイヤの振れの測定、ホイールの振れの測定、位相合わせの方法、タイヤの組み替え、バランス調整				
37	共鳴によるこもり音の解析（排気管）				
38	共鳴によるこもり音の解析（排気管）				
39	共鳴によるこもり音の解析（排気管）				
40	共鳴によるこもり音の解析（排気管）				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　三年次　探究③実習　駆動装置				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
41	共鳴によるこもり音の解析（プロペラシャフトのアンバランス）				
42	共鳴によるこもり音の解析（プロペラシャフトのアンバランス）				
43	共鳴によるこもり音の解析（プロペラシャフトのアンバランス）				
44	共鳴によるこもり音の解析（プロペラシャフトのアンバランス）				
45	様々なエンジンの振動周波数の研究				
46	様々なエンジンの振動周波数の研究				
47	様々なエンジンの振動周波数の研究				
48	様々なエンジンの振動周波数の研究				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　三年次　探究③実習　駆動装置				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
49	1 級練習問題の解答と解説（周波数、振動騒音問題）				
50	1 級練習問題の解答と解説（周波数、振動騒音問題）				
51	1 級練習問題の解答と解説（周波数、振動騒音問題）				
52	実習内容の復習				
53	実習内容の復習				
54	実習内容の復習				
55	実技試験				
56	実技試験				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　三年次　探究③実習　駆動装置				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
57	実技試験				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　三年次　探究④実習　シャシ構造				
概要と目的	職場レベルの技術を身に付ける 作業の個人レベルでの体得				
担　当　者	鎌田　喜行	単位数	57 時限	区分	実習
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員がシャシ構造について教育を行う科目。				
講義対象	三年生	時　期	12月中旬～3月		
使用教材	プリント、一級自動車整備士シャシ電子制御装置、二級自動車シャシ、 HV 整備マニュアル、外部診断機、サーキット・テスタ				
到達目標	一級レベルの理解と自動車整備技術の体得				
成績評価	実技試験・出欠点・平常点　A評価:170～200点、B評価:140～169点、 C評価:120～139点を基準とする。				
授業計画					
1	導入、電動式パワー・ステアリング（EPS）概要				
2	EPS車　油圧式パワステ車　試乗、比較				
3	EPS　構成部品の確認				
4	EPS　構成部品の確認				
5	EPS　モード切り替えスイッチ操作　試乗				
6	EPS　モード切り替えスイッチの回路確認				
7	EPS　ステアリング装置取り外し時の留意事項				
8	EPS　ステアリング取り外し				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　三年次　探究④実習　シャシ構造				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
9	EPS　ステアリング取り外し				
10	EPS　ステアリング・コラム取り外し				
11	EPS　ステアリング・コラム取り外し				
12	EPS　ステアリング・コラム取り外し				
13	EPS　ステアリング・ギヤ・ボックスの取り外し				
14	EPS　ステアリング・ギヤ・ボックスの取り外し				
15	EPS　ステアリング・ギヤ・ボックスの取り付け				
16	EPS　ステアリング・コラム取り付け、中点値の確認				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　三年次　探究④実習　シャシ構造				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
17	トルクセンサの電圧変化の測定、中点値の確認、故障時の現象確認				
18	EPS　ステアリング取り付け				
19	EPS　試走、トータル・アライメント確認				
20	EPS　試走、トータル・アライメント確認				
21	EPS　警告灯点灯、車載故障診断装置の確認、コード読み取り				
22	EPS　警告灯点灯、車載故障診断装置の確認、コード読み取り				
23	EPS　警告灯点灯、車載故障診断装置の確認、コード読み取り				
24	EPS　中点値学習方法、ダイアグノーシス・コードの消去方法				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　三年次　探究④実習　シャシ構造				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
25	EPS　中点値学習方法、ダイアグノーシス・コードの消去方法				
26	EPS　ダイアグノーシス・コードの故障探究				
27	EPS　ダイアグノーシス・コードの故障探究				
28	EPS　ダイアグノーシス・コードの故障探究				
29	ABS　導入、概要　構成部品の確認　回路図				
30	ABS　論理信号センサの回路　故障診断				
31	ABS　リニア信号センサの回路　電圧変化　信号電圧整合確認				
32	ABS　周波数信号センサの回路　電圧変化　信号電圧整合確認				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　三年次　探究④実習　シャシ構造				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
33	ABS　周波数信号センサの回路　電圧変化　信号電圧整合確認				
34	ABS　周波数信号センサの回路　電圧変化　信号電圧整合確認				
35	ABS　アクチュエータの回路　回路点検　駆動電圧整合確認				
36	ABS　アクチュエータの回路　回路点検　駆動電圧整合確認				
37	ABS　アクチュエータの回路　回路点検　駆動電圧整合確認				
38	ABS　故障診断（一過性の故障時）				
39	ABS　故障診断（一過性の故障時）				
40	ABS　故障診断（継続性の異常時）				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　三年次　探究④実習　シャシ構造				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
41	ABS　故障診断（継続性の異常時）				
42	ABS　ダイアグノーシス・コードの読み取り、消去				
43	ABS　ダイアグノーシス・コードの読み取り、消去				
44	ABS　ブレーキの分解、組み付け、フルード交換・エア抜きの要点				
45	ABS　ブレーキの分解、組み付け、フルード交換・エア抜きの要点				
46	ABS　ブレーキの分解、組み付け、フルード交換・エア抜きの要点				
47	ハイブリッド車のフルード交換・エア抜きの要点（HV 整備マニュアル）				
48	ハイブリッド車のフルード交換・エア抜きの要点（HV 整備マニュアル）				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　三年次　探究④実習　シャシ構造				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
49	ハイブリッド車のフルード交換・エア抜きの要点（HV 整備マニュアル）				
50	一級問題　解答・解説				
51	一級問題　解答・解説				
52	実習内容復習				
53	実習内容復習				
54	実習内容復習				
55	実技試験				
56	実技試験				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　三年次　探究④実習　シャシ構造				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
57	実技試験				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　三年次　探究④実習　定期点検				
概要と目的	職場レベルの技術を身に付ける 作業の個人レベルでの体得				
担　当　者	鎌田　喜行	単位数	57 時限	区分	実習
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員が定期点検について教育を行う科目。				
講義対象	三年生	時　期	12月中旬～3月		
使用教材	自動車定期点検整備の手引、法令教材、法令教本、自動車検査ハンドブック、一級自動車整備士総合診断・環境保全・安全管理、プリント				
到達目標	一級レベルの理解と点検整備技術の体得				
成績評価	実技試験・出欠点・平常点　A評価:170～200点、B評価:140～169点、 C評価:120～139点を基準とする。				
授業計画					
1	導入、概要				
2	定期点検の概要、シビアコンディションの事例				
3	点検整備作業、調整作業、防錆塗装方法、定期交換部品の交換、検査ラインでの合否判定、車両清掃				
4	点検整備作業、調整作業、防錆塗装方法、定期交換部品の交換、検査ラインでの合否判定、車両清掃				
5	点検整備作業、調整作業、防錆塗装方法、定期交換部品の交換、検査ラインでの合否判定、車両清掃				
6	点検整備作業、調整作業、防錆塗装方法、定期交換部品の交換、検査ラインでの合否判定、車両清掃				
7	点検整備作業、調整作業、防錆塗装方法、定期交換部品の交換、検査ラインでの合否判定、車両清掃				
8	点検整備作業、調整作業、防錆塗装方法、定期交換部品の交換、検査ラインでの合否判定、車両清掃				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　三年次　探究④実習　定期点検				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
9	点検整備作業、調整作業、防錆塗装方法、定期交換部品の交換、検査ラインでの合否判定、車両清掃				
10	点検整備作業、調整作業、防錆塗装方法、定期交換部品の交換、検査ラインでの合否判定、車両清掃				
11	点検整備作業、調整作業、防錆塗装方法、定期交換部品の交換、検査ラインでの合否判定、車両清掃				
12	点検整備作業、調整作業、防錆塗装方法、定期交換部品の交換、検査ラインでの合否判定、車両清掃				
13	点検整備を実施した記録簿のまとめ、検査結果の確認、お客様への説明				
14	お客様への説明（総合診断の応酬話法を基に練習する）				
15	点検整備作業、調整作業、防錆塗装方法、定期交換部品の交換、検査ラインでの合否判定、車両清掃				
16	点検整備作業、調整作業、防錆塗装方法、定期交換部品の交換、検査ラインでの合否判定、車両清掃				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　三年次　探究④実習　定期点検				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
17	点検整備作業、調整作業、防錆塗装方法、定期交換部品の交換、検査ラインでの合否判定、車両清掃				
18	点検整備作業、調整作業、防錆塗装方法、定期交換部品の交換、検査ラインでの合否判定、車両清掃				
19	点検整備作業、調整作業、防錆塗装方法、定期交換部品の交換、検査ラインでの合否判定、車両清掃				
20	点検整備作業、調整作業、防錆塗装方法、定期交換部品の交換、検査ラインでの合否判定、車両清掃				
21	点検整備作業、調整作業、防錆塗装方法、定期交換部品の交換、検査ラインでの合否判定、車両清掃				
22	点検整備作業、調整作業、防錆塗装方法、定期交換部品の交換、検査ラインでの合否判定、車両清掃				
23	点検整備作業、調整作業、防錆塗装方法、定期交換部品の交換、検査ラインでの合否判定、車両清掃				
24	点検整備作業、調整作業、防錆塗装方法、定期交換部品の交換、検査ラインでの合否判定、車両清掃				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　三年次　探究④実習　定期点検				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					

授業計画	
25	点検整備作業、調整作業、防錆塗装方法、定期交換部品の交換、検査ラインでの合否判定、車両清掃
26	点検整備を実施した記録簿のまとめ、検査結果の確認、お客様への説明
27	お客様への説明（総合診断の応酬話法を基に練習する）
28	点検整備作業、調整作業、防錆塗装方法、定期交換部品の交換、検査ラインでの合否判定、車両清掃
29	点検整備作業、調整作業、防錆塗装方法、定期交換部品の交換、検査ラインでの合否判定、車両清掃
30	点検整備作業、調整作業、防錆塗装方法、定期交換部品の交換、検査ラインでの合否判定、車両清掃
31	点検整備作業、調整作業、防錆塗装方法、定期交換部品の交換、検査ラインでの合否判定、車両清掃
32	点検整備作業、調整作業、防錆塗装方法、定期交換部品の交換、検査ラインでの合否判定、車両清掃
伝達事項等	

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　三年次　探究④実習　定期点検				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
33	点検整備作業、調整作業、防錆塗装方法、定期交換部品の交換、検査ラインでの合否判定、車両清掃				
34	点検整備作業、調整作業、防錆塗装方法、定期交換部品の交換、検査ラインでの合否判定、車両清掃				
35	点検整備作業、調整作業、防錆塗装方法、定期交換部品の交換、検査ラインでの合否判定、車両清掃				
36	点検整備作業、調整作業、防錆塗装方法、定期交換部品の交換、検査ラインでの合否判定、車両清掃				
37	点検整備作業、調整作業、防錆塗装方法、定期交換部品の交換、検査ラインでの合否判定、車両清掃				
38	点検整備を実施した記録簿のまとめ、検査結果の確認、お客様への説明				
39	お客様への説明（総合診断の応酬話法を基に練習する）				
40	点検整備作業、調整作業、防錆塗装方法、定期交換部品の交換、検査ラインでの合否判定、車両清掃				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　三年次　探究④実習　定期点検				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
41	点検整備作業、調整作業、防錆塗装方法、定期交換部品の交換、検査ラインでの合否判定、車両清掃				
42	点検整備作業、調整作業、防錆塗装方法、定期交換部品の交換、検査ラインでの合否判定、車両清掃				
43	点検整備作業、調整作業、防錆塗装方法、定期交換部品の交換、検査ラインでの合否判定、車両清掃				
44	点検整備作業、調整作業、防錆塗装方法、定期交換部品の交換、検査ラインでの合否判定、車両清掃				
45	点検整備作業、調整作業、防錆塗装方法、定期交換部品の交換、検査ラインでの合否判定、車両清掃				
46	点検整備作業、調整作業、防錆塗装方法、定期交換部品の交換、検査ラインでの合否判定、車両清掃				
47	点検整備作業、調整作業、防錆塗装方法、定期交換部品の交換、検査ラインでの合否判定、車両清掃				
48	点検整備作業、調整作業、防錆塗装方法、定期交換部品の交換、検査ラインでの合否判定、車両清掃				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　三年次　探究④実習　定期点検				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
49	点検整備作業、調整作業、防錆塗装方法、定期交換部品の交換、検査ラインでの合否判定、車両清掃				
50	点検整備を実施した記録簿のまとめ、検査結果の確認、お客様への説明				
51	お客様への説明（総合診断の応酬話法を基に練習する）				
52	実習内容の復習、練習				
53	実習内容の復習、練習				
54	実習内容の復習、練習				
55	実技試験				
56	実技試験				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　三年次　探究④実習　定期点検				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
57	実技試験				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　三年次　探究④実習　電装品				
概要と目的	職場レベルの技術を身に付ける 作業の個人レベルでの体得				
担　当　者	鎌田　喜行	単位数	57 時限	区分	実習
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員が電装品について教育を行う科目。				
講義対象	三年生	時　期	12月中旬～3月		
使用教材	一級自動車整備士シャシ電子制御装置、二級シャシ編、プリント				
到達目標	一級レベルの理解と自動車整備技術の体得				
成績評価	実技試験・出欠点・平常点　A評価:170～200点、B評価:140～169点、 C評価:120～139点を基準とする。				
授業計画					
1	導入、概要				
2	エアコン部品の名称及び取り付け位置及び役割の確認（エアコンユニット確認）				
3	エアコン部品の名称及び取り付け位置及び役割の確認（エアコンユニット確認）				
4	エアコン部品の名称及び取り付け位置及び役割の確認（エアコンユニット確認）				
5	冷媒量の確認方法、ガス抜き、真空引き、充填方法の確認				
6	冷媒量の確認方法、ガス抜き、真空引き、充填方法の確認				
7	冷媒量の確認方法、ガス抜き、真空引き、充填方法の確認				
8	冷媒量の確認方法、ガス抜き、真空引き、充填方法の確認				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　三年次　探究④実習　電装品				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
9	冷媒量の確認方法、ガス抜き、真空引き、充填方法の確認				
10	冷媒量の確認方法、ガス抜き、真空引き、充填方法の確認				
11	エアコン・ガス量及びガス圧から推測する故障診断				
12	エアコン・ガス量及びガス圧から推測する故障診断				
13	エアコン・ガス量及びガス圧から推測する故障診断				
14	エアコン・ガス量及びガス圧から推測する故障診断				
15	オートエアコンの作動確認、自己診断方法、コード消去条件の確認				
16	オートエアコンの作動確認、自己診断方法、コード消去条件の確認				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　三年次　探究④実習　電装品				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
17	オートエアコンの作動確認、自己診断方法、コード消去条件の確認				
18	オートエアコンの作動確認、自己診断方法、コード消去条件の確認				
19	オートエアコンの作動確認、自己診断方法、コード消去条件の確認				
20	オートエアコンのセンサの回路、制御電圧及び作動の確認				
21	オートエアコンのセンサの回路、制御電圧及び作動の確認				
22	オートエアコンのセンサの回路、制御電圧及び作動の確認				
23	オートエアコンのセンサの回路、制御電圧及び作動の確認				
24	オートエアコンのセンサの回路、制御電圧及び作動の確認				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　三年次　探究④実習　電装品				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
25	オートエアコンのセンサの回路、制御電圧及び作動の確認				
26	オートエアコンのアクチュエータの回路、電圧、作動の確認				
27	オートエアコンのアクチュエータの回路、電圧、作動の確認				
28	オートエアコンのアクチュエータの回路、電圧、作動の確認				
29	オートエアコンのアクチュエータの回路、電圧、作動の確認				
30	オートエアコンのアクチュエータの回路、電圧、作動の確認				
31	オートエアコンのアクチュエータの回路、電圧、作動の確認				
32	オートエアコンのまとめ				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　三年次　探究④実習　電装品				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
33	ワイパ回路の研究、点検方法、部品構成、脱着方法				
34	ワイパ回路の研究、点検方法、部品構成、脱着方法				
35	ワイパ回路の研究、点検方法、部品構成、脱着方法				
36	ワイパ回路の研究、点検方法、部品構成、脱着方法				
37	ワイパ回路の研究、点検方法、部品構成、脱着方法				
38	ワイパ回路の研究、点検方法、部品構成、脱着方法				
39	カーオーディオの脱着方法及び作動端子の確認				
40	カーオーディオの脱着方法及び作動端子の確認				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　三年次　探究④実習　電装品				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
41	カーオーディオの脱着方法及び作動端子の確認				
42	カーオーディオの脱着方法及び作動端子の確認				
43	カーナビゲーションの取付方法及び作動端子の確認				
44	カーナビゲーションの取付方法及び作動端子の確認				
45	カーナビゲーションの取付方法及び作動端子の確認				
46	カーナビゲーションの取付方法及び作動端子の確認				
47	カーナビゲーションの取付方法及び作動端子の確認				
48	その他電装部品の構造、回路の研究				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　三年次　探究④実習　電装品				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
49	その他電装部品の構造、回路の研究				
50	その他電装部品の構造、回路の研究				
51	その他電装部品の構造、回路の研究				
52	実習内容の復習				
53	実習内容の復習				
54	実習内容の復習				
55	実技試験				
56	実技試験				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　三年次　探究④実習　電装品				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
57	実技試験				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　四年次後期　エンジン新技術				
概要と目的	国家試験レベルの知識を身に付ける				
担　当　者	廣間　和彦	単位数	11 時限	区分	学科
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員がエンジン新技術について教育を行う科目。				
講義対象	四年生	時　期	9月下旬～3月		
使用教材	一級自動車整備士自動車新技術、練習問題集、プリント				
到達目標	一級レベルの理解と知識習得				
成績評価	期末試験・出欠点・平常点　A評価:185～200点、B評価:170～184点、C評価:160～169点を基準とする。				
授業計画					
1、2	ハイブリッド車　P11～36				
3、4	圧縮天然ガス(CNG)自動車P37～64				
5、6	筒内噴射式ガソリン・エンジンP65～80				
7、8	コモン・レール式高圧燃料噴射システムP81～89				
9、10	練習問題				
11	期末試験				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　四年次後期　エンジン整備技術				
概要と目的	国家試験レベルの知識を身に付ける				
担　当　者	廣間　和彦	単位数	11 時限	区分	学科
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員がエンジン整備技術について教育を行う科目。				
講義対象	四年生	時　期	9月下旬～3月		
使用教材	一級自動車整備士エンジン電子制御装置、練習問題集、プリント				
到達目標	一級レベルの理解				
成績評価	期末試験・出欠点・平常点　A評価:185～200点、B評価:170～184点、C評価:160～169点を基準とする。				
授業計画					
1	概要、G/E、D/E　P67～72、電源回路　P73～75				
2～4	センサ　P76～119				
5～8	アクチュエータ　P120～204				
9	通信信号、CAN通信システム　P205～229				
10	ECUの制御（制御モード）　P230～255				
11	期末試験				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　四年次後期　シャシ新技術				
概要と目的	国家試験レベルの知識を身に付ける				
担　当　者	廣間　和彦	単位数	11 時限	区分	学科
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員がシャシ新技術について教育を行う科目。				
講義対象	四年生	時　期	9月下旬～3月		
使用教材	一級自動車整備士自動車新技術、練習問題集、プリント				
到達目標	一級レベルの理解と知識習得				
成績評価	期末試験・出欠点・平常点　A評価:185～200点、B評価:170～184点、C評価:160～169点を基準とする。				
授業計画					
1～3	無段変速機(CVT)　P93～111				
4～6	車両安定制御装置　P113～136				
7～9	SRSエア・バッグ及びプリテンショナ・シート・ベルト　P137～176				
10	練習問題				
11	期末試験				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　四年次後期　シャシ整備技術				
概要と目的	国家試験レベルの知識を身に付ける				
担　当　者	廣間　和彦	単位数	11 時限	区分	学科
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員がシャシ整備技術について教育を行う科目。				
講義対象	四年生	時　期	9月下旬～3月		
使用教材	一級自動車整備士シャシ電子制御装置、練習問題集、プリント				
到達目標	一級レベルの理解				
成績評価	期末試験・出欠点・平常試験				
授業計画					
1、2	電子制御式オートマチック・トランスミッション　P9～68				
3、4	電動式パワー・ステアリング　P87～138				
5、6	アンチロック・ブレーキ・システム　P147～188				
7、8	振動・騒音　P283～342				
9、10	練習問題				
11	期末試験				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　四年次後期　安全管理				
概要と目的	国家試験レベルの知識を身に付ける				
担　当　者	廣間　和彦	単位数	7 時限	区分	学科
講義対象	四年生	時　期	9月下旬～3月		
実務実習	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員が安全管理について教育を行う科目。				
使用教材	一級自動車整備士総合診断・環境保全・安全管理、練習問題集、プリント				
到達目標	一級レベルの理解				
成績評価	期末試験・出欠点・平常点　A評価:185～200点、B評価:170～184点、C評価:160～169点を基準とする。				
授業計画					
1	安全管理の意義　P129、災害のあらまし（ハインリッヒ）　P131～134				
2	災害防止　ルール～作業上注意　P135～140				
3	災害防止　防火の知識　P140～142				
4	災害防止　危険物の取り扱い　P142～143				
5	災害防止　応急手当　P143～144				
6	練習問題				
7	期末試験				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　四年次後期　環境保全				
概要と目的	国家試験レベルの知識を身に付ける				
担　当　者	廣間　和彦	単位数	7 時限	区分	学科
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員が環境保全について教育を行う科目。				
講義対象	四年生	時　期	9月下旬～3月		
使用教材	一級自動車整備士総合診断・環境保全・安全管理、練習問題集、プリント				
到達目標	一級レベルの理解				
成績評価	期末試験・出欠点・平常点　A評価:185～200点、B評価:170～184点、C評価:160～169点を基準とする。				
授業計画					
1	地球規模の環境保全／環境問題　P103～105				
2	資源の有効活用（3R）　P106～108				
3	産廃処理の影響と対応　産業廃棄物　P109～111				
4	産廃処理の影響と対応　使用済自動車　P112～120				
5	整備事業場などにおける環境保全　P121～125				
6	練習問題				
7	期末試験				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　四年次後期　故障診断				
概要と目的	国家試験レベルの知識を身に付ける				
担　当　者	廣間　和彦	単位数	23 時限	区分	学科
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員が故障診断について教育を行う科目。				
講義対象	四年生	時　期	9月下旬～3月		
使用教材	エンジン電子制御装置、シャシ電子制御装置				
到達目標	一級レベルの理解				
成績評価	期末試験・出欠点・平常点　A評価:185～200点、B評価:170～184点、C評価:160～169点を基準とする。				
授業計画					
1～4	エンジン電制高度故障診断技術　エンジン電制P257～283				
5～8	電制式AT高度故障診断技術　シャシ電制P69～86				
9～12	電動式PS高度故障診断技術　シャシ電制P139～145				
13～16	ABS高度故障診断技術　シャシ電制P189～197				
17～20	振動・騒音高度故障診断技術　シャシ電制P343～367				
21	練習問題				
22	練習問題				
23	期末試験				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　四年次後期　自動車検査				
概要と目的	国家試験レベルの知識を身に付ける				
担　当　者	廣間　和彦	単位数	7時限	区分	学科
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員が自動車検査について教育を行う科目。				
講義対象	四年生	時　期	9月下旬～3月		
使用教材	法令教材、法令教本、練習問題集、プリント				
到達目標	一級レベルの理解				
成績評価	期末試験・出欠点・平常点　A評価:185～200点、B評価:170～184点、C評価:160～169点を基準とする。				
授業計画					
1	第1条～6条　P87～94、第8条～17条の2　P94～112				
2	第18条～29条　P113～135、第30条～31条　P135～143				
3～5	第32条～42条　P143～185				
6	第43条～53条　P185～197、NOx・PM法　P198～207				
7	期末試験				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　四年次後期　自動車法令				
概要と目的	国家試験レベルの知識を身に付ける				
担　当　者	廣間　和彦	単位数	7時限	区分	学科
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員が自動車法令について教育を行う科目。				
講義対象	四年生	時　期	9月下旬～3月		
使用教材	法令教材、法令教本、練習問題集、プリント				
到達目標	一級レベルの理解				
成績評価	期末試験・出欠点・平常点　A評価:185～200点、B評価:170～184点、C評価:160～169点を基準とする。				
授業計画					
1	第1条～3条　P20～23				
2	第4条～34条　P23～33				
3～4	第40条～55条　P33～41、71～86				
5	第58条～71条の2　P43～52				
6	第77条～99条の2　P53～64、P67～70				
7	期末試験				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　四年次後期　総合診断				
概要と目的	国家試験レベルの知識を身に付ける				
担　当　者	廣間　和彦	単位数	4 時限	区分	学科
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員が総合診断について教育を行う科目。				
講義対象	四年生	時　期	9月下旬～3月		
使用教材	一級自動車整備士総合診断・環境保全・安全管理、口述問題と解説、プリント				
到達目標	一級レベルの理解				
成績評価	期末試験・出欠点・平常点　A評価:185～200点、B評価:170～184点、C評価:160～169点を基準とする。				
授業計画					
1	自動車整備に関する総合診断　P9～25				
2	自動車整備に関する総合診断　法令などの運用と活用　P26～42				
3	応酬話法　P43～99				
4	期末試験				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　四年次後期　電気･電子回路				
概要と目的	国家試験レベルの知識を身に付ける				
担　当　者	廣間　和彦	単位数	8 時限	区分	学科
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員が電気･電子回路について教育を行う科目。				
講義対象	四年生	時　期	9月下旬～3月		
使用教材	一級自動車整備士エンジン電子制御装置、練習問題集、プリント				
到達目標	一級レベルの理解				
成績評価	期末試験･出欠点･平常点　A評価:185～200点、B評価:170～184点、C評価:160～169点を基準とする。				
授業計画					
1	電気回路　P7～24				
2～5	サーキット･テスタの活用　P24～52				
6	オシロスコープの活用　P52～59				
7	外部診断機の活用　P60～66				
8	期末試験				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜学科＞　四年次後期　電装品整備技術				
概要と目的	国家試験レベルの知識を身に付ける				
担　当　者	廣間　和彦	単位数	7 時限	区分	学科
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員が電装品整備技術について教育を行う科目。				
講義対象	四年生	時　期	9月下旬～3月		
使用教材	一級自動車整備士シャシ電子制御装置、練習問題集、プリント				
到達目標	一級レベルの理解				
成績評価	期末試験・出欠点・平常点　A評価:185～200点、B評価:170～184点、C評価:160～169点を基準とする。				
授業計画					
1、2	オート・エア・コンディショナ概要　P199、センサ　P202～221				
3、4	アクチュエータ　P222～268				
5、6	ECU　P269～272、高度故障診断技術　P273～281				
7	期末試験				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　四年次　実務①実習　故障原因探究Ⅰ				
概要と目的	職場レベルの技術を身に付ける 現場レベルの作業の実施				
担　当　者	廣間　和彦	単位数	75 時限	区分	実習
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員が故障原因探究Ⅰについて教育を行う科目。				
講義対象	四年生	時　期	4月～6月上旬		
使用教材	車両、ベンチ・エンジン、外部診断機、サーキットテスタ、サウンドスコープほか テキスト「エンジン電制」、問題集、プリント				
到達目標	エンジン電子制御装置　故障原因探究〔高度故障診断技術〕の習得				
成績評価	期末試験・出欠点・平常点　A評価:170～200点、B評価:140～169点、 C評価:120～139点を基準とする。				

授業計画

1～12	診断の基本、診断の進め方、再現手法　P257～261
13～24	ECU端子電圧の観測
25～36	外部診断機によるECUデータ観測（冷間、温間）
37～42	運転制御モード　P230～255
43～51	警告灯点灯時の故障診断　センサ　P262～274
52～60	警告灯点灯時の故障診断　アクチュエータ　P274～276
61～63	警告灯無点灯時の診断　テスタ、外部診断機の活用　P276～279
64～66	O_2センサ信号と空燃比制御データを活用した故障診断
伝達事項等	

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　四年次　実務①実習　故障原因探究Ⅰ				
概要と目的					
担　当　者		単位数		区分	
講義対象		時　期			
使用教材					
到達目標					
成績評価					
授業計画					
67～69	CAN通信回路の故障診断				
70～72	問題演習と解説				
73～75	実技試験				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　四年次　実務①実習　総合診断Ⅰ				
概要と目的	職場レベルの技術を身に付ける 現場レベルの作業の実施				
担　当　者	廣間　和彦	単位数	39 時限	区分	実習
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員が総合診断Ⅰについて教育を行う科目。				
講義対象	四年生	時　期	4月～6月上旬		
使用教材	テキスト「総合診断」、「一級口述問題と解説」				
到達目標	総合診断　応酬話法の習得				
成績評価	期末試験・出欠点・平常点　A評価:170～200点、B評価:140～169点、 C評価:120～139点を基準とする。				
授業計画					
1～3	口述試験について　問題集　P2～29				
4～6	接客手法　P10～25				
7～12	アドバイザーの説明知識　P26～46				
13～15	応酬話法　P47～99				
16～18	問診　P16～17				
19～36	演習　口述試験過去問題				
37～39	実技試験				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　四年次　実務①実習　定期点検Ⅰ				
概要と目的	職場レベルの技術を身に付ける 現場レベルの作業の実施				
担　当　者	廣間　和彦	単位数	87 時限	区分	実習
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員が定期点検Ⅰについて教育を行う科目。				
講義対象	四年生	時　期	4月～6月上旬		
使用教材	車両、テキスト「法令教材、教本」「定期点検の手引き」「総合診断」				
到達目標	自動車点検整備の習得				
成績評価	期末試験・出欠点・平常点　A評価:170～200点、B評価:140～169点、 C評価:120～139点を基準とする。				
授業計画					
1～3	整備計画、見積もり、部品発注　総合診断P10～16				
4～6	下回り洗車				
7～12	点検基準（別表）　法令教材P37、73～86				
	自動車検査基準				
13～51	点検作業要領と判定　定点手引きP33～160				
	定期交換部品　定点手引きP16				
	厳しい使われ方　定点手引きP16～19				
	オイル漏れと判定　定点手引きP30				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　四年次　実務①実習　定期点検Ⅰ				
概要と目的	職場レベルの技術を身に付ける 現場レベルの作業の実施				
担　当　者	廣間　和彦	単位数	87 時限	区分	実習
講義対象	四年生	時　期	4月～6月上旬		
使用教材	テキスト「法令教材」「定期点検の手引き」				
到達目標	自動車の点検整備				
成績評価	実技試験・出欠点・平常試験・レポート				
授業計画					
52～75	点検（分解、指定）整備記録簿と記載事項				
	点検整備記録簿の記入				
	多頻度作業　実践整備				
	多頻度作業　実践整備				
	多頻度作業　実践整備				
76～78	下回り塗装				
79～84	納車整備　洗車、室内清掃				
85～87	実技試験				
伝達事項等					

校長	所　　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　四年次　実務②実習　体験実習（インターンシップ）				
概要と目的	自動車整備工場の業務の流れを学ぶ				
担　当　者	廣間　和彦	単位数	210　時	区分	実習
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員（インターンシップ先の講師または技術者）が体験実習について教育を行う科目。				
講義対象	四年生	時　期	6月中旬～8月		
使用教材					
到達目標	自動車の点検整備、故障原因探究、総合診断の実務の体験				
成績評価	期末試験・出欠点・平常点　A評価：170～200点、B評価：140～169点、C評価：120～139点を基準とする。				
授業計画					
1～210	体験実習				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　四年次　実務③実習　故障原因探究Ⅱ				
概要と目的	職場レベルの技術を身に付ける 体験実習の弱点克服				
担　当　者	廣間　和彦	単位数	27 時限	区分	実習
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員が故障原因探求Ⅱについて教育を行う科目。				
講義対象	四年生	時　期	9月～10月		
使用教材	テキスト「シャシ電制」、練習問題集				
到達目標	故障原因探究〔AT、EPS、ABS電制の高度故障診断技術〕の体得				
成績評価	期末試験・出欠点・平常点　A評価：170～200点、B評価：140～169点、 C評価：120～139点を基準とする。				
授業計画					
1、2	故障診断技術　進め方　P69～72				
	再現手法　P75				
3～5	AT電子制御装置の故障診断　警告灯、異常コード　P73、74				
	系統別故障診断　P76～83				
	車載故障診断装置に表示されない不具合の故障診断　P84～86				
6～7	EPS電子制御装置の故障診断　警告灯　P139～140				
8～10	故障コード表と警報中の制御　P141				
	故障コード別故障診断、コードを持たない故障診断　P141～145				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　四年次　実務③実習　故障原因探究Ⅱ				
概要と目的	職場レベルの技術を身に付ける 体験実習の弱点克服				
担　当　者	廣間　和彦	単位数	27 時限	区分	実習
講義対象	四年生	時　期	9月～10月		
使用教材	テキスト「シャシ電制」				
到達目標	故障原因探究				
成績評価	実技試験・出欠点・平常試験・レポート				
授業計画					
	車載故障診断装置に表示されない不具合の故障診断　P145				
11～12	ABS電子制御装置の故障診断　警告灯　P189～190				
13～15	故障コード表と検出条件　P191				
	故障コード別故障診断、コードを持たない故障診断　P192～196				
	車載故障診断装置に表示されない不具合の故障診断　P197				
16～17	オートエアコン故障診断、故障診断表　P274				
18～20	オートエアコン制御回路　P201				
	コード別故障診断　P274～281				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　四年次　実務③実習　故障原因探究Ⅱ				
概要と目的	職場レベルの技術を身に付ける 体験実習の弱点克服				
担　当　者	廣間　和彦	単位数	27 時限	区分	実習
講義対象	四年生	時　期	9月～10月		
使用教材	テキスト「シャシ電制」				
到達目標	故障原因探究				
成績評価	実技試験・出欠点・平常試験・レポート				
授業計画					
	車載故障診断装置に表示されない不具合の故障診断　P281				
21～24	振動・騒音の故障診断　P343				
	不具合現象の分類　P347				
	故障診断方法　P348～367				
25～27	実技試験				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　四年次　実務③実習　総合診断Ⅱ				
概要と目的	職場レベルの技術を身に付ける 体験実習の弱点克服				
担　当　者	廣間　和彦	単位数	57 時限	区分	実習
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員が総合診断Ⅱについて教育を行う科目。				
講義対象	四年生	時　期	9月～10月		
使用教材	テキスト「総合診断」、「一級口述問題と解説」				
到達目標	総合診断の国家試験レベルの習得				
成績評価	期末試験・出欠点・平常点　A評価:170～200点、B評価:140～169点、 C評価:120～139点を基準とする。				
授業計画					
1～6	口述試験受験要領				
7～12	問診技術　必須質問事項、不具合現象に対応した問診				
13～18	聞き取りによる故障原因の推定、推定理由と点検箇所の説明				
19～24	修理内容説明、交換部品説明、記録簿説明				
25～30	機能・役目の説明、基準値の説明				
31～54	質問事項に対する回答				
55～57	実技試験				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　四年次　実務③実習　定期点検Ⅱ				
概要と目的	職場レベルの技術を身に付ける 体験実習の弱点克服				
担　当　者	廣間　和彦	単位数	123　時	区分	実習
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員が定期点検Ⅱについて教育を行う科目。				
講義対象	四年生	時　期	9月～10月		
使用教材	テキスト「法令教材」、「定期点検整備の手引き」、練習問題集				
到達目標	自動車の点検整備の習得				
成績評価	期末試験・出欠点・平常点　A評価:170～200点、B評価:140～169点、 C評価:120～139点を基準とする。				
授業計画					
1～105	道路運送車両の保安基準と数値				
106～111	保安基準と適合性				
112～117	検査方法と測定値の判定				
118～120	自動車NOx、PM法				
121～123	実技試験				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　四年次　実務④実習　故障原因探究Ⅲ				
概要と目的	職場レベルの技術を身に付ける 国家試験レベルの知識を身に付ける				
担　当　者	廣間　和彦	単位数	63 時限	区分	実習
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員が故障原因探求Ⅲについて教育を行う科目。				
講義対象	四年生	時　期	11月～2月		
使用教材	一級テキスト、練習問題集、プリント				
到達目標	故障原因探究〔総合問題〕の国家試験レベルの習得				
成績評価	期末試験・出欠点・平常点　A評価:170～200点、B評価:140～169点、 C評価:120～139点を基準とする。				
授業計画					
1～60	自動車新技術　演習				
	エンジン電子制御装置　演習				
	シャシ電子制御装置　演習				
	総合診断・環境保全・安全管理　演習				
	法令　演習				
61～63	実技試験				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	あり

シラバス　自動車整備　科　　一級自動車整備士　コース

講　義　名	＜実習＞　四年次　実務④実習　故障原因探究Ⅳ				
概要と目的	職場レベルの技術を身に付ける 国家試験レベルの知識を身に付ける				
担　当　者	廣間　和彦	単位数	231　時	区分	実習
実務経験	カーディーラー等の整備工場において自動車整備の実務を経験した教員が故障原因探求Ⅳについて教育を行う科目。				
講義対象	四年生	時　期	11月～2月		
使用教材	一級テキスト、問題集、プリント				
到達目標	故障原因探究〔総合問題〕の国家試験レベルの習得				
成績評価	期末試験・出欠点・平常点　A評価:170～200点、B評価:140～169点、 C評価:120～139点を基準とする。				
授業計画					
1～228	自動車新技術　演習				
	エンジン電子制御装置　演習				
	シャシ電子制御装置　演習				
	総合診断・環境保全・安全管理　演習				
	法令　演習				
229～231	実技試験				
伝達事項等					

校長	所　属	
	学科長	担当者

授業資格	実務経験
学科実習 あり	あり